八幡市観光基本計画

創りつながる　文化観光のまち　やわた
～人と自然、「神と仏」に出会うまち～

2024 ～ 2028 年度

八　幡　市

令和 6 (2024) 年 3 月

八幡市観光基本計画を策定しました。

多くの方々のご協力により、このたび八幡市観光基本計画を策定することができました。

この計画は、平成３１年３月に策定した前計画を踏まえ、第５次八幡市総合計画の施策「幸せと出逢う観光まちづくり」の実現に向け、取り組む内容を示しています。

八幡市は素晴らしい自然と歴史ある文化資源、そして近畿交通網の要衝として、魅力や活力あふれるまちづくりの可能性を十分に秘めています。この豊かな資源と立地ポテンシャルを活かした観光振興に取り組み、経済の好循環と地域の活性化につなげるべく、市民の皆様と協働した「チームやわた」で一丸となってまちづくりを進めてまいりますので、ご理解とご協力をお願いいたします。

計画の策定にあたりまして、八幡市観光基本計画推進協議会ならびに同ワーキングチームの委員各位をはじめ、貴重なご意見、ご提言をいただきました皆様に、心から厚くお礼申し上げます。

令和６年３月

八幡市長　川田翔子

目　次

第１章　計画の目的と期間 1
１．計画策定の背景と目的 1
２．計画の位置付け 2
３．計画の期間 2

第２章　八幡市を取り巻く現状と課題 3
１．観光の現状 3
２．八幡市の観光の現状と評価 11
３．八幡市観光振興の課題の整理 25

第３章　基本理念と方針 26
１．基本理念 26
２．基本方針 28
３．指標設定 31

第４章　アクションプラン 32
基本方針１　「神仏習合の聖地」の継承と創造 33
基本方針２　東高野街道の保存・整備 36
基本方針３　川辺を活かしたまちづくり 39
基本方針４　観光からの産業創造 42
基本方針５　観光推進力の強化 45

第５章　計画の実現に向けて 48
１．各組織等の役割 48
２．推進体制の確立 49

附属資料 51

第１章　計画の目的と期間

本市は国宝かつ史跡である石清水八幡宮をはじめとする数多くの歴史資産を有し、松花堂昭乗が紡いだ八幡の茶文化や芸術、背割堤の桜や流れ橋などの名所、三川合流域や男山などの自然も豊富にありながら、豊かな資源を観光産業の創出・誘導に繋げられていないことが長年の課題となっています。

2019（平成 31）年３月に策定した前計画では、石清水八幡宮と松花堂庭園の魅力向上を中心に「文化観光の創造」を掲げ、まずは発信や活用などソフト事業を中心とした展開によりインバウンド需要を取り込むことで通年の観光客を増やし、市内外の事業者の参入を誘発することで観光消費額の向上を目指しました。

しかし、新型コロナウイルス感染症拡大前後での観光ニーズの変化もあり、石清水八幡宮周辺で店舗や宿泊施設の閉鎖や休業が発生するなど、計画の見直しが必要となっています。

このため、昨年度は石清水八幡宮を中心に新たな文化観光まちづくりを図る戦略として「歴史的資源を活用した文化観光まちづくり未来戦略」を策定し、本市観光の目指す姿を描きました。そして、失われつつある歴史的資源の保全に加え、まちの魅力向上および観光による産業の創出を持続的に図る官民連携の仕組みづくりの検討も併せて進めているところです。

以上の背景を踏まえ、前計画の検証を行いつつ、本市観光の課題を新たに整理して、歴史的資源と自然資源の活用を基本に観光産業の広がりを目指す、文化観光によるまちづくりを推進する５年間（令和６年度～10 年度まで）の観光基本計画を策定します。

2．計画の位置付け

本計画は、2018（平成 30）年３月に策定した「第５次八幡市総合計画」を上位計画としています。第５次八幡市総合計画の将来都市像「みんなで創って好きになる　健やかで心豊かに暮らせるまち」の実現に向け、基本目標のひとつ「自然と歴史と文化が織りなす『観幸のまち　やわた』」をもとに、方向性や主な取組を設定しています。

本計画は、さらに「観光のまちの創生」を戦略の柱として掲げた「八幡市まち・ひと・しごと創生総合戦略」（第２期）や、その他の関連計画との整合を図りながら、官民が一体となった観光振興の定着を推進します。

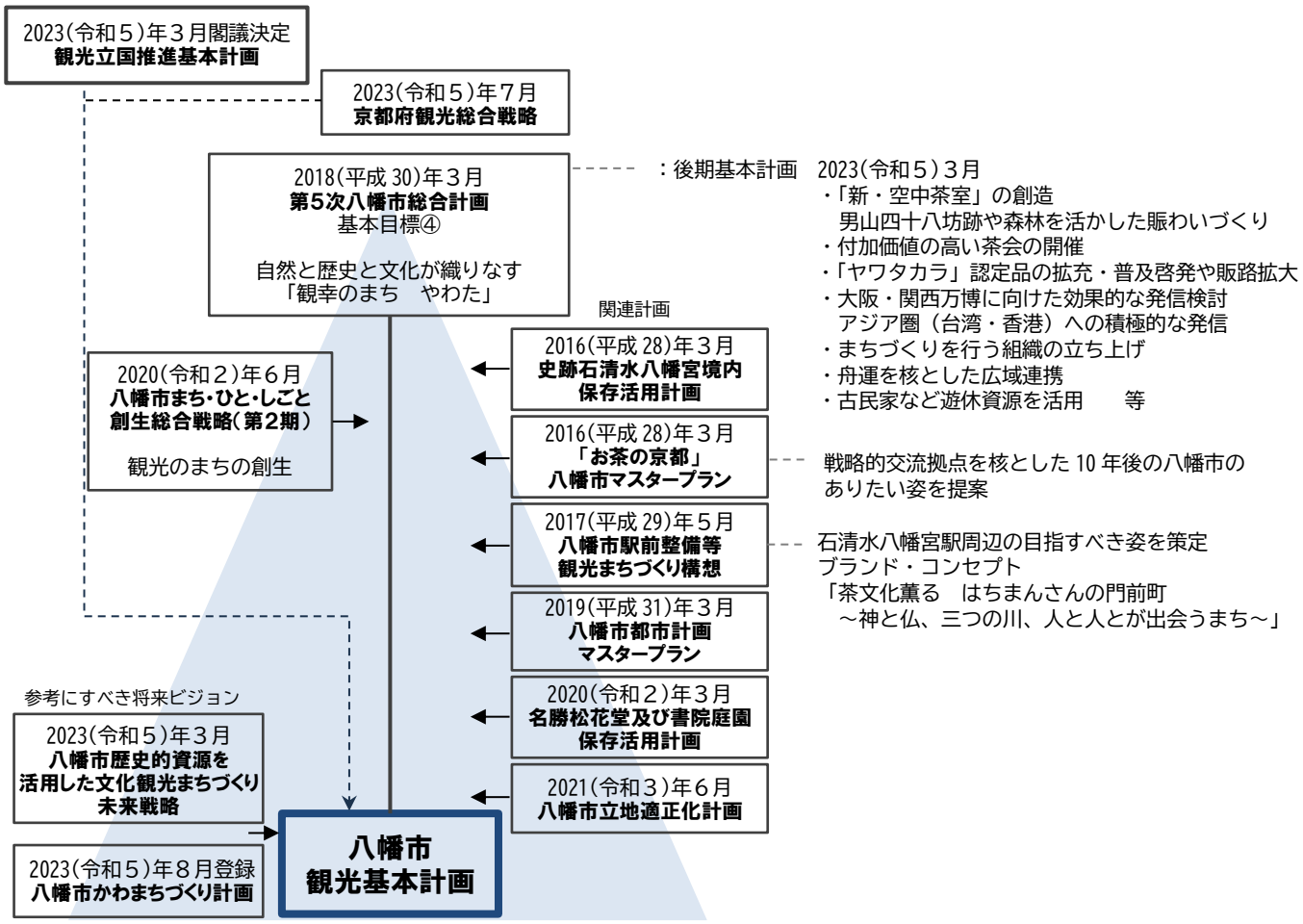


図 1　上位計画・関連計画等の整理

3．計画の期間

本計画は、2024（令和６）年度から 2028（令和 10）年度までの５年間とし、アクションプランは、「第５次八幡市総合計画」実施計画の進捗管理ともリンクさせ、点検を行います。

計画は５年後に見直しを行いますが、観光をめぐる情勢は短期間に変化することから、ＰＤＣＡサイクルを基本に、関係者と進捗状況を共有し、適時柔軟に計画を見直します。

第２章　八幡市を取り巻く現状と課題

１．観光の現状

（１）国内の概況

①国の政策と現状

国の観光政策

国は 2007（平成 19）年施行の観光立国推進基本法以降、観光による経済効果を国の経済基盤にする施策を進めてきましたが、新型コロナウイルス感染症拡大で大きく後退しました。

そこで 2023（令和５）年３月、観光立国の持続可能な形での復活に向け「観光立国推進基本計画」（2023-2025 年）が閣議決定されました。新型コロナウイルス感染症の第５類への移行と円安もあって、インバウンドを含む観光活動は急速に回復しつつあります。日本を代表する観光地・京都市に隣接する本市は、国の施策を取り込み、展開することが大切です。

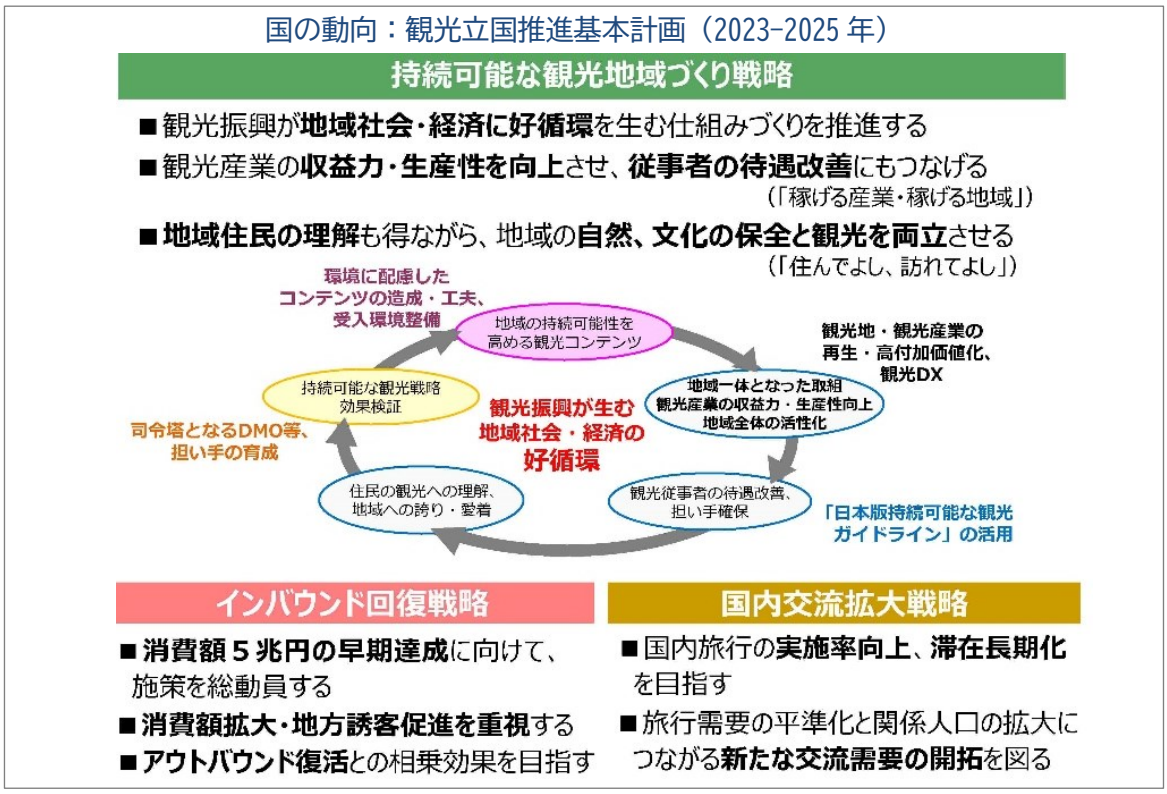


図 2　観光立国推進基本計画概要　（令和５年３月 31 日閣議決定）

観光庁では、「歴史的資源を活用した観光まちづくり事業」に取り組んでおり、2023（令和５）年３月閣議決定の「観光立国推進基本計画」において、官民が連携して古民家などの歴史的資源を観光まちづくりの核として再生・活用する取組について、2025（令和７）年度までに 300 地域に拡大する目標を掲げています。

また、2020（令和２）年に施行された「文化観光推進法」は、文化の振興を、観光の振興と地域の活性化につなげ、これによる経済効果が文化の振興に再投資される好循環を創出することを目的とするものです。2023（令和５）年には文化庁の京都府移転も実現しており、国宝・重要文化財や史跡など文化財が豊富な本市では、この法律を活かした取組をすることが重要です。

訪日外国人旅行者の回復を期待

訪日外国人旅行者は 2011（平成 23）年以降増加傾向が見られ、2019（令和元）年には消費額も過去最高を記録しましたが、新型コロナウイルス感染症拡大により 2020（令和２）年以降激減しました（図３、図４）。2022（令和４）年 10 月の水際措置緩和後、回復し、2023（令和５）年上半期は 1,000 万人を超えました。国際観光客数の回復の見通しでは、「2024（令和６）年までに 2019 年水準に回復する」と回答したのは、アジア太平洋以外の地域では 80%程度以上、アジア太平洋も 60%となっています（図５）。

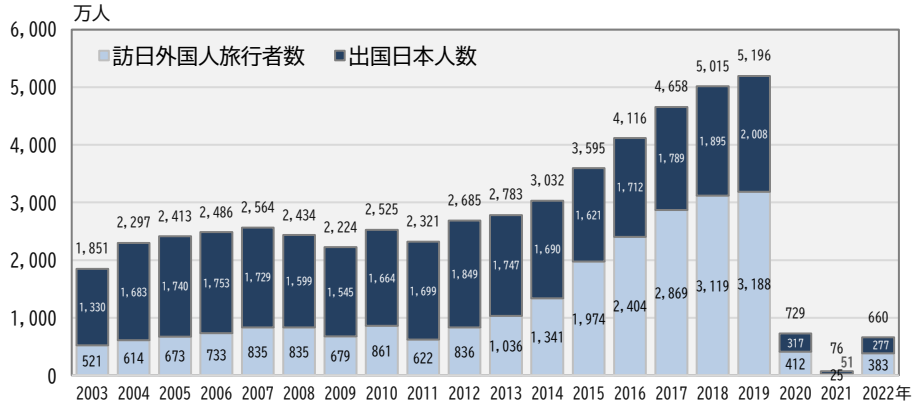


図 3　訪日外国人旅行者数・出国日本人数の推移

資料: 日本政府観光局(JNTO)

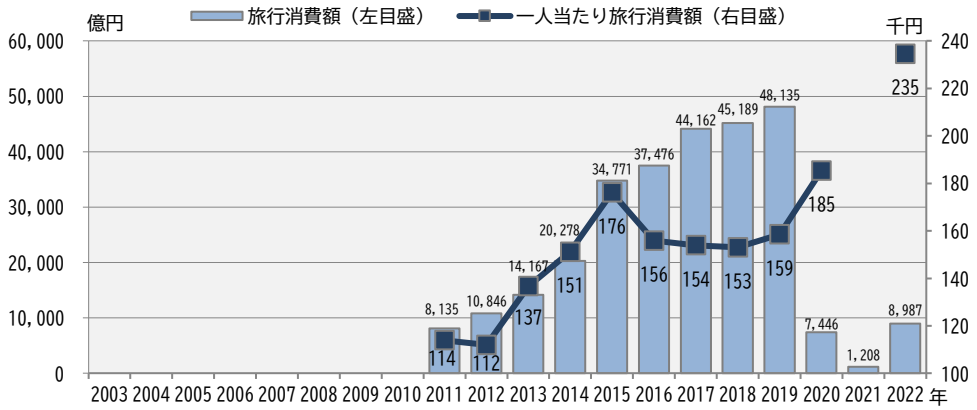


図 4　訪日外国人旅行者による消費の推移

資料: 観光庁「訪日外国人消費動向調査」

新型コロナウイルス感染症の影響により、2020 年 4-6 月期から 2021 年 7-9 月期は調査を中止し、2020 年及び 2021 年年間値については、1 四半期の結果を利用した試算を行った。このため、2019 年以前の数値との比較には留意が必要である。（2021 年は一人あたり旅行消費額は公表無。）新型コロナウイルス感染症の影響により、2022 年は 1-3 月期、4-6 期、7-9 月期を試算値として公表した。そのため、年間の値についても試算値であることに留意が必要である。本調査は 2011 年から開始。円安の影響もうけた 2015 年は一人あたり旅行消費額上昇。

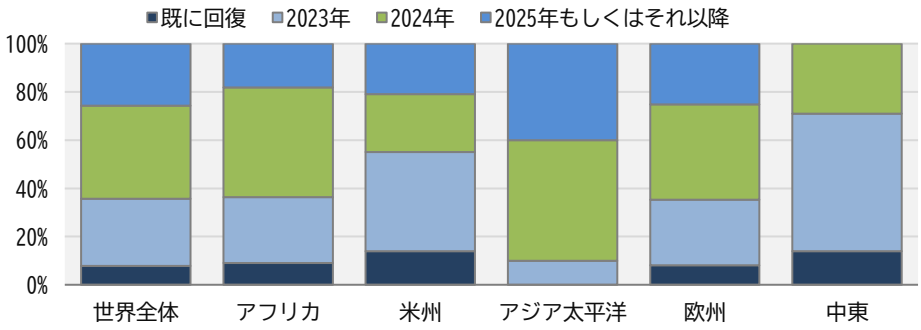


図 5　国際観光客数の回復見通し（地域別）

資料: UNWTO（国際世界観光機関）の資料（2023 年 1 月時点）に基づき観光庁が作成

着実に回復しつつある国内旅行者数

国内旅行は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で 2021（令和３）年には 2019（令和元）年の 46%まで落ち込みましたが、その影響を緩和するために実施された「Ｇｏ　Ｔｏ　トラベル事業」では、近隣観光で地域の魅力を発見する機会となり、「マイクロツーリズム」との言葉も生まれました。2022（令和４）年に入り、３年ぶりの行動制限の無い大型連休をむかえるなど、日本人の国内宿泊旅行者数は 2019 年の 75%、日帰り旅行は 67%まで回復しました。

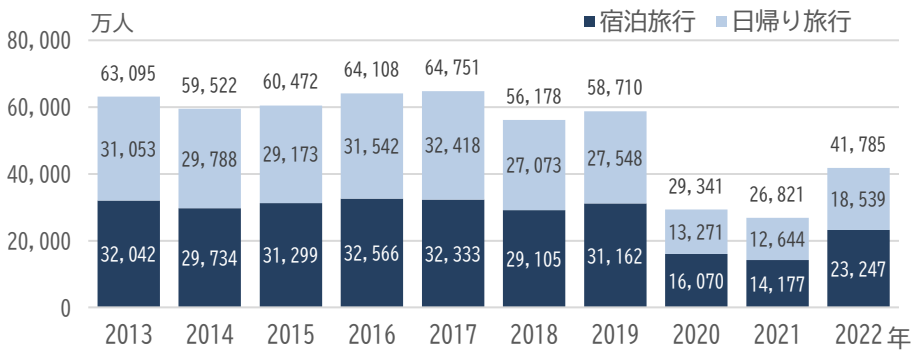


図 6　日本人国内宿泊旅行延べ人数、及び国内日帰り旅行延べ人数の推移

資料：観光庁「旅行・観光消費動向調査」

関西圏のインバウンドは 2023 年度に回復の見込み

関西圏の延べ宿泊者数は、2019（令和元）年に最大となり、コロナ禍で 2021（令和３）年には 2019 年の 44%まで落ち込みましたが、2022（令和４）年には 70%まで回復しました（図７）。うち外国人延べ宿泊客数は、2019 年に 3,000 万人を越え過去最高となりましたが、その回復は遅れており 2022 年には 2019 年の 12%にとどまっています（図８）。インバウンドの回復について、大阪観光局が 2023（令和５）年５月 23 日に発表した見通しでは、2023 年度中に 2019 年水準に戻るとしています。

2022 年、都道府県ごとの入込客数の割合は大阪府 41%、京都府 29%で新型コロナウイルス感染症拡大前と比率は変わっていません（図７）。

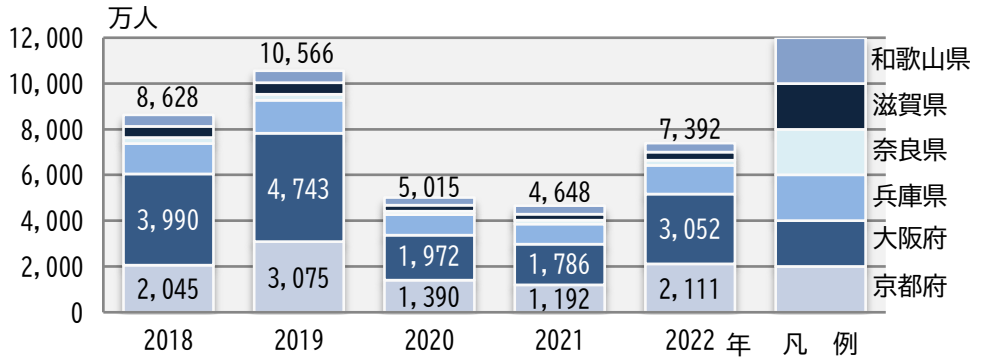


図 7　関西圏延べ宿泊者数推移

資料：観光庁　宿泊旅行統計調査

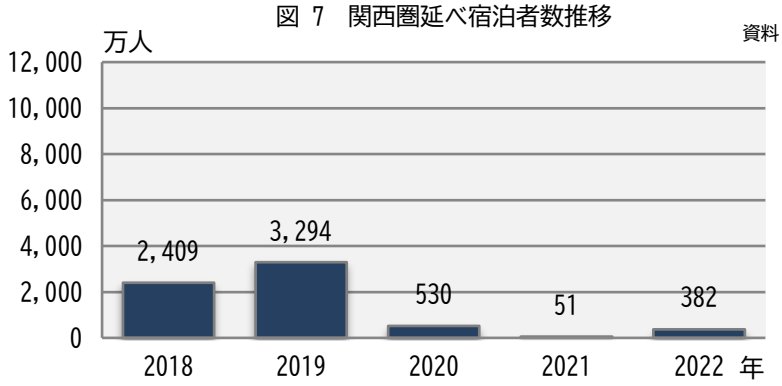


図 8　関西圏外国人延べ宿泊者数推移

資料：観光庁　宿泊旅行統計調査（大阪府、京都府、兵庫県、奈良県、和歌山県、滋賀県の合計）

【大阪・関西万博の概要】

テーマ	**いのち輝く未来社会のデザイン**
サブテーマ	Saving Lives（いのちを救う） Empowering Lives（いのちに力を与える） Connecting Lives（いのちをつなぐ）
コンセプト	**People's Living Lab（未来社会の実験場）**
会　場	夢洲(ゆめしま)（大阪市此花区）
開催期間	2025年4月13日～10月13日

出典：大阪・関西万博 来場者輸送具体方針（アクションプラン）第２版
2023 年５月　2025 年日本国際博覧会来場者輸送対策協議会

大阪・関西万博来場者の予測

来場者総数約 2,820 万人のうち国内来場者は約９割（2,470 万人）、海外来場者は約１割（350 万人）と想定される。国内来場者のうち、近畿圏内が６割（1,559 万人）、近畿圏外が約４割（近畿圏以西 287 万人・以東 624 万人）と想定される。

②京都府の政策と現状

京都府の観光政策

京都府では 2023（令和５）年７月に「京都府観光総合戦略」を策定し、アフターコロナでの方向性を示しました。

「交流」と「持続性」を基本理念とし、「交流機会の創出と地域の新たな価値を創造する京都観光」を目指すとともに、大阪・関西万博などの機会を活用し、京都の観光を新たなステージへ進める内容になっています。

地域とともに成長する観光の推進として、地域の資源を活用し、地域社会と観光が共生する持続可能な観光地域づくりが実現できるよう、観光産業の持続的な成長や、観光客が集中していない地域の魅力の掘り起こし、周遊につながるストーリーづくりによる観光地の分散化などを内容としています。

本市においては、京都市内に集中する観光客から訪問地として選択してもらえるよう、歴史的資源を活用し京都市との差別化を図ることや、乙訓と山城地域が連携して舟運、お茶、竹などを活用した広域的な周遊ルートをつくることが必要となっています。

図 9　京都府観光総合戦略　概要

京都府全体の入込客数の内訳は京都市が半分を占める

京都府の近年の観光入込客数は京都市が半分以上を占め、次いで宇治市となっており、本市の隣接する市に多くの観光客が訪れています。

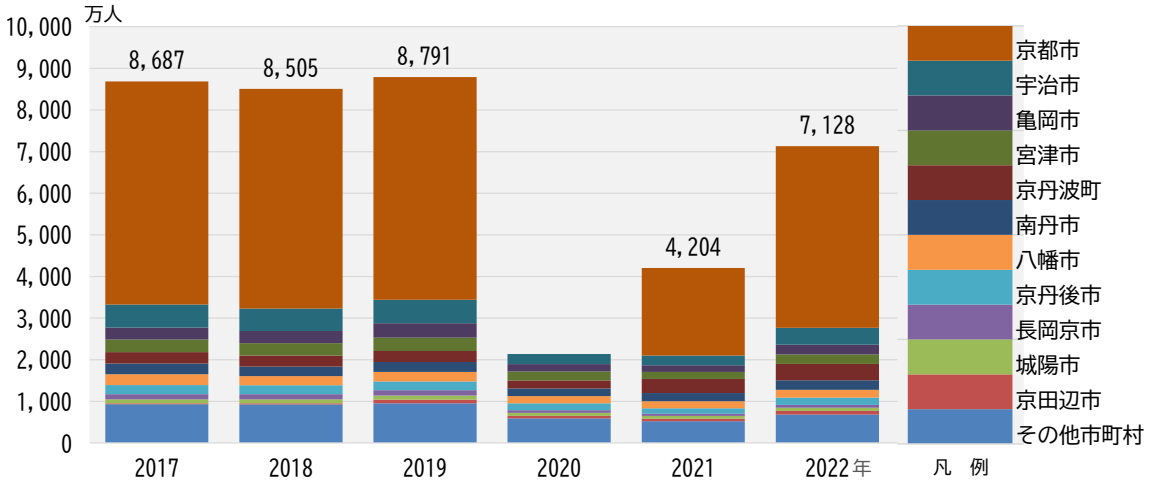


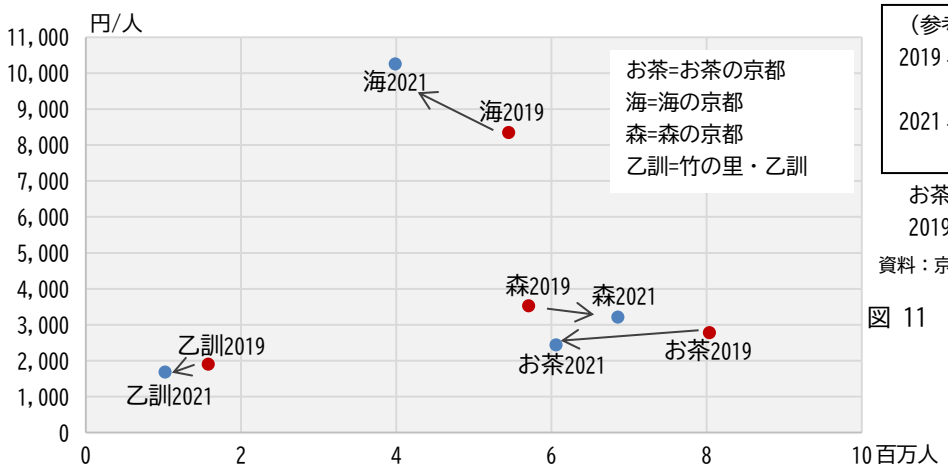
図 10　京都府下観光入込客数の推移（旧基準※1）

出典：京都府観光入込客等調査報告書・京都市観光客の動向等に係る調査（京都市は 2020 年記録なし、2021 年参考値）から作成

「お茶の京都」地域の観光入込客数は多いが、消費単価が低い

京都府の観光戦略「もうひとつの京都」の各地域の観光入込客数は、「お茶の京都」が最も多いですが、観光消費単価は「海の京都」が高く、「お茶の京都」の３倍程度となっています。

「海の京都」は、カニの価格高騰により宿泊単価が上昇したため、コロナ禍でも一人あたり観光消費額は増加となりました。「森の京都」では、マイカー利用による旅行が好まれ、道の駅で客足を伸ばしたことや、混雑する観光地を避けてこのエリアを訪れる観光客が多かったこと、イルミネーションイベントやキャンプ、大型迷路などの新しいアクティビティが登場したことなどが観光入込客数を伸ばしたと推測されます。



（参考）京都市
2019 年 53.5 百万人
23,107 円
2021 年 21.0 百万人
21,204 円

お茶の京都観光入込客数
2019 年　13.3 百万人

資料：京都府観光入込客調査報告書

図 11　もう一つの京都別観光入込客数と一人あたり観光消費額（新基準※2）

※１旧基準：観光入込客数：主な観光関連施設における入込客数の合計値
観光消費額　：主な観光関連施設における消費額の合計値

※２新基準：観光入込客数：主な観光関連施設における入込客数の合計値を、府アンケート調査で把握した平均訪問地点数で除して算出した実人数
観光消費額　：観光入込客数に府アンケート調査で把握した１人あたり消費額を乗じて算出した額

（２）観光マーケットの動向

本市の観光推進において、着目すべき観光マーケットの動向について整理を行いました。

①訪日外国人旅行者の回復に期待

国の観光施策により訪日外国人旅行者数は、2019（令和元）年には 3,188 万人に急増しました。2020（令和２）年以降は新型コロナウイルス感染症拡大により激減したものの、2023（令和５）年には感染症の流行も落ち着き、円安を背景としてアジア諸国を中心に訪日旅行が急速に回復、本格的なインバウンド時代の到来が期待されます。

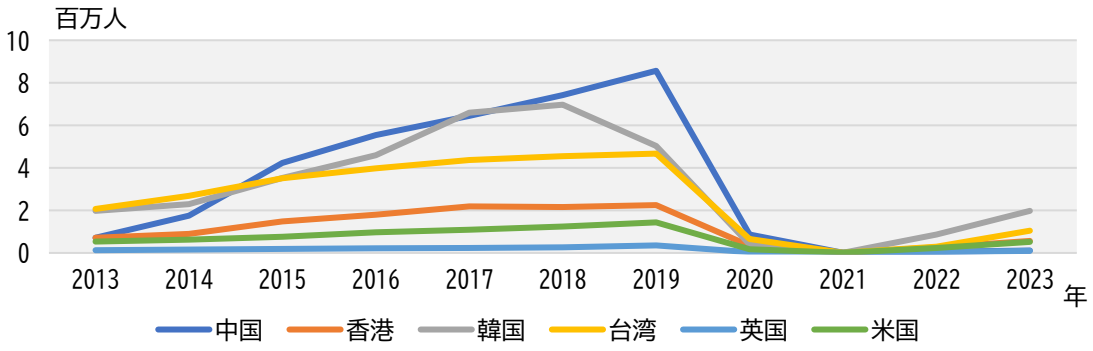


図 12　年別 国・地域ごとの訪日外客数の推移

資料:日本政府観光局(JNTO)　データ更新日:2023/07/2　(2021 年以前は確定値、2022 年 1月~2023 年 4月は暫定値)

②新しい旅行スタイルの広がり

新型コロナウイルス感染症は旅行のスタイルや旅行者のニーズに変化をもたらし、「個人旅行」がさらに進み、「アウトドア」人気や、居住する地域の魅力を再発見する「近隣観光」が注目されています。

また、「ワーケーション」、「ブレジャー※1」も広まりつつあり、移住政策と関連して交流人口などの確保に向けた観光の新たな役割に期待が寄せられています。

③つながりや交流の重要性を再認識

コロナ禍で分断された人とのつながりや交流の重要性が再認識されるようになり、旅先で誰と出会い、どのような体験や交流ができるのかなども観光の重要な目的となりつつあります。住民が地域資源を再認識し、観光事業者が住民や生産者と連携して生み出した地域独自の観光商品が、地域の人々の顔が見える個性ある商品として求められています。

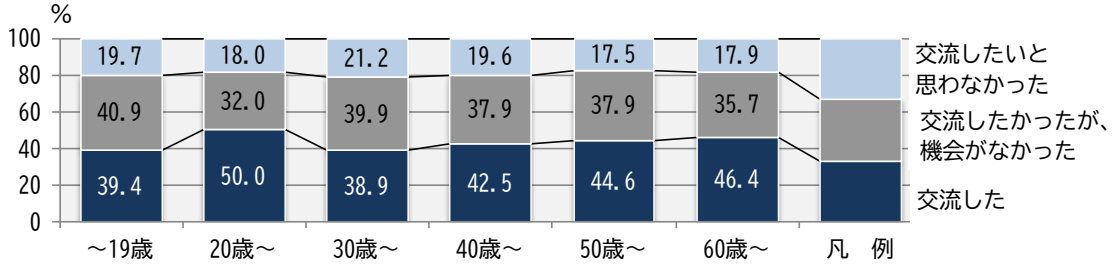


図 13　京都市　訪問中の地域の人との交流の有無

資料：2022 年京都市観光客の動向等に係る調査　京都市

※1　**ブレジャー**：出張先等で余暇を楽しむ。

（３）観光地づくりの動向

八幡市の観光推進において着目すべき観光地づくりの動向について整理を行いました。

①個性ある観光地づくり

地域の自然、歴史、文化などの資源を活用したそこにしかない体験や観光スポットが求められており、地域独自の伝統的な生活文化などを活かす観光まちづくりが全国各地で進められています。

そして、地域ならではの体験の魅力を伝える観光ガイドなどの人材づくりが、国の支援のもと進められつつあります。

②持続可能な観光地づくり

コロナ禍は観光のあり方を見直す契機となり、環境、経済、社会文化的な側面での持続可能な観光への意識や関心が高まりつつあります。欧米豪の観光客の中では、歴史的資源や自然環境の保全への配慮、ＳＤＧｓへの対応が観光地選択の前提となりつつあります。

そのため、地域住民や行政、観光業者が連携して、環境への配慮や地域社会の健全な発展を重視し、国の政策として観光地の資源や文化を守りながら持続可能な観光地をつくる取組が進められています。

③デジタル技術の活用

デジタルでの情報発信の影響力が高まり、口コミ投稿や決済システムなど、あらゆる場面でデジタル技術を活用することが一般的になっています。観光分野のデジタル技術（観光ＤＸ※1）の活用を推進し、ＭａａＳ※2の普及による旅行者の利便性の向上、消費拡大、再来訪促進、観光産業の収益・生産性向上などを図り、稼ぐ地域を創出する観光地づくりが模索されています。

また、バーチャルとリアルの融合により新しい価値が創出されることも期待されています。

④「第２のふるさと」の推進

「友人や親族への訪問を目的とした旅行」は国内旅行客全体の約２割近くを占めています。また、働き方・住まい方に関する意識が変化する中で、密を避け、自然環境に触れる旅へのニーズなどが高まり、また、田舎に憧れを持って関わりを求める動きも存在しています。

こうした新しい動きも踏まえ、いわば「第２のふるさと」として、「何度も地域に通う旅、帰る旅」というスタイルを推進・定着させる取り組みが進められています。

※１　観光ＤＸ：デジタルトランスフォーメーション。業務のデジタル化により効率化を図るだけではなく、デジタル化によって収集されるデータの分析・利活用により、ビジネス戦略の再検討や、新たなビジネスモデルの創出といった変革を行うもの。

※２　ＭａａＳ：（マース：Mobility as a Service）とは、地域住民や旅行者一人一人のトリップ単位での移動ニーズに対応して、複数の公共交通やそれ以外の移動サービスを最適に組み合わせて検索・予約・決済等を一括で行うサービス。観光や医療等の目的地における交通以外のサービス等との連携により、移動の利便性向上や地域の課題解決にも資する重要な手段となる。

２．八幡市の観光の現状と評価

（１）八幡市の観光の現状

①観光入込客数

コロナ禍でも、１月の初詣客、４月の花見客以外は大きな落ち込みは見られない

2016（平成 28）年の石清水八幡宮国宝指定、2017（平成 29）年のさくらであい館オープンを契機に、2017 年の観光入込客数は過去最高となりましたが、コロナ禍の 2020（令和２）年以降落ち込み、2021（令和３）年は 2019（令和元）年の 73%まで落ち込みました（図 14）。

ただし、コロナ禍の月別の入込客数をみると、１月の初詣客、４月の花見客が大きく落ち込んだものの、その他の月別入込客数はコロナ禍でも大きく落ち込んでおらず、平常月の影響は少なかったといえます（図 15）。

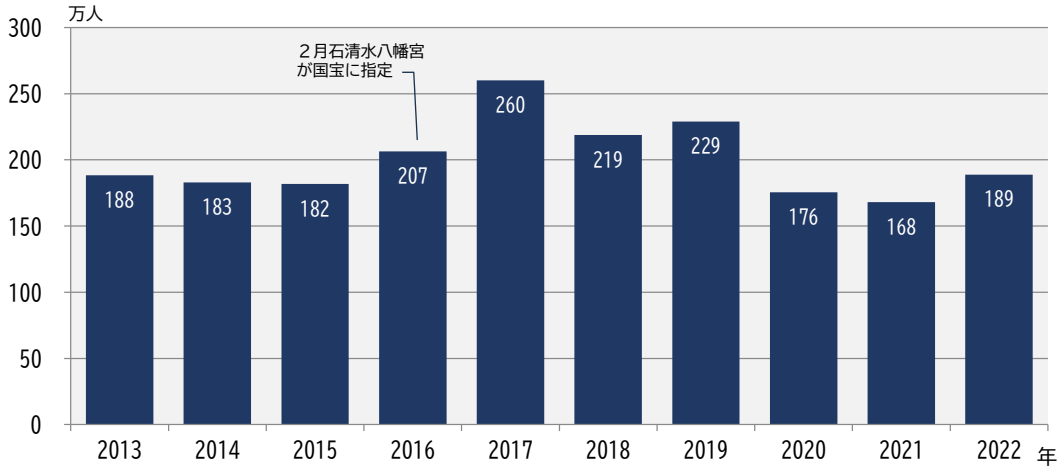


図 14　八幡市観光入込客数推移

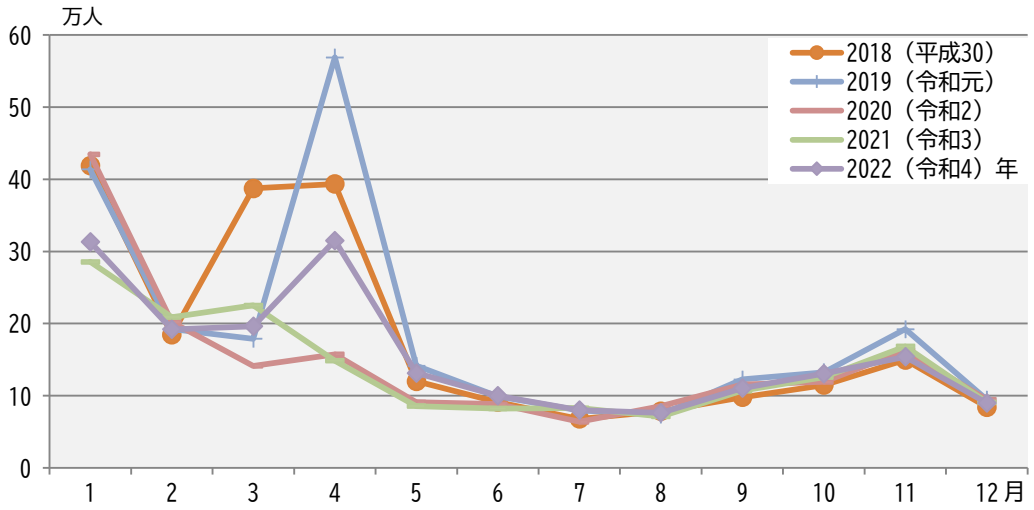


図 15　八幡市月別観光入込客数推移

八幡市は１月と４月以外は新型コロナウイルス感染症拡大の影響を大きくは受けませんでしたが、お茶の京都では、2019（令和元）年に比べてその影響を受けた 2021（令和３）年は、各月とも入込客数が減少しています。

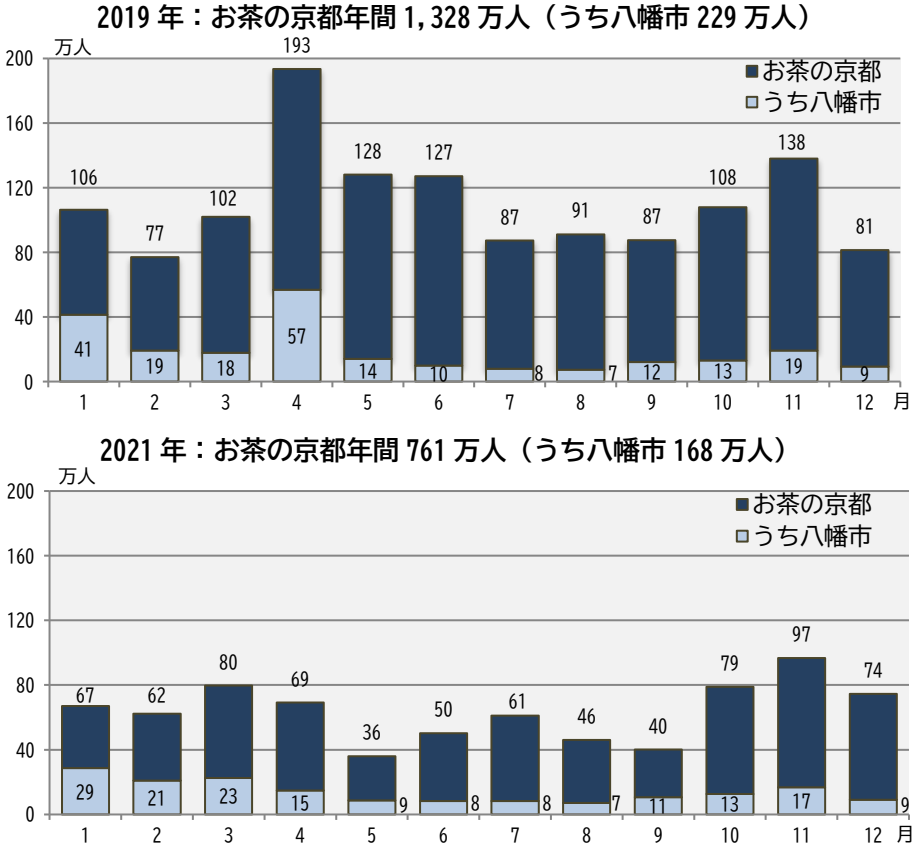


図 16　お茶の京都（うち八幡市）観光入込客数（上：2019 年・下：2021 年）

資料：京都府観光入込客調査報告書

石清水八幡宮と淀川河川公園背割堤地区の２地点に観光入込客は集中

新型コロナウイルス感染症拡大時においても、観光入込客数のシェアは石清水八幡宮と淀川河川公園背割堤地区の２地点に集中しており、2022（令和４）年は石清水八幡宮が約 46%、淀川河川公園が約 17%を占めています。2019（令和元）年は、背割堤さくらまつりに、2022 年よりも約 20 万人多い約 35 万人が来園し、12%を占めています。

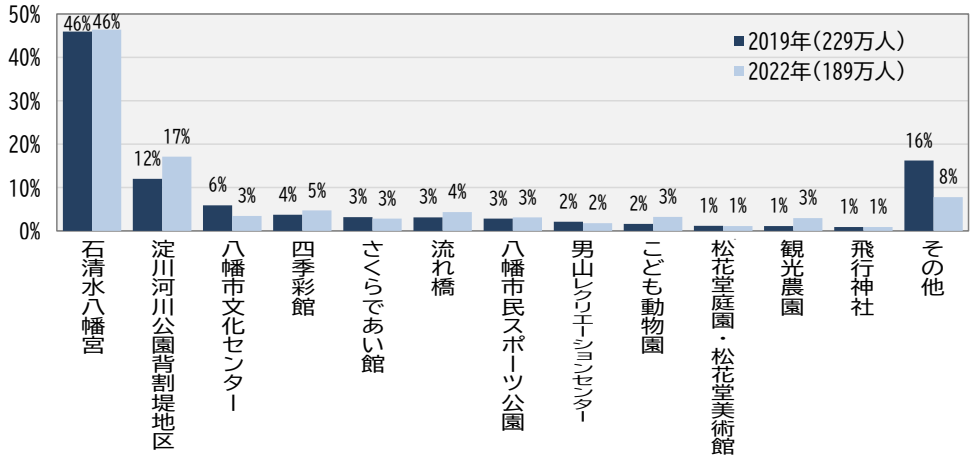


図 17　八幡市年間観光入込客数観光地点別構成比比較（2019 年・2022 年）

②宿泊客数

コロナ禍の影響もあり宿泊者数減少、同時に宿泊施設も減少

市内宿泊者数は７～８千人で推移してきましたが、2020（令和２）年以降、新型コロナウイルス感染症拡大により宿泊者数が激減しました。

宿泊者数が少ない中で公的な施設が多いことから、観光客の一人あたり宿泊消費額はおおよそ 5,000 円強でしたが、2020 年以降、旅館・ホテルの集計を開始したことにより客単価が若干上昇しました。（2020 年に旅館が１軒新規開業：全６軒）

2022（令和４）年には、コロナ禍で休業する施設がある一方、キャンプ需要から男山レクリエーションセンター（ロッジ・キャビン）の利用者数が早くに回復したため、一人あたりの宿泊消費額が下がっています。

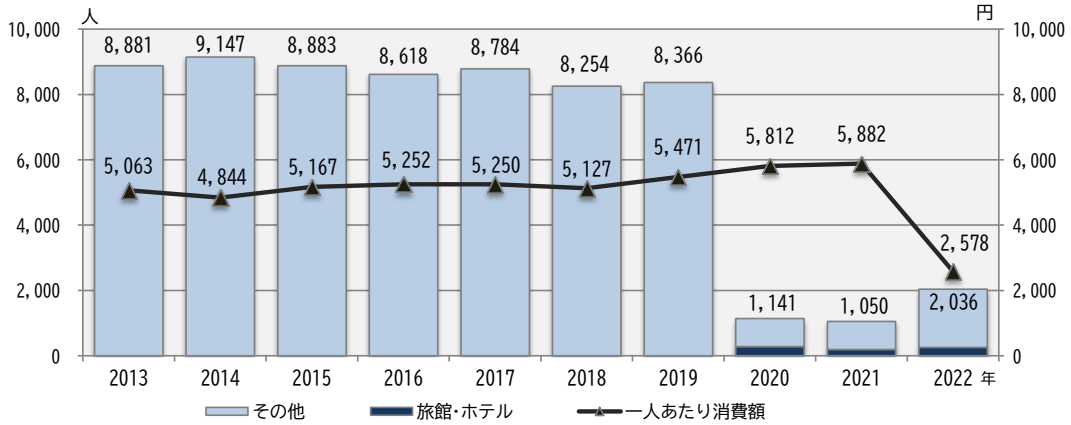


図 18　八幡市宿泊客数と一人あたり宿泊消費額の推移

お茶の京都の宿泊客は 1%に留まる

「お茶の京都」地域は、日帰り客が全体の 98.4%と大半を占め、宿泊客は極めて少ない状況にあります（図 19）。その中で、宿泊客が１万人超の市町村は、宇治市、城陽市、京田辺市、精華町、南山城村で、本市は 0.8 万人となっています（図 20）。

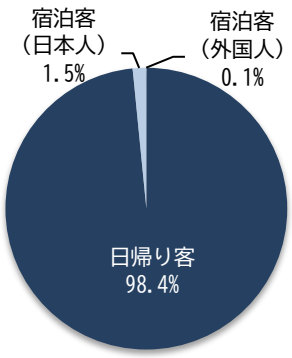


図 19　「お茶の京都」地域日帰り客・宿泊客構成比（2019 年）

資料：京都府観光入込客調査報告書

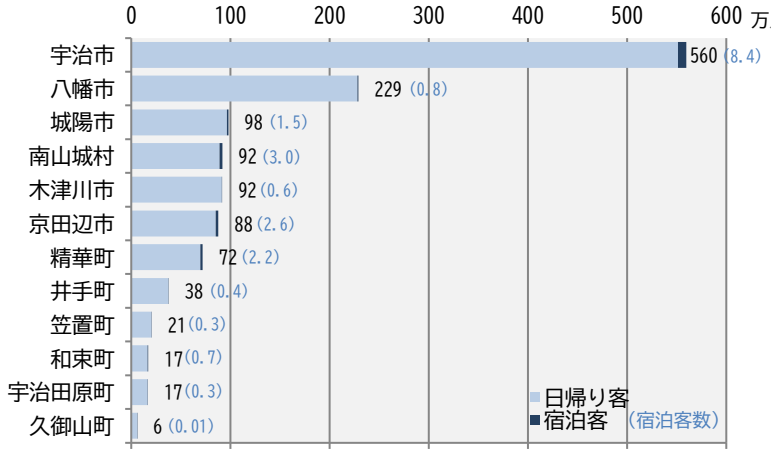


図 20　「お茶の京都」地域市町村別
日帰り客・宿泊客観光入込客数（2019 年）

資料：京都府観光入込客調査報告書
図中の数値は日帰り客と宿泊客の合計

③観光消費額

新型コロナウイルス感染症による影響の落ち込みから回復しつつある

観光消費額は新型コロナウイルス感染症拡大により 2020（令和２）年は 2019（令和元）年の 67%まで落ち込んだものの、2021（令和３）年以降、回復傾向が見られます（図 21）。

各観光地点の一人あたり観光消費額は、京都吉兆松花堂店を含む松花堂美術館が 9,990 円、次いで観光農園が 1,855 円、最も観光入込客数の多い石清水八幡宮はお賽銭や祈祷料は観光消費額に含まないため 177 円となっています（図 22）。

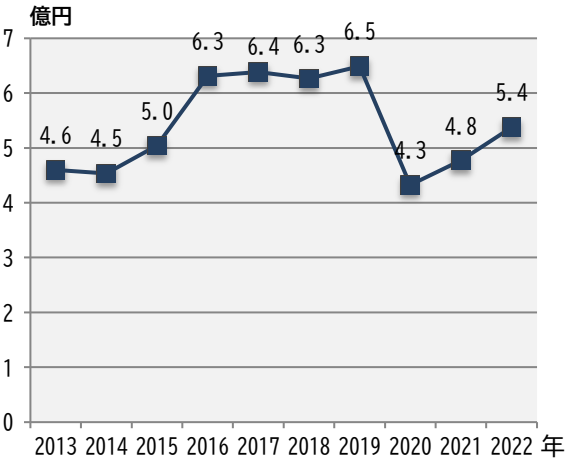


図 21　八幡市観光消費額推移

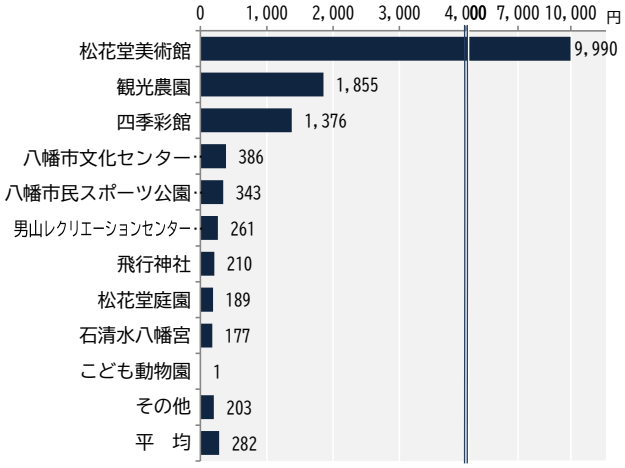


図 22　八幡市観光地点別宿泊を除く一人あたり観光消費額（2022（令和４）年）

八幡市はお茶の京都の中で、観光入込客数は２位、消費額は７位

観光入込客数の各市町村構成比は宇治市 42%に次いで本市 17%、その一方で、本市の観光消費額は３%と低位です。

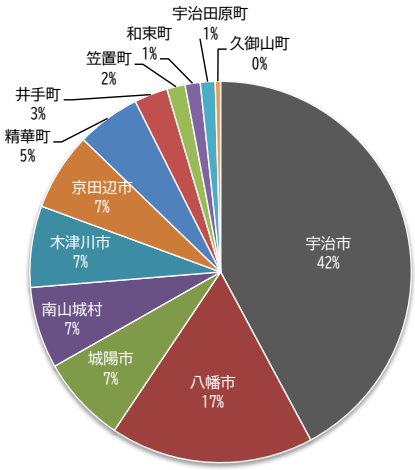
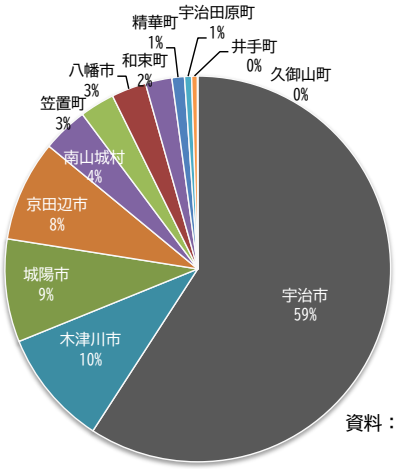


図 23　「お茶の京都」地域観光入込客数市町村構成比



お茶の京都
観光消費額
2019（令和元）年
22,305,851 千円

資料：2019（令和元）年
京都府観光入込客
調査報告書

図 24　「お茶の京都」地域観光消費額市町村構成比

（２）八幡市の観光ポテンシャルと観光資源

①立地ポテンシャル

本市は、関西で観光入込客数の多い大阪と京都と奈良の中間に位置し、京都府南部 12 市町村で構成する「お茶の京都」地域の北端にあり、三川合流部をはさんで京都市、乙訓地域と接し、大阪府に隣り合う地域にあり、観光の立地ポテンシャルは高いといえます。

淀川では大阪からの舟運の取組が大阪・関西万博を目標に進められており、川を介した周辺地域とのつながりがより強固となります。

さらに、2027（令和９）年度には新名神高速道路が全線開通の予定で、日帰り観光圏内である名古屋や岡山から本市へのアクセスが向上し、東西の日帰り広域観光圏の拡大が期待されます。

本市にとどまらず周辺資源との組み合わせによって、魅力的な観光ルートや商品が展開できる環境が整いつつあります。

表１　本市の立地の特性

立地特性	立地における資源
交通の結節点となる多様なアクセス方法	鉄　道：石清水八幡宮駅、橋本駅、樟葉駅（京阪） 松井山手駅（ＪＲ） 道　路：新名神高速道路 （八幡京田辺ＪＣＴ・ＩＣ～高槻ＪＣＴ・ＩＣ（仮称）2027 年度予定） 国道１号、第二京阪道路（八幡東ＩＣ） 自転車道：（仮称）淀川サイクルライン 木津川サイクリングロード（府道京都八幡木津自転車道線） 舟　運：淀川～宇治川（大阪・関西万博 2025 年以降）
京都の玄関口	淀川左岸に位置し、大阪府枚方市と接する 京都盆地からの桂川、琵琶湖からの宇治川、伊賀からの木津川が合流し、淀川へ
周辺観光資源	京都市（伏見稲荷大社 11.3ｋｍ）、宇治市（平等院 9.8ｋｍ）、 乙訓地域※（サントリービール工場 2.5ｋｍ）、枚方市（鍵屋資料館 9.9ｋｍ）

※長岡京市、大山崎町、向日市

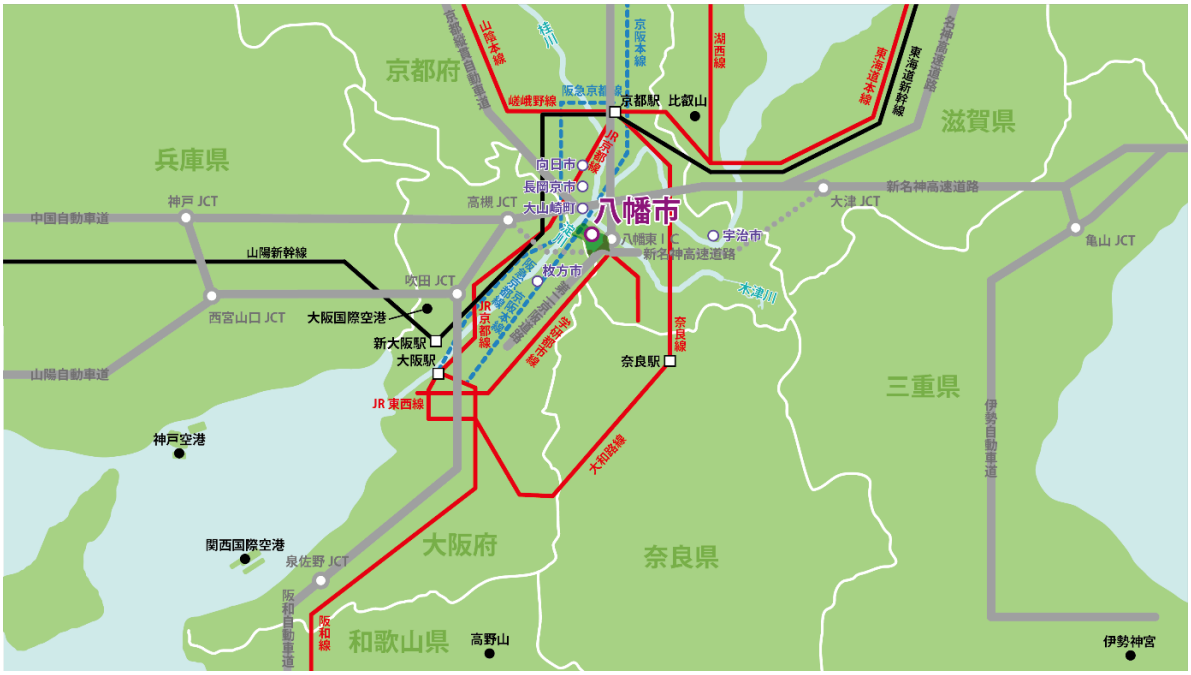


図 25　交通インフラが集まる八幡市

②市内観光資源

本市の主要な観光拠点には、石清水八幡宮、松花堂庭園・美術館、四季彩館、さくらであい館など多くの歴史・文化資源や自然環境資源などがあります。

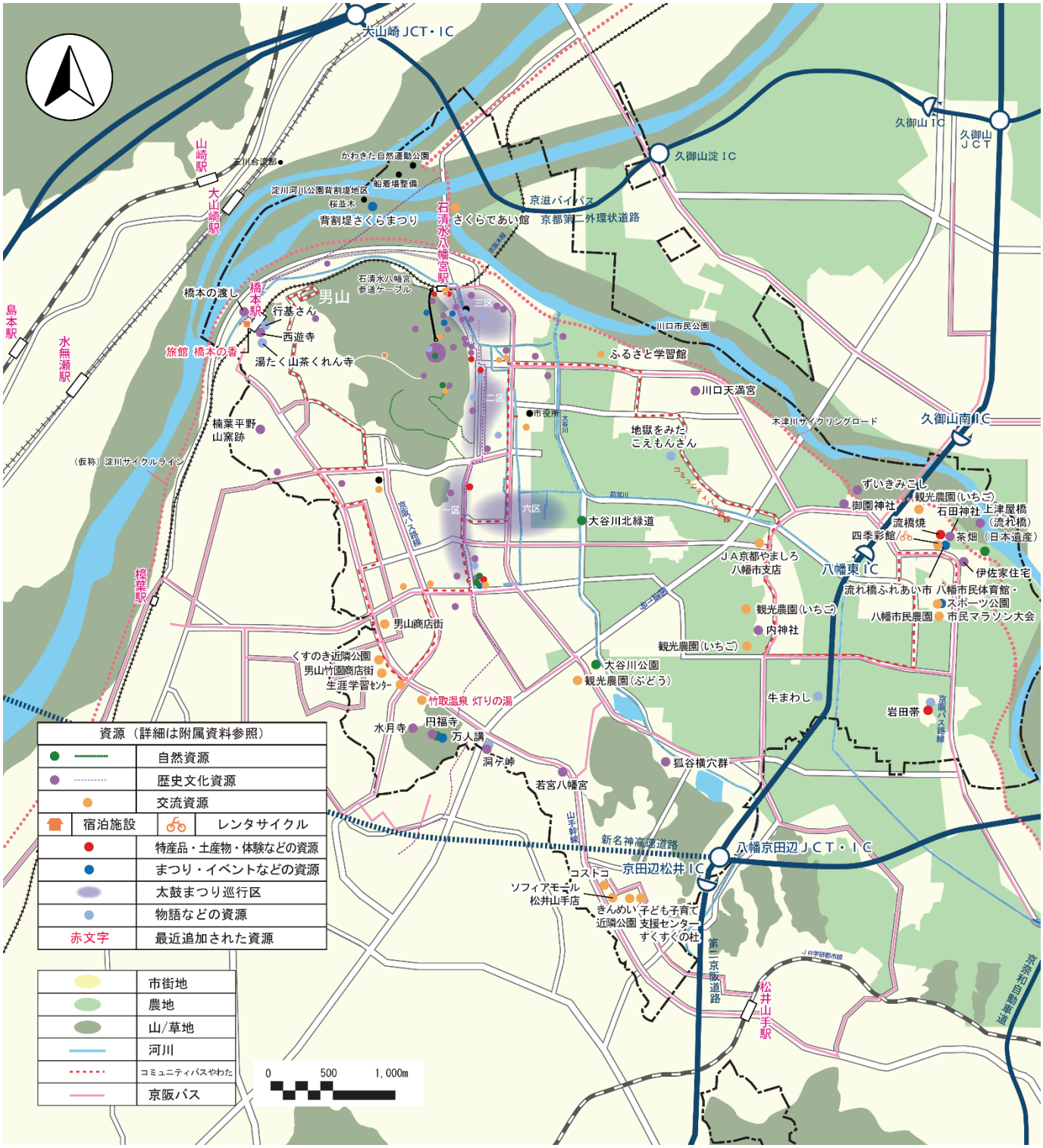


図 26　市内観光資源マップ（主要観光資源の分布と広域交通網）

さらに、伝統的な祭りや近年恒例開催されている魅力的なイベント、貴重な特産品に加えて、豊富な古文書の記述や言い伝えが「物語」として数多く残されていることも本市の特徴ある重要な観光資源です。市域北西の石清水八幡宮から松花堂庭園・美術館までと、東部の四季彩館周辺に資源が数多く分布しています。近年では観光農園の存在感が増しています。

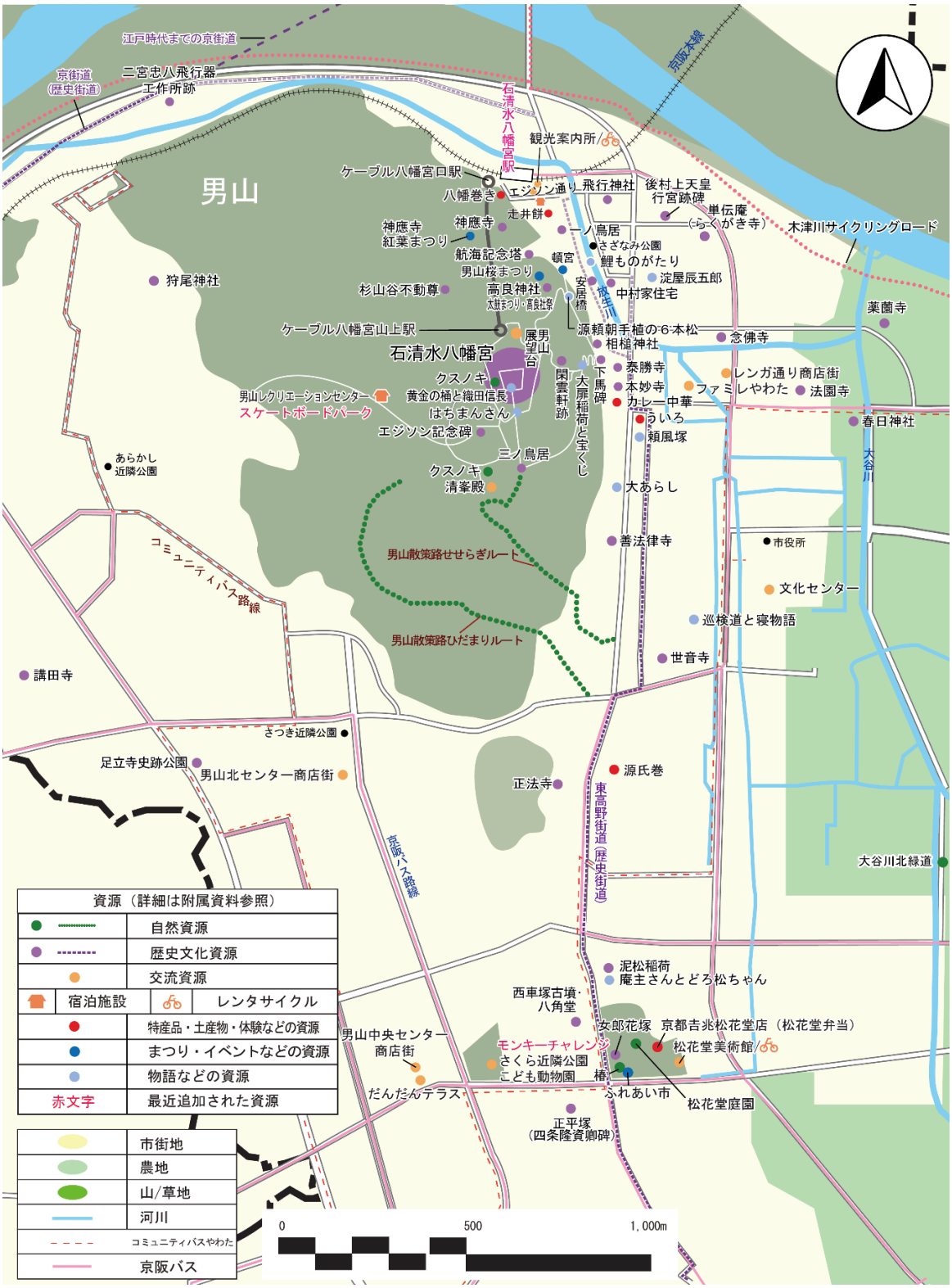


図 27　市内観光資源マップ（石清水八幡宮周辺拡大図）

（３）前観光基本計画の総括

①前観光基本計画の主な成果（2019 年～2022 年）

１.文化財活用など文化観光推進

文化観光のコンテンツ作成や体験観光を実践するとともに、民間事業者参入の可能性調査では、石清水八幡宮を中心とした神仏習合のストーリーのある町に点在する歴史的資源を一体的に活用することが有効であることがわかりました。

これを踏まえ、市民や関係者などの参加により「歴史的資源を活用した文化観光まちづくり未来戦略（以下、「未来戦略」という。）」を策定し、短期と長期の取組を整理しました（図 28 参照）。

「未来戦略」では、特性を４つのエリアで整理して歴史的資源の活用を進めています（図 29 参照）。

また、近畿運輸局から「令和４年度将来にわたって旅行者を惹きつける地域・日本の新たなレガシー形成事業（以下、「レガシー形成事業」という。）」において文化観光の推進に係る提案がなされました（図 30 参照）。

名勝松花堂及び書院庭園災害復旧工事基本設計・工事施工（2019～）／名勝松花堂及び書院庭園保存活用計画策定（2019）／文化財一斉公開（2019～）／空中茶室「閑雲軒」体験ＶＲ等コンテンツ（2020）・さくらＶＲ（2021）制作／男山四十八坊跡モニターツアー（2021）／文化観光解説板一帯整備事業（2021）／将来にわたって旅行者を惹きつける地域・日本の新たなレガシー形成事業（2022）／大河ドラマを契機としたフォーラム・ガイドツアー等の実施（2022～2023）

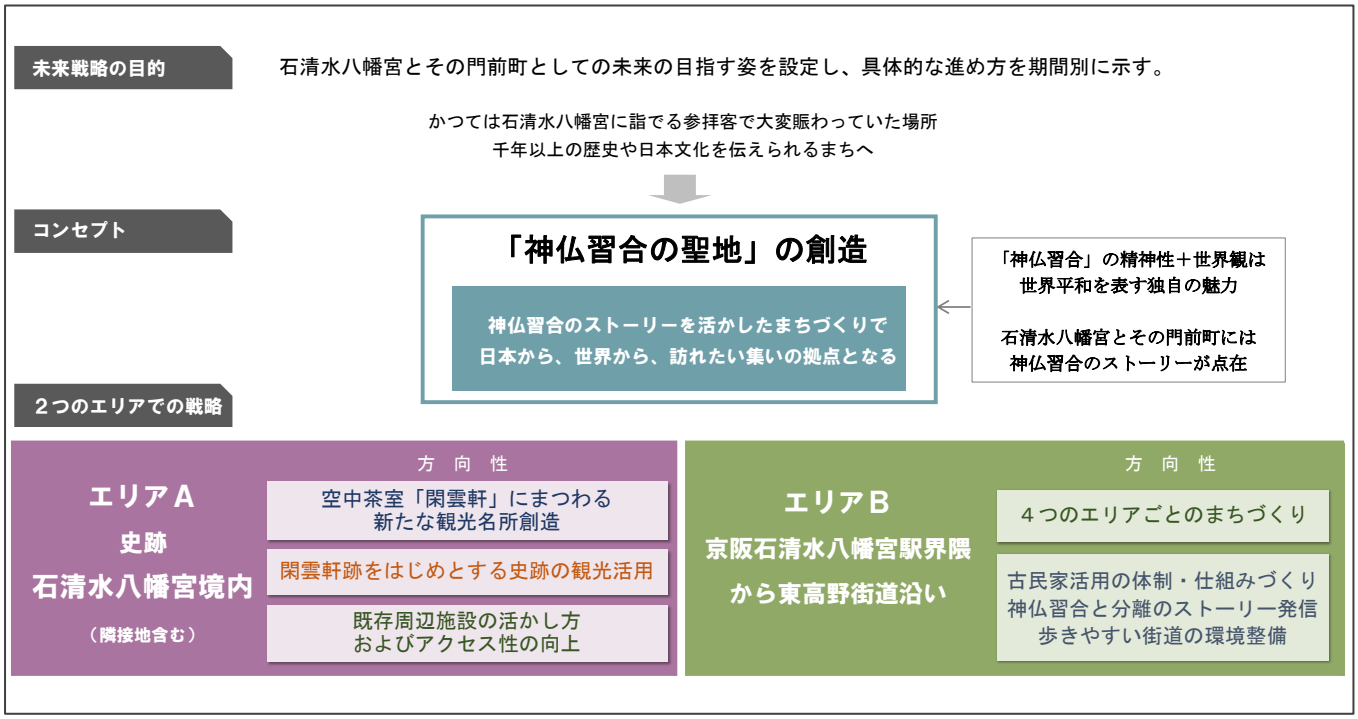


図 28　歴史的資源を活用した文化観光まちづくり未来戦略　令和４年度策定（概要）

東高野街道　全体像　地域住民が誇りに感じ、人を惹きつける街道

４つのエリアごとのまちづくり

街道沿いの街並みのうち、資源のまとまりと、石清水八幡宮との導線などを考慮して４つのエリアの特性に応じ、文化観光まちづくりの方向性を考えながら、雰囲気のよい街並みなどを活かす取組を進めます。

駅前・放生川エリアの特性

八幡の玄関口で観光客との接点となる一帯。京阪石清水八幡宮駅前から西側の石清水八幡宮参道ケーブル乗り場までと、同駅から一ノ鳥居、相槌神社に至るエリア。放生川沿いにある安居橋と土蔵、頓宮など歴史資源周辺の商業施設誘導と景観の魅力向上が課題。

城ノ内エリアの特性

大谷川の北、北は山路の東西道路の一部を含み、南は東高野街道が鈎形に曲がる周辺。エリアの中心にある本妙寺では、市民によるイベントも度々開催されている。多く残る町家の一部には改修したカフェや福祉施設もあり、すでに活用が進んでいる。

神原エリアの特性

石清水八幡宮の祀官家などに代々仕えた「社司」が集住した地域で、由緒ある大規模な古民家が多く、落ち着いた景観が保たれている。交差点より南は正法寺の門前町として広範囲に古民家が残る。

松花堂エリアの特性

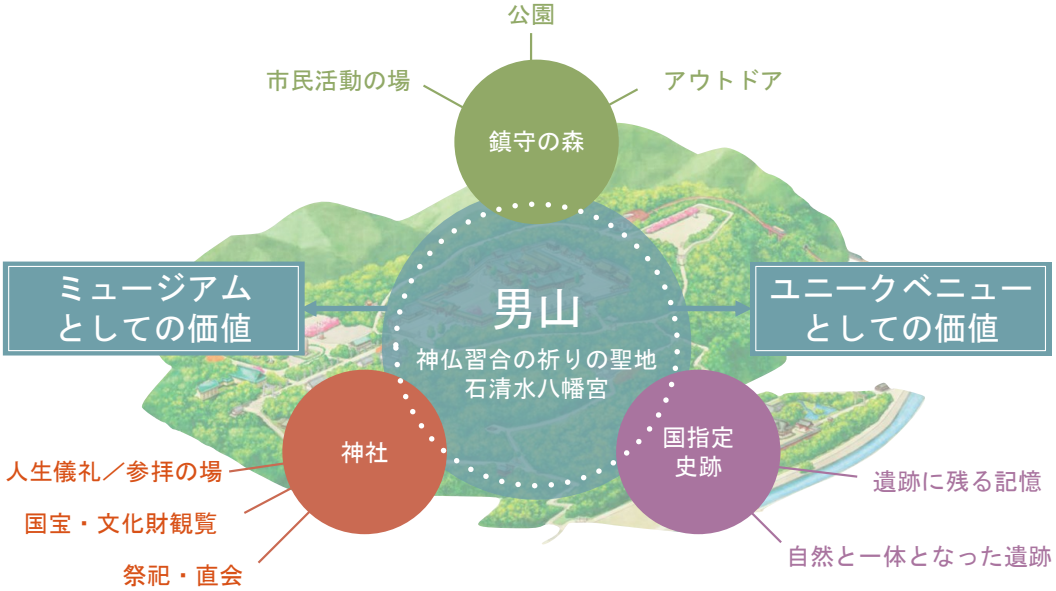
松花堂庭園・美術館※と八角堂、宝青庵のエリア。松花堂庭園内園の草庵と書院、八角堂など、神仏分離後に石清水八幡宮から移築された貴重な建造物があり、神仏習合と分離の歴史を今に伝える。大阪方面の樟葉へのアクセスがよい。

※松花堂昭乗の資料の収集や展示を行っている。

図 29　歴史的資源を活用した文化観光まちづくり未来戦略　令和４年度策定（東高野街道４つのエリア）

石清水八幡宮の唯一無二の特徴は、千年以上もの間、祈りの中心である「神社」と、かつて存在した仏教施設群の「遺跡」が、広大な「鎮守の森」とともに男山に渾然一体となって、祈りの聖地を形成してきたことである。

それらが持つ潜在的な価値を、神仏習合の精神に楽しみながら触れることができる「ミュージアム」と、男山と文化財の祈りの空間で特別な体験ができる「ユニークベニュー※1」として位置づけることで引き出し、これらの資源を持続可能に再生・保全していくことができる観光誘客力の高いレガシーの形成を実現する。



出典：令和４年度　将来にわたって旅行者を惹きつける地域・日本の新たなレガシー形成事業

図 30　近畿運輸局観光部「神仏習合の祈りの聖地、石清水八幡宮での空中茶室「閑雲軒」の復活と男山四十八坊の賑わい創造にかかる実現可能性調査及びプラン策定事業」（対象地域：京都府八幡市）

2.インバウンド戦略

インバウンド向けのコンテンツ作成など受入体制の整備とともに、体験動画の作成や台湾向けＦａｃｅｂｏｏｋなど海外向けの継続したプロモーションなどを行いました。国内向けにもＹｏｕＴｕｂｅ配信や、松花堂庭園の夜間ライトアップで魅力発信を行いました。

台湾プロモーション／多言語パンフレット作成／観光庁多言語整備事業（2020～）／中国系キャッシュレスシステム導入（2019）／公衆無線ＬＡＮ設置（2019～2023）／多言語での観光ＰＲ動画制作

※1　ユニークベニュー（Unique Venue:特別な場所）：「博物館・美術館」「歴史的建造物」「神社仏閣」「城郭」「屋外空間（庭園・公園、商店街、公道等）」などで、会議・レセプションを開催することで特別感や地域特性を演出できる会場。

3.国内市場開拓

バス旅行の企画をオンライン商談会などで提案するとともに、モニターツアーを開催しＰＲを行いました。また、教育旅行の誘致活動など企画の提案や情報発信を進めました。京阪グループとの連携では、松花堂・源氏物語ミュージアム割引キャンペーンなど誘客活動を展開しました。

ケーブル車両更新・駅名変更（2019）／ＪＡＦ観光協定（2019～）／刀剣乱舞コラボレーションイベント検討（2020～）／インスタグラム連携企画（2020～）／観光ＰＲ動画制作（2022）

4.周遊ルートづくり

お茶の京都ＤＭＯや淀川舟運整備推進協議会などと連携し、周遊ルートづくりを目指した取組を進めました。八幡周遊サイクルマップの制作などサイクリング周遊も促進しました。ガイド付きツアーなど歩く観光の推進や秋の文化財一斉公開に合わせた市内・周遊バスを運行し周遊環境の整備を進めました。

立地適正化計画策定（2021）／水辺のにぎわいづくり（2019～）／橋本駅周辺拠点整備事業／八幡市バス交通計画策定（2022）／にぎわい創出「さくらであい館」活用要望（2020～）／市道科手土井線整備事業／やましろしぶや連携事業／淀川舟運活性化協議会（2021～）／淀川舟運整備推進協議会／観光庁域内連携事業（2021～）／かわまちづくり計画登録（2023）／市内周遊バス運行（2022～）

5.やわたブランド創造

「ヤワタカラ」認定制度創設による土産物の充実とともに、ふるさと応援寄附金返礼品に採用するなど販路の拡大を進めました。また、農産物収穫体験、松花堂庭園でのお茶席体験や善法律寺の夜間ライトアップなど、各種体験の充実を図りました。

農産物収穫体験事業／イチゴ農園による加工品の開発・販売／やわたブランド創造事業（2020～）／橋本の香旅館開業（2020）／やわたフェスタ開催（2022～）／ひまわり摘み体験実施（2021～）／商工業活性化補助事業（商品開発補助）（2022～）

6.観光推進力づくり

各種コンテスト実施により市民が参加した魅力発信を進めました。また、ガイド養成講座の実施や募集を行い観光ボランティアガイドの拡充を進めました。

観光庁多言語整備事業採択（2019）／八幡ストーリー改修及び活用／「未来戦略」策定（2022）／八幡市観光応援団創立（2022）／市民文化祭開催／ボランティアガイド養成講座／市公式ＳＮＳ運用

②アクションプランの進行状況

2020（令和２）年から新型コロナウイルス感染症拡大により全国的に観光産業は大きな影響を受け、本市の事業も中止などが相継ぎました。そのため、計 48 アクションのうち 56%は計画通りに進んでいますが、計画の半分以下しか進んでいないプランも 15%（７アクション）みられます。

14 の重点プランにおいて計画通りに進んでいるのは 50%となっています。基本方針の６施策の進捗状況では、周遊観光ルートづくりが計画通りに進んでいない割合が多くなっています。

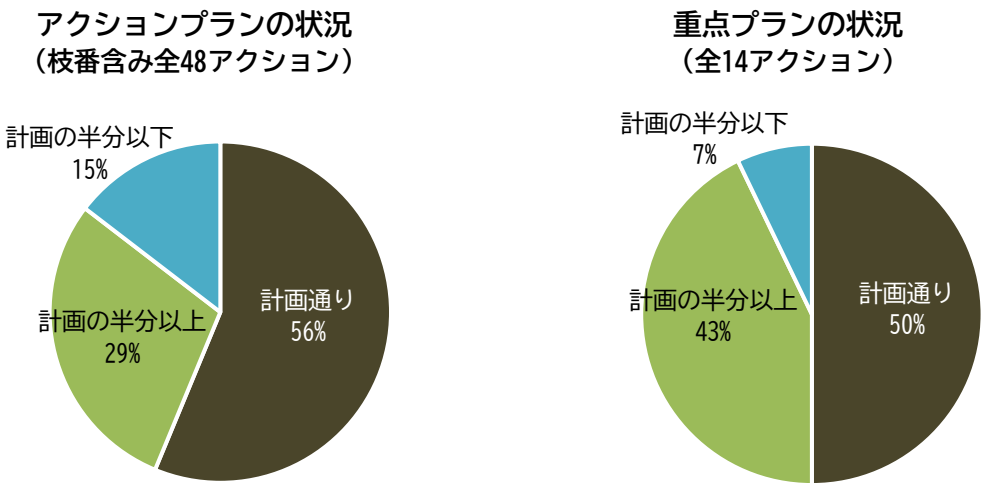


図 31　アクションプランの状況（左）と重点プランの状況（右）

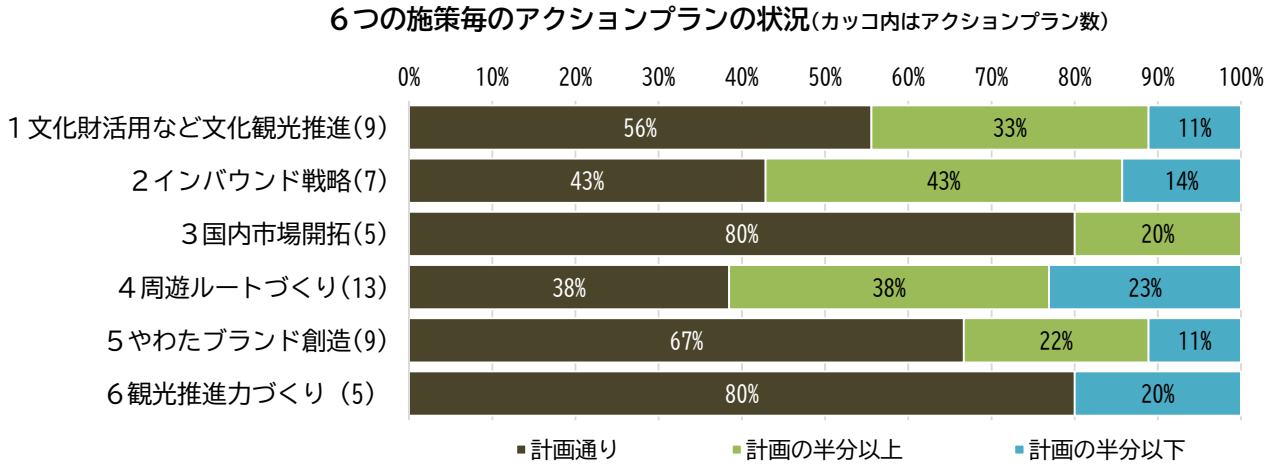


図 32　６つの施策毎のアクションプランの状況

③指標の達成度

前計画の４年目の指標の達成状況は以下の通りで、前計画はコロナ禍の影響もあり、４年目の現段階で目標達成できていないものが多くなっています。

基準年度よりも、実績値が下がったものも多く、今後上昇させていかなければなりません。

表 2　**指標の達成度**

		基準 2017（H29）	目標 2023（R5）	2022（R4） 実績
1	観光入込客数（通年）	260 万人	**285 万人**	189 万人
2	初詣・さくら花見客を除いた観光入込客数	171 万人	**193 万人**	148 万人
3	観光消費額	63,800 万円	**85,000 万円**	53,700 万円
4	観光情報ハウス外国人来訪者数	900 人	**1,100 人**	73 人
5	宿泊施設定員稼働率	12%	**20%**	5.6%
6	リピート率※	53%	**62%**	－
7	八幡への愛着や誇りを感じる市民の割合（2016 年⇒2022 年）	20%	**55%**	53%

※：リピート率は、令和元年調査より京都府観光動向調査「お茶の京都」報告書の調査時点ごとの項目が削除されたため算定不可。

（４）八幡市の強み弱み分析（ＳＷＯＴ分析）

観光を取り巻く動向と、前計画の取組の成果も踏まえ、八幡市の強みと弱みの分析を行いました。

強みと機会を活かして進めることは、「文化資源を楽しむ商品やおもてなしの拡充。大阪・関西万博を契機にインバウンドを拡大し、継続した取り込みにつながる受入体制整備や商品開発。鉄道と連携した観光客の誘致。」があげられます。

弱みを克服し脅威を避けるため「市民の意識醸成（八幡ストーリーの浸透）。滞在環境（宿泊・買い物・周遊）の整備。人材の確保（発掘・育成）。」を進める必要があります。

表３　SWOT 分析

	主な強み	主な弱み
内部環境	**文化資源** 【文化観光に向けた準備】「未来戦略」をはじめレガシー形成事業による石清水八幡宮を核とする「神仏習合」をテーマに文化観光のまちづくりの検討が進んでいる。 【文化財】国宝の石清水八幡宮、名勝の松花堂庭園のほか、神應寺、善法律寺、正法寺、円福寺など文化財指定の建造物や仏像等が豊富にある。 【文化資源】エジソンが使った八幡の竹や、二宮忠八ゆかりの飛行神社など、文化資源が豊富である。 【日本文化体験】松花堂庭園での茶席の体験や松花堂弁当など、日本の文化を体験できる。 **立地・環境** 【交通立地】大阪と京都の二大観光都市の中央に位置し、新たに舟運の活用が進められる。 【自然資源】他に類のない三川合流部にある背割堤、駅から数分の位置に石清水八幡宮のある男山や、茶畑の広がる流れ橋などの豊かな自然がある。 【話題性のあるスポット】航空業界に人気の「飛行神社」、刀剣女子の聖地「相槌神社」、東京五輪をきっかけに注目を集めたスケートボードパークがある。 **産業** 【近郊農業】大都市の近郊農業生産地として、多様な農作物があり観光農園や若い熱心な生産者がいる。 【商工業】やわたブランド「ヤワタカラ」の認定による PR が進む。誘致圏の広いスーパーや、工業地域を有し製造業が多く立地する。	**観光の状況** 【観光資源】歴史・文化などの豊富な観光資源が十分に活用されていない。 【観光消費額】宿泊施設、飲食店、土産物が購入できる場所が少ないため、観光消費額が低い。 【周遊・滞在性】周遊・滞在の中心となる東高野街道の街並み、歩く環境の魅力が乏しい。 【宿泊施設】コロナ禍が追い打ちをかけて宿泊施設が縮小した。 【石清水八幡宮駅前】商業施設が撤退、観光地らしい賑わいがない。 【外国人対応】訪日外国人旅行者への情報発信、受入体制の整備が遅れている。 改善の戦略は策定 【繁忙期との格差】１月の初詣、４月の桜に集中し、年間を通した集客が弱い。 **観光資源を取り巻く環境** 【自然災害】近年多発する自然災害により文化財や自然資源が受ける被害が大きい（流れ橋の流出など）。 【市民への魅力発信】旅先で出会う観光資源の一つである「人」＝市民に、文化資源が浸透しておらず、市民への魅力発信が十分とは言えない。
	主な機会	**主な脅威**
外部環境	【訪日外国人旅行者増加】2025 年日本国際博覧会（大阪・関西万博）開催、2027 年ワールドマスターズゲーム関西により訪日外国人旅行者が急増する。 【広域交通充実】2027 年度に新名神高速道路の八幡京田辺から高槻間が開通予定。 【広域連携体制確立】お茶の京都 DMO 設立による広域連携体制が整い、広域での展開が進む。 【文化財活用政策】文化庁の京都移転による具体的な文化財活用の環境が整う。 【ニーズの多様化】サイクリング人口の増加、ゲームなどの聖地巡礼のブームが顕著となる。人との交流などを重視。持続可能な観光であることが前提。 【和食・日本食】和食がユネスコ無形文化遺産に登録され、海外でも日本食ブームが起きている。 【外国人市民】外国人住民の増加（約 1,500 人）による市内でのインバウンド対応の可能性拡大。	【感染症】新型コロナウイルス感染症拡大による緊急事態は終焉するも脅威は消えず国内観光の姿が不透明。 【宿泊拠点】大阪・京都での宿泊需要が急速に増加するなか、山城地域をはじめ地方部での宿泊施設の供給が極めて少なく、宿泊施設の整備が課題となっている。 【国内観光需要】人口減少、少子化による国内観光旅行者数が減少し将来の観光市場が縮小する。物価や人件費の高騰などに伴う旅行費の増加に伴う旅行人口への影響。 【観光産業のあり方・人材】観光産業の生産性・労働環境が改善されず、観光産業に従事する担い手が不足している。 【観光戦略格差】大阪・京都の大都市と地方部での観光格差の広がり、先進的に取り組む地域と整備が遅れる地域との格差拡大が予想される。

強みと機会を活かして進めること

- **文化資源を楽しむ商品やおもてなしの拡充**
- **大阪・関西万博を契機にインバウンドを拡大し、継続した取り込みにつながる受入体制整備や商品開発**
- **鉄道と連携した観光客の誘致**

弱みを克服し脅威を避けるために進めること

- **市民の意識醸成（八幡ストーリーの浸透）**
- **石清水八幡宮駅前を中心とした滞在環境（宿泊・買い物・周遊）の整備**
- **人材の確保（発掘・育成）**

３．八幡市観光振興の課題の整理

本市を取り巻く現状から、本市の観光振興に係る課題は以下の５つにまとめられます。

①観光消費につながる商品、機会の場が少ない

飲食や土産物など観光客に求められる消費の場が少ないことは積年の課題です。

コロナ禍で後退した石清水八幡宮駅前店舗や石清水八幡宮周辺の観光施設は、特に立て直しが求められます。

②歴史的価値に見合わない知名度の低さ

石清水八幡宮は国宝かつ史跡であり、世界遺産・古都京都の文化財の構成資産に劣らない高い文化財的価値を誇りますが、観光地としての魅力不足や情報発信が不十分であることなどから知名度が高いとは言えない状況です。

資源の文化的価値を活かした観光地としての魅力を引き出すことが求められます。

③一時に集中する来訪者と閑散期の格差が大きい

初詣と桜の時期に来訪者が一時に集中し、閑散期が長いことから、観光事業者が進出しにくい状況です。

大阪や京都のインバウンド需要を取り込むなど、年間を通して観光客が訪れる仕掛けづくりが求められます。

④活かすべき資源を見定め、徹底的に活かす「選択と集中」が必要

桜で有名な背割堤や京阪神では稀有な男山の自然などの資源は、観光資源としてこれまで以上の活用の可能性を有しています。しかし、これらの資源は今後の保全も懸案となり、全ての資源を保全するには手間も費用も必要となります。

資源の有効活用による保全の仕組みを確立するために、活かすべき資源の見定めと活かす工夫が求められます。

⑤観光まちづくりを進める体制づくりが必要

観光まちづくりには、総合的、体系的に地域経営を推進する体制を有することが有効ですが、本市にはその体制が不十分です。

石清水八幡宮や民間と行政が協力・補完し合いながら、まちづくりを行う組織が必要です。

第3章 基本理念と方針

1．基本理念

前章で整理した八幡市を取り巻く現状と課題を踏まえ、「第５次八幡市総合計画」の将来都市像「みんなで創って好きになる　健やかで心豊かに暮らせるまち」の実現に向け、市民も訪れる人も幸せと出会う「観幸」のまちという前計画の理念を発展させ、文化観光の推進を中心に据えた新たな観光まちづくりを目指し、以下の基本理念を設定します。

基本理念

創りつながる　文化観光のまち　やわた
～人と自然、「神と仏」に出会うまち～

八幡のまちは平安時代に成立した石清水八幡宮を中心に発展し、山上・山下と神領であった町を合わせ「境内都市」※1と表現されるほど隆盛を極めました。

明治期の神仏分離まで、石清水八幡宮寺は神社と寺が融合した唯一無二の存在として、神も仏も大事にする「神仏習合」の心を日本に広める核となってきました。このことを受け継ぎ、八幡市が平和を重んじる日本独特の「神仏習合」の世界観を発信できるまちであるということは、他にはない重要な個性といえます。

東高野街道や京街道でつながるまちには、石清水八幡宮から移された仏堂などの建築や仏像があり、庭ごと移された草庵「松花堂」など、神仏習合のストーリーを構成する文化財が多数点在しています。ほかにも、ライト兄弟に先駆けて飛行原理を発明した二宮忠八、八幡の竹を使って世界に光を与えたエジソン、石清水八幡宮の社僧・松花堂昭乗の茶文化と松花堂弁当の誕生など、世界から多くの人々を惹きつける物語があり、この彩り豊かな歴史文化を、男山の緑や三川合流の豊かな自然環境、桜のトンネルといわれる背割堤、「流れ橋」と浜茶の景観などが取り巻いています。

これらの貴重な資源を活かして、市民や国・府・関係機関を巻き込みながら玄関口である石清水八幡宮駅前をはじめ、まちのストーリーや世界観を感じられる空間を創造するとともに、点在する歴史的資源をつなぎ、その外側にも周遊を広げることでまちの魅力を面的に創ります。

また、観光を通じて地域経済の活性につなげることで、貴重な歴史的資源の次世代への継承と持続可能な観光まちづくりを目指します。

※1　「境内都市」は石清水八幡宮研究の第一人者である鍛代敏雄氏が提唱されていて、「寺社門前町とともに境内伽藍や坊舎地をも含み、戦国宗教領主の石清水八幡宮寺と境内郷町との有機的な人的構成を総合的に捉え直すための枠組みとして用いる都市の分析概念のこと」とされている。（鍛代敏雄「戦国期の境内都市『八幡』の構造」（『戦国期の石清水と本願寺』法蔵館 2008 年、33 頁注 4）

～本計画のターゲットと「未来戦略」（文化観光）のターゲット設定の考え方～

「未来戦略」は文化観光のターゲットを設定（以下の図参照）しており、本計画も同様の考え方で設定します。

既存訪問者の中心である、近畿圏のマイクロツーリズムを楽しむ層と参拝や人生儀礼での訪問者に加えて、新規ターゲット層として知的体験・アウトドアニーズ層を設定します。

さらに、設定したターゲットに対し、市内各所への周遊を促進することで、

既存ターゲット層が
⇒「プラスワン」で市内の訪問地を選ぶ

舟運ルート設定などで拡大する新規のターゲット層（知的体験やアウトドアニーズ層）が、
⇒文化観光が根付く地である三川合流付近での各種体験を選ぶ

として、各取組を進めます。

現在、石清水八幡宮への来訪者の約９割が近畿圏からの来訪であり、他方、京都市には近畿圏外からの来訪者が約６割を占めている状況です。

「未来戦略」のなかで観光誘致を図るターゲットとして、まずは、既存訪問者の中心である京都・大阪を中心とした近畿圏からの来訪者を設定しています。その多くがマイクロツーリズムを楽しむ層と、参拝や人生儀礼での訪問者で、人数は多いものの観光消費が少ないことが課題であるため、石清水八幡宮やまちなかで、見どころや消費の場を増やすことが有効です。

神仏習合の聖地であったことが体感できるような整備が進めば、ここにしかない価値を感じられる知的体験、自然体験を求めて訪れる新たなターゲット層が獲得できると考えられます。

新たなターゲット層としては、歴史文化を求めて伊勢、高野山や熊野、比叡山を訪れるような日本全国および海外からの来訪者を設定します。

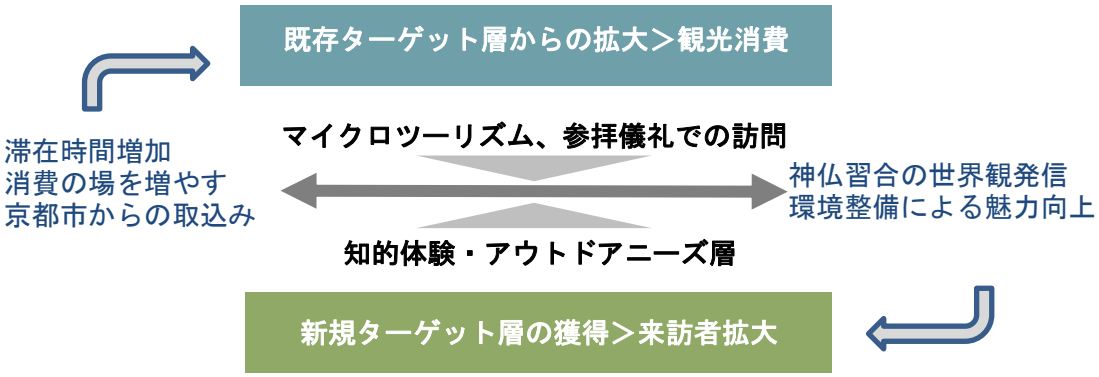


図 33　「未来戦略」で設定した文化観光のターゲット設定（「未来戦略」から抜粋）

2．基本方針

基本理念を実現するため、次の５つの基本方針により展開します。

前計画から継続して取り組む文化観光については、基本方針１「『神仏習合の聖地』の継承と創造」、基本方針２「東高野街道の保存・整備」を推進します。

大阪・関西万博を契機に展開する舟運を中心に、本市の特色である河川を題材として、基本方針３「川辺を活かしたまちづくり」を推進します。

また、課題となっている観光消費の増加を図るため、基本方針４「観光からの産業創造」を推進し、これらの施策の実行力を高めるため、基本方針５「観光推進力の強化」に取り組みます。

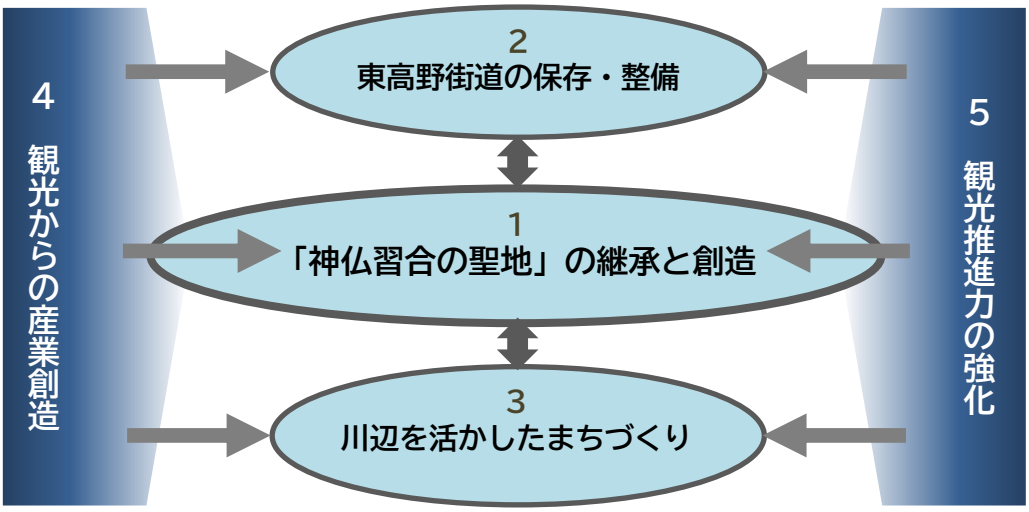


図 34　取組の概念図

基本方針１　「神仏習合の聖地」の継承と創造

昨年度の「未来戦略」で設定した石清水八幡宮を中心とした観光のコンセプト“「神仏習合の聖地」の創造”を受け継ぎ、本計画では、歴史的な呼称を用いて、本社周辺を「山上」、頓宮エリアから石清水八幡宮駅前を「山下」※1と表現し、国宝かつ史跡である石清水八幡宮と、その境内町※2として発展したわがまちの歴史的・文化的な価値を改めて捉え直して、石清水八幡宮の特色であった「神仏習合」を前面に打ち出して近隣市との差別化を図ります。

また、日本文化の源流ともいえる平和や寛容の精神がこのまちで形作られたことや、神仏分離後に市内各所に移された文化財が表す神仏習合のストーリーを伝えるとともに、こうした文化が生まれたまちらしい世界観を創り出すことにより、世界遺産にふさわしい姿を目指しながら、本市のブランド構築につなげます。これらの文化を活かす取組では、インバウンド対応も強化します。

※１：『石清水八幡宮境内調査報告書』2011 八幡市教育委員会、25 頁「境内の構成と立地」
※２：「境内町」「門前町」の使い分けは、「八幡境内町」について論じた藤本史子氏の定義に従ったもので、中世都市・八幡のうち都市として発達した町場域が「門前町」であり、その周縁および外側に広がる村落まで含むのが「境内町」である（藤本史子「中世八幡境内町の復元と都市構造」＜『年報 都市史研究』7、1999＞）。本計画や本市ブランドゴンセプトにある「門前町」の表現は、かつて都市的な発達を見せた参拝者向けの商業が発達した町場である「山下」と、境内町の範囲内の東高野街道沿い（松花堂庭園辺りまで）を指している。

基本方針２　東高野街道の保存・整備

東高野街道では、今も残る古民家が地域の歴史を醸し出し、昔ながらの景観を今に伝えています。2011(平成 23)年には、街道沿いの住民が中心となり「東高野街道八幡まちかど博物館協議会」が発足し、現在も「東高野街道八幡まちかどひなまつり」の取組が続けられているなど、東高野街道は地域の歴史文化に愛着と誇りを感じる拠り所となっています。

平安時代中期に都市的発達が始まる石清水八幡宮の門前町は数々の絵図に描かれ、街路は現代にも引き継がれていますが、歴史的な景観は日々失われている現状があります。

かつての門前町の賑わいを少しでも取り戻すため、石清水八幡宮との関わりの深い古民家や社寺など古建築の保存や活用、景観の魅力向上を図り、その再生を目指して取り組むことにより、地域住民の誇りや郷土愛に繋がり、地域の内外から人を惹きつける観光まちづくりに取り組みます。

基本方針３　川辺を活かしたまちづくり

2025（令和７）年に開催予定の大阪・関西万博での運航を目指して淀川舟運ルートの設定が進められており、本市の背割堤が新たな玄関口となることが期待されています。

これを受け「かわまちづくり」計画を策定し、2023（令和５）年８月に国土交通省により登録されました。計画では、宇治川、木津川を対象とし、事業実施範囲を「国営淀川河川公園の『背割堤地区』および『さくらであい館』を含む周辺エリア」として、「一年を通して自然に親しめる背割堤地区」をコンセプトにしています。

具体的には、船着場や親水護岸などの整備により、桜の季節以外においても目的地となるレジャースポット化を目指すもので、市民との協働による自然環境保全や、子育て環境の魅力向上も目指しながら、淀川舟運を通じた集客拡充に向け、観光船の就航の活用や、市内回遊性向上のためレンタサイクルなどを活用したアクセス手段の拡充を図ります。

この計画は、国による事業実施範囲の河川環境整備を推進する契機となるものですが、この取組を効果的に活用しながら、他の地域にもつなげます。特に、木津川上流には「流れ橋周辺・東部地区」、背割堤の南に「橋本駅地区」があり、これら川沿いの観光スポットに着目して川辺をつなぐ仕掛けづくりを進めます。

基本方針４　観光からの産業創造

本市の長年の課題として、長い歴史ゆえに土地や家屋の所有権が複雑化しており、官民によるまちづくりにつながる整備が思うように進まず、観光消費の場が少ないことや、新規事業者が参入しにくい環境があります。

しかし、国宝かつ史跡である石清水八幡宮は、数々の文学の舞台や芸能の題材であったり、「松花堂弁当」「八幡巻き」など市起源の食文化があるなど、高い歴史的・文化的価値を有しており、これらを十分に活用し、観光を入り口とした地域産業の発展を目指します。

そのために必要な視点が「観光産業の広がり」であり、来訪者に対してサービスを提供する事業者や、魅力的な特産品が増えることで、地域経済の活性化につなげます。消費の場も観光客にとって魅力的なものであれば、来訪の動機にもなり得ます。特に石清水八幡宮駅前は、本市へのエントランスともいえる空間であるため、それにふさわしい空間づくりを進めます。

基本方針５　観光推進力の強化

基本方針１および２で示した歴史的資源を活用した観光まちづくりと、そこから基本方針４で描いた観光からの産業創造につなげる取組については、政府が官民連携推進チームをつくって全国的に支援を進めています。

本市においても、歴史的資源の活用を地域の未来を創る鍵と位置づけ、地域経営に向けた観光まちづくりに重要とされる「人」を見出し、育て、より大きな力とする上で大きな役割を果たすとされる、協議会やまちづくり会社といった体制づくりに取り組みます。

観光客も一過性でなく地域のファンとして、交流人口から関係人口、さらには移住や定住へのつながりも期待できることから、国内外から人々を惹きつけるまちづくりのための財源の確保に取り組みます。

また情報収集能力を向上し、観光客の動向分析などを通じ観光客にとって魅力的なサービス提供や施策の立案につなげるために、デジタル技術を利活用する観光ＤＸに取り組みます。

３．指標設定

基本理念と方針に基づく本計画の指標とその目標値を設定し、計画を推進します。
本市の観光課題（P.25）に対応した７項目の指標を設定し、計画を進めます。

指標	現状値 2022(令和４)年	目標値 2028(令和 10)年
観光消費額※1	53,700 万円	80,000 万円
京都府観光客動向調査による一人あたりの使用額※2	1,113 円	2,000 円
観光入込客数（通年）	189 万人	261 万人
初詣・さくら花見客を除いた観光入込客数	148 万人	200 万人
市内外国人滞在者数※3	12,447 人	18,000 人
八幡ストーリー＆ガイドアクセス数	14,035 件	20,000 件
わがまち・八幡への愛着や誇りを感じる市民の割合	53%	60%

※１　**観光消費額**：八幡市主要観光地（八幡市統計書参照）の売上げに加え、民間宿泊施設の売上げを加えたもの。なお、京都吉兆松花堂店以外の民間飲食店の売上げは含まない。
※２　**京都府観光客動向調査による一人あたりの使用額**：京都府が実施する京都府観光客動向（実態）調査において、石清水八幡宮での回答者のうち、前後の訪問地点が他市町村でない人を抽出。抽出者の使用額から、交通費、宿泊費およびパック料金を除いた平均値。（買い物代、飲食費、入場料など）
※３　**外国人滞在者数**：昼間帯（10 時から 18 時の間）または夜間帯（2 時から 5 時の間）に、2 時間以上滞在した外国人数を日別に算出し、対象期間の日数分を積算した延べ人数を表している。同一人物が複数の地域に滞在した場合、複数カウントしている。同一人物が該当地域に複数日に跨がって滞在した場合、複数カウントしている。【出典】株式会社ＮＴＴドコモ・株式会社ドコモ・インサイトマーケティング「モバイル空間統計®」

第4章 アクションプラン

５つの基本方針、15 のテーマ、30 のアクションプランは以下の体系で進めます。

（★重点プラン）

【基本方針】	【テーマ】	【アクションプラン】
基本方針１ 「神仏習合の聖地」の継承と創造	A 石清水八幡宮・山上の魅力向上	①新・空中茶室創造につなげる山上の魅力向上★ ②男山四十八坊跡等、男山の環境整備と活用
	B 石清水八幡宮・山下の活性化、アクセス性の向上	①エリアの入口となる頓宮周辺の魅力向上 ②歩いて上がる仕掛けとアクセス性の向上
	C インバウンド受入体制整備と発信	①高付加価値の体験提供と受入体制整備★ ②海外へのプロモーション
「未来戦略」の実現		
基本方針２ 東高野街道の保存・整備	A 古民家活用の体制・仕組みづくり	①拠点古民家の活用★ ②古民家を活用した事業推進
	B 歩きやすい街道の環境整備と交通規制	①歩きやすい街道の環境整備 ②交通規制と誘客ルートの開拓
	C 神仏習合のストーリー発信	①松花堂庭園の魅力創出★ ②ストーリーを活かしたソフト事業の展開
「未来戦略」の実現		
基本方針３ 川辺を活かしたまちづくり	A 背割堤地区の水辺環境の整備と賑わいづくり	①アクティビティ客の誘導と環境の充実 ②多様な活動拠点としての賑わい創出★
	B 淀川舟運とサイクリングの充実	①舟運を活かした広域観光ルートの整備 ②サイクリングでの多様な楽しみ方の発信
	C 川辺をつなぐ仕掛けづくり	①川辺の活性化 ②市内周遊環境の整備
かわまちづくりの推進		
基本方針４ 観光からの産業創造	A 駅前の空間づくり	①エントランスとしてふさわしい駅前整備★
	B 特産品の魅力向上	①「ヤワタカラ」の認知度向上と販売促進 ②特産品の開発とふるさと納税制度への活用
	C 地域産業の活性化	①農業との連携 ②市内商工業との連携 ③観光関連事業者の誘致
基本方針５ 観光推進力の強化	A 推進体制の構築	①推進組織の形成★ ②財源の確保
	B 観光人材の発掘と活躍	①観光人材の発掘と活用 ②観光ボランティアガイドの拡充
	C 観光ＤＸの推進	①ビッグデータを活用した動向分析 ②デジタル技術を活用した旅行者の利便性向上

基本方針１　「神仏習合の聖地」の継承と創造

１-Ａ　石清水八幡宮・山上の魅力向上

本市観光の中核である石清水八幡宮が世界遺産にふさわしい姿となるには、全域が史跡である境内の多様な資源の磨き上げが必要となります。

史跡の本質的価値である「神仏習合の宮寺」を感じ、日本古来の神道と大陸由来の仏教を合わせ祀った日本的な寛容の精神や、自然との共生、そこに育まれた茶文化や節供など、日本の伝統文化を知ることができる場所となるよう、文化財の保存を図り、境内のさらなる魅力向上を目指して、男山四十八坊跡や男山展望台など一帯の環境整備と活用を推進します。

①新・空中茶室創造につなげる山上の魅力向上★

アクションプラン内容	主体・関係者	スケジュール	
山上にある男山展望台では、古都京都の裏鬼門を守護してきた地であることを実感できる場として、眺望や文化的価値を活かした整備を行うとともに、新・空中茶室創造への機運醸成を図ります。	八幡市 石清水八幡宮 等	2024	検討
		2025	▼
		2026	実施
		2027	▼
		2028	▼

②男山四十八坊跡等、男山の環境整備と活用

瀧本坊跡を空中茶室・閑雲軒を感じられる名所として整備し、他の坊跡も環境整備を進め、歴史や自然を題材としたツアーなど活用を図り、境内の参道および男山散策路では、エジソンと八幡の竹との関係にも注目し、竹林の美しさを活かした取組やＰＲを展開します。	八幡市 石清水八幡宮 事業者 等	2024	強化実施
		2025	▼
		2026	継続実施
		2027	▼
		2028	▼

空中茶室「閑雲軒」イメージ

出典：八幡ストーリー＆ガイド　03 茶文化　より

1－B　石清水八幡宮・山下の活性化、アクセス性の向上

石清水八幡宮の境内は、古くより「山上山下」と呼ばれており、山下エリアの活性化が観光まちづくりの鍵となります。

石清水八幡宮駅から一ノ鳥居までの導線をわかりやすくするとともに、頓宮の公開などを通して建物の意義や祭祀が受け継ぐ文化を伝えるなど、頓宮周辺の魅力向上を図ります。

また、石清水八幡宮の魅力のひとつとして、来訪者に鎮守の森と神仏習合の世界観を感じてもらうために、山上山下を結ぶ導線の形成とアクセス性の向上に取り組みます。

①エリアの入口となる頓宮周辺の魅力向上

アクションプラン内容	主体・関係者	スケジュール	
下賜建物である頓宮斎館・頓宮参集所の公開を通じての活用を検討するとともに、未利用施設の活用策の検討、トイレ改修、駐車場周辺の整備など、頓宮周辺地区の魅力向上を図ります。	石清水八幡宮 事業者 八幡市 等	2024	検討
		2025	▼
		2026	▼
		2027	実施
		2028	▼

②歩いて上がる仕掛けとアクセス性の向上

男山を歩いて上がりたくなるような仕掛けづくりと、ＰＲを実施します。 また、ケーブルカー利用・自動車利用のそれぞれの利便性向上を図るとともに、バリアフリー対策を実施します。	石清水八幡宮 八幡市 事業者 等	2024	強化実施
		2025	▼
		2026	継続実施
		2027	▼
		2028	▼

石清水八幡宮とその門前町で「神仏習合の祈りの聖地」を目指す

各事業が相互に作用し、認知度が高まり、国内外から人を惹きつける「神仏習合の祈りの聖地」を形成する。市民の誇りの醸成とともに、賑わいにより地域経済が活性化する好循環が生まれる。

※全域が史跡(展望台エリアを除く)。活用には遺構の保護が大前提となり、整備基本計画立案が必要。

出典：観光庁［令和４年度 将来にわたって旅行者を惹きつける地域・日本の新たなレカシー形成事業］
近畿運輸局【神仏習合の祈りの聖地、石清水八幡宮での空中茶室「閑雲軒」の復活と男山四十八坊の賑わい創造にかかる実現可能性調査及びプラン策定事業】（対象地域：京都府八幡市）を合成

1-C　インバウンド受入体制整備と発信

近隣の京都市や大阪市には、すでに多くの訪日外国人旅行者が来訪しており、大阪・関西万博を契機にさらなる関西の訪日外国人旅行者の増加が期待されています。本市に訪日外国人旅行者をこれまで以上に誘致するためには、本市を訪れたくなるきっかけづくりと受入体制の整備が必要です。

そのため、言語・文化への対応や利便性の向上など訪日外国人旅行者の受入体制の整備とともに、訪日外国人旅行者のニーズに合わせた体験や食事などの商品開発を進めます。

また、お茶の京都ＤＭＯや京都府と連携した海外への情報発信、訪日外国人旅行者への情報発信を進めます。

①高付加価値の体験提供と受入体制整備★

アクションプラン内容	主体・関係者	スケジュール	
富裕層やＭＩＣＥ※に向け、石清水八幡宮や松花堂庭園での特別な伝統文化体験と地元産にこだわった飲食提供を組み合わせた高付加価値な商品を造成します。 また、看板整備や街歩きマップ作製など、インバウンドの受入体制を整備します。	観光協会 お茶の京都 DMO やわた市民文化事業団 四季彩館 ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱｶﾞｲﾄﾞ 商工会　等	2024	強化実施
		2025	▼大阪･関西万博
		2026	継続実施
		2027	▼
		2028	▼

②海外へのプロモーション

旅行会社と連携した売り込みを行うとともに、インターネットを活用した情報発信を進め、訪日外国人旅行者の本市への誘致に努めます。 また、大阪・関西万博会場や主要駅、空港などで本市のＰＲを行います。	観光協会 やわた市民文化事業団 八幡市 お茶の京都 DMO 京都府　等	2024	強化実施
		2025	▼大阪･関西万博
		2026	継続実施
		2027	▼
		2028	▼

※1　ＭＩＣＥ：Meeting Incentive Convention Event/Exhibition の略。集客や交流が見込まれるビジネスイベントなどの総称。

基本方針２　東高野街道の保存・整備

2-A　古民家活用の体制・仕組みづくり

八幡のまちは、歴史的に石清水八幡宮の境内町として発展してきましたが、自動車の普及や近代の鉄道駅、ケーブルカーによる交通動線の変化、戦後の社会情勢の変化に伴い、石清水八幡宮の「山下」（宿院）周辺から東高野街道沿いは商業の集積密度が低い状況となっており、境内町内にあった門前町の賑わいを取り戻すため、古民家をはじめとする歴史的な景観の保全や活用、便益施設の検討など、魅力向上を図ります。

そのため、東高野街道での神仏習合の歴史を掘り起こし、貴重な古民家を宿泊や飲食に活用する体制・仕組みづくりやその魅力向上に取り組みます。

①拠点古民家の活用★

アクションプラン内容	主体・関係者	スケジュール	
中間地点の拠点として候補に挙がる古民家の活用の可能性を調査して、具体策を検討します。 また、すでに活用されている文化財的価値が高い古民家と連携した取組を検討します。	事業者 八幡市 観光協会 等	2024	調査・検討
		2025	▼
		2026	▼
		2027	実施
		2028	▼

②古民家を活用した事業推進

古民家の保存に関する相談体制の構築や維持管理に係る負担軽減につながる方策の検討、古民家の活用希望者とマッチングする仕組みを検討します。 また、空き店舗への出店を促進するとともに、街道沿い既存店舗の継続営業を図るため、事業継承についての支援などを行います。	八幡市 事業者 観光協会 商工会 等	2024	調査・検討
		2025	▼
		2026	▼
		2027	実施
		2028	▼

古民家カフェ

古民家を活用した宿泊施設

2-B　歩きやすい街道の環境整備と交通規制

神原エリアの神原交差点以北は、善法律寺前の道路と本来の街道筋の両者をつなぐ経路がわかりにくく、また車の交通量が多いことから、歩行者の安全確保を図るため、来訪者が迷わず、楽しく歩ける環境整備を進めるとともに、駐車場のあり方、歩行者の安全確保の方策を検討し、歩きやすい街道の環境整備を進めます。

また、鉄道だけでなく、バスや空港利用者のアクセス向上に加え、観光客が楽しめるエリア間の移動手段についての検討を進めます。

①歩きやすい街道の環境整備

アクションプラン内容	主体・関係者	スケジュール	
観光客が歩きたくなる環境づくりを目指し、石清水八幡宮駅前から松花堂庭園・美術館までの案内看板やエリア別の共通看板を整備するとともに、修景やトイレなどの環境向上について検討します。	八幡市 事業者 観光協会 等	2024	検討
		2025	▼
		2026	▼
		2027	検討・実施
		2028	▼

②交通規制と誘客ルートの開拓

駐車場問題や歩行者の安全性確保について、地域住民とともに検討を進めます。 また、樟葉駅や松井山手駅からの誘客ルートを開拓し、効果的なＰＲを行います。	八幡市 事業者 観光協会 等	2024	調査・検討
		2025	▼
		2026	▼
		2027	▼
		2028	▼

街道の路面整備

東高野街道の景観

2-C　神仏習合のストーリー発信

石清水八幡宮にかつてあった建造物や仏像が、明治時代の神仏分離によって移設され街道沿いに点在しているのが東高野街道の特徴です。境内町の南詰めにあって男山から移設された建造物や庭園を核とする松花堂庭園は、神仏習合のストーリー発信の拠点となることで、関連施設への周遊につながります。加えて、お茶体験などインバウンドの取込みを図ります。

東高野街道沿いではウェブコンテンツ「八幡ストーリー＆ガイド」に描かれた神仏習合をはじめ、エジソンや二宮忠八、松花堂昭乗などの物語を効果的に活用して八幡の魅力を広げます。

①松花堂庭園の魅力創出★

アクションプラン内容	主体・関係者	スケジュール	
石清水八幡宮との相互誘客を図るとともに、お茶会体験を核とした高付加価値の体験提供やＭＩＣＥ利用の推進など、多様な使い方を目指しつつ、日本文化を広めるインバウンドの拠点としての利用を促進します。	やわた市民文化事業団 八幡市 等	2024	継続実施
		2025	▼
		2026	▼
		2027	▼
		2028	▼

②ストーリーを活かしたソフト事業の展開

神仏習合のストーリーをはじめ、多様なまちの物語を題材にして周遊を促進するとともに、体験や商品づくりを活かします。 また、集客力の高いグルメやフォトスポットと絡め、スポット間を連携できるようなイベントを定期開催するなど、充実を図ります。	事業者 社寺 やわた市民文化事業団 観光協会 市民団体 八幡市 等	2024	計画
		2025	実施
		2026	▼
		2027	▼
		2028	▼

松花堂庭園でのお茶体験

松花堂ふれあい市

松花堂つばきウィーク

神仏分離のストーリーを伝える八角堂

基本方針３　川辺を活かしたまちづくり

３-Ａ　背割堤地区の水辺環境の整備と賑わいづくり

桜並木が有名な淀川河川公園背割堤地区ですが、春の「背割堤さくらまつり」以外の時期も多くのサイクリストで賑わっており、マルシェや水辺のアクティビティなどのイベント集客も定着しつつあります。

国に登録された「かわまちづくり計画」に基づき、2025 年の大阪・関西万博の開催を契機に、国や府、近隣市町村と連携し、舟運を核とした広域連携を進めるとともに、さくらであい館の拠点としての機能を強化し、水辺の多様な利用によるにぎわいの創出に取り組んでいきます。

①アクティビティ客の誘導と環境の充実

アクションプラン内容	主体・関係者	スケジュール	
背割堤地区で、バーベキューやアクティビティなど水辺あそびに便利な手洗い場や、大阪からの観光客を迎える船着き場、護岸などの整備のほか、背割堤地区へ誘導するための案内板整備を行います。	さくらであい館 八幡市 淀川河川事務所 等	2024	検討・一部実施
		2025	▼大阪･関西万博
		2026	▼
		2027	▼
		2028	▼

②多様な活動拠点としての賑わい創出★

イベントの誘致やマルシェ開催など集客の機会を企画し、キッチンカーなど市内事業者の出店を促進します。 また手ぶらバーベキューの環境整備やグルメなど集客力の高いイベント開催、自然環境学習などにより、年間を通したエリアの賑わい創出を図ります。	さくらであい館 事業者 八幡市 観光協会 等	2024	強化実施
		2025	▼
		2026	継続実施
		2027	▼
		2028	▼

淀川河川公園・背割堤地区
一年を通して自然を楽しめる地区を目指す「かわまちづくり計画」
豊かな自然環境の水辺を生かした多目的空間の創出や、淀川舟運再生による上下流軸・まちのにぎわいづくりに向けた取組を進める。
■豊かな自然環境を活用した多目的活動空間の提供
■さくらであい館を活用したアウトドアアクティビティの提供
■舟運復活による市内への誘客

3-B　淀川舟運とサイクリングの充実

淀川河川公園背割堤地区は2025（令和７）年に開催予定の大阪・関西万博での運航を目指して整備が進められている淀川舟運ルートにおいて、京都への最初の玄関口となるため観光ルートの充実を図ります。三川合流の地にある背割堤は、堤防沿いのサイクリングロードを通して、淀川から枚方市域、桂川を介して乙訓地域、宇治川から伏見・宇治、木津川を介してお茶の京都地域につながっていることから、地理的強みを活かし、周辺地域への出発点・中継点となる「ハブ」機能を強化し、人がさらに集まる場となることを目指します。

①舟運を活かした広域観光ルートの整備

アクションプラン内容	主体・関係者	スケジュール	
淀川・宇治川沿川市町と連携した舟運ルートの整備を通じて、新たな観光ルートを確立します。また京都と大阪をつなぐ近隣市町のハブ的存在を目指して、船と電車、バス、自家用車の組み合わせで移動する観光ルートを整備します。	淀川河川事務所 八幡市 事業者 淀川舟運活性化協議会 等	2024	継続実施 （淀川浚渫実施）
		2025	▼大阪･関西万博
		2026	▼
		2027	▼
		2028	▼

②サイクリングでの多様な楽しみ方の発信

広域サイクリングロードからの立寄りが多いさくらであい館で市内観光スポットの情報などを提供し、市内への周遊を促進します。 レンタサイクルなどでの川沿いサイクリングの魅力やまちなか散策の魅力を発信します。	観光協会 八幡市 お茶の京都 DMO 商工会 事業者 等	2024	継続実施
		2025	▼
		2026	▼
		2027	▼
		2028	▼

背割堤さくらまつりお花見船

木津川サイクリングロード

3-C　川辺をつなぐ仕掛けづくり

木津川に架かる「流れ橋」（上津屋橋）は、近年本市の絶景スポットとして度々雑誌に取り上げられています。その周辺は、日本遺産で京都府景観資産である流れ橋周辺の「浜茶」の景観や、国の重要文化財・伊佐家住宅のほか、レストランと農産物直売所がある流れ橋交流プラザ「四季彩館」があり、コロナ禍で後退した来訪者を取り戻します。

もうひとつの川辺である橋本地区は、かつて多くの人が利用した「橋本の渡し」があり、京街道の景観を色濃く残しています。近年民間事業者による旧橋本遊郭跡の古建築活用や、大規模な橋本駅周辺整備工事などで注目の地区で、隣接する史跡・楠葉台場跡を通した枚方市との連携により、活性化を図ります。両地区をかわまちづくりの中心となる背割堤地区とつないで発信することで、川辺の景観の魅力や、地域の文化の再発見につなげるとともに、公園施設などスポーティなアクティビティとの連携も視野に、移動手段や便益施設の利便性向上を図ります。

①川辺の活性化

アクションプラン内容	主体・関係者	スケジュール	
流れ橋から背割堤、背割堤から橋本へ、川下りをはじめとした川辺をつなぐ仕掛けづくりに取り組むとともに、季節や時間ごとの風景の魅力発信や、川辺の拠点となるスポットの磨き上げを行います。	観光協会 八幡市 事業者 四季彩館 等	2024	検討
		2025	実施
		2026	▼
		2027	▼
		2028	▼

②市内周遊環境の整備

流れ橋や橋本など広域の移動に必要なレンタサイクルやバス、その他の２次交通や、トイレ環境など快適な周遊の環境整備を図ります。またモンキーチャレンジ(雲梯)やスケートボードパークなど施設との連携を促進します。	観光協会 八幡市 事業者 等	2024	調査・検討
		2025	▼
		2026	▼
		2027	実施
		2028	▼

流れ橋

スケートボードパーク

基本方針４　観光からの産業創造

４-Ａ　駅前の空間づくり

石清水八幡宮の「山下」、現在の一ノ鳥居周辺の頓宮エリアには、平安時代からすでに市が立っていたそうで、かつては『徒然草』第五十二段に登場する仁和寺の法師が間違えるほど、神々しさと賑わいがあったようです。明治の廃仏毀釈や鳥羽伏見の戦いでの荒廃から復興し、戦前には門前の賑わいを取り戻したものの、中心市街地の空洞化により商業の集積密度が低い状況となっています。

観光客をもてなす玄関口として観光事業者の出店意欲を高めるため、石清水八幡宮駅に降り立った際に、「神仏習合の聖地」を目指す石清水八幡宮にふさわしいと感じる駅前空間に向けた整備に取り組むとともに、「エンジン通り」のようにエジソンの逸話の活用も検討します。

①エントランスとしてふさわしい駅前整備★

アクションプラン内容	主体・関係者	スケジュール	
石清水八幡宮駅ロータリー及び周辺の来訪者の受入機能強化や踏切整備とともに、駅から石清水八幡宮周辺のファサード改善など、景観対策を通して、「神仏習合の聖地」にふさわしい空間づくりを行います。	事業者 八幡市 観光協会 等	2024	調査・検討
		2025	▼
		2026	▼
		2027	▼
		2028	実施

石清水八幡宮駅前

一ノ鳥居前

4-B　特産品の魅力向上

地域ならではの特産品は、観光客の満足度を上げ、事業者の収益を増やし経済効果をもたらすことから、前計画のもと2021（令和３）年にやわたブランド「ヤワタカラ」として、市と商工会が連携し地域ブランドを立ち上げました。「ヤワタカラ」認定制度の拡充や認知度向上を通じて、地域の資源や知恵を最大限に活用し、地域の価値を高め、観光客の誘致や地域の活性化につなげるとともに、石清水八幡宮駅前で「ヤワタカラ」が手に取れる機会を増やします。

「ヤワタカラ」にとどまらず本市の産品を広く活用する視点も大切にし、ふるさと納税制度への活用を進めるとともに、「竹」などの本市ならではの資源に注目した新たな特産品開発や魅力発信へのムーブメントが市内事業者や地域内部から起きることを目指します。

①「ヤワタカラ」の認知度向上と販売促進

アクションプラン内容	主体・関係者	スケジュール	
「ヤワタカラ」認定制度の拡充を通じて商品の充実を目指すとともに、認知度向上および認定商品の磨き上げや、観光客が手に取ることができる販売所設置などの新たな販路開拓に取り組みます。	事業者 商工会 観光協会 八幡市 等	2024	継続実施
		2025	▼
		2026	▼
		2027	▼
		2028	▼

②特産品の開発とふるさと納税制度への活用

「竹」など特有の資源に注目した、域内の産業が連携できるような新たな特産品開発を目指します。 また、ふるさと納税制度の返礼品拡大にも取り組みます。	事業者 商工会 観光協会 八幡市 等	2024	検討
		2025	実施
		2026	▼
		2027	▼
		2028	▼

ヤワタカラの駅前特別販売

ヤワタカラのロゴ

4-C　地域産業の活性化

本市の産業は、都市圏に隣接する立地と充実した交通インフラを活用して展開しています。農業は、担い手農家を中心に、多様な品目を扱うなど、都市近郊農業として盛んに行われています。また、いちご狩りをはじめとする観光農園が市内に数カ所あります。

商工業は、市東部の工業団地などで、食品関係などの製造業を中心に、工場が多数立地しております。一部の事業所では、外国人の雇用も進み、商店街ではそのニーズに合わせた出店も見られるようになりました。

また、観光客の滞在時間や観光消費額の増加を図るには、飲食をはじめ、新たな体験やサービスなど、本市の観光コンテンツの一端を担える事業を誘致することが必要です。

これら市内産業と観光関連産業が連携し、観光を通じた地域産業の活性化を促進します。

①農業との連携

アクションプラン内容	主体・関係者	スケジュール	
観光農園や農業体験といった農業を題材にした観光資源の掘り起こしのほか、高付加価値作物の栽培や６次産業化、市内飲食店での農産物提供の促進を通じて、農産品の魅力向上を図り、農業を通した八幡ならではの魅力向上を目指します。	事業者 観光協会 商工会 八幡市 等	2024	継続実施
		2025	▼
		2026	▼
		2027	▼
		2028	▼

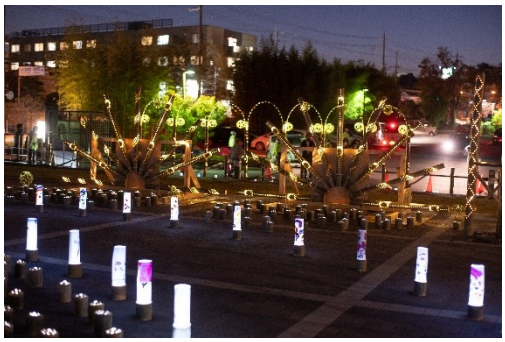
②市内商工業との連携

商工会を中心に商工業事業者と連携し、食品を含めた商工業製品などの観光活用を促進します。 また市内在住外国人との連携や、来訪者も参加できる商店街イベントとの連携を図ります。	事業者 商工会 観光協会 八幡市 等	2024	検討
		2025	▼
		2026	▼
		2027	実施
		2028	▼

③観光関連事業者の誘致

観光客向けの出店を可能とする場づくりや、本市への進出意欲をもつ民間事業者の誘致を積極的に行ない、観光事業への新規参入を促進します。	事業者 観光協会 八幡市 等	2024	調査・検討
		2025	▼
		2026	実施
		2027	▼
		2028	▼

いちご狩り


竹あかりイベント

基本方針５　観光推進力の強化

５－Ａ　推進体制の構築

本計画を強力に推進するためには、官民の連携が欠かせず、民間事業者の参入をいかに呼び込めるかが重要です。観光地としてのテーマが統一されている付加価値の高い観光まちづくりの実現には、本市観光の舵取り役となる組織が必要で、収益事業の創出は民間主導で行う必要があります。旅行業をもつお茶の京都ＤＭＯは旅行商品の販売もできる組織ですが、本市ならではの商品造成や販売、複数のスポットにまたがる団体客の受付などができるワンストップの仕組みも求められています。

また、本計画に描いた観光まちづくりのエリア整備のためには、市をあげて計画的に行う財源確保に向けた取組が必要となります。

①推進組織の形成★

アクションプラン内容	主体・関係者	スケジュール	
官民連携の観光まちづくりの舵取り役となるＤＭＯ、観光まちづくりの推進とともに収益事業を行うＤＭＣといった、まちづくりのための組織を民間主導で確立することを目指します。	観光協会 商工会 事業者 お茶の京都 DMO 八幡市 等	2024	検討
		2025	設立準備
		2026	設立
		2027	運営
		2028	▼

②財源の確保

民間事業者の参入を促進するとともに、事業の立ち上げや、公共施設をはじめとするハード整備に係る財源の確保に向け、国・府の補助金や、クラウドファンディングなどの活用を検討します。	八幡市 商工会 観光協会 大学 事業者　等	2024	調査・研究
		2025	▼
		2026	実施
		2027	▼
		2028	▼

八幡市役所新庁舎

観光案内所

5－B　観光人材の発掘と活躍

本計画の重要課題である歴史的資源を活用した観光まちづくりにおいては、地域の資源を大切に守り伝えようとする取組に共感し、観光まちづくりに参画したり、新たな事業を展開しようとする人材の発掘が最も重要です。「推進組織の形成」で描いた組織づくりにおいても、本市内でステークホルダーとなる人材が活躍してこそ、本計画が実現に向かいます。

また本市の観光ガイドは、石清水八幡宮駅前と松花堂庭園をそれぞれ拠点として活躍していますが、複数イベント時の人材不足や、個人ごとのスキル差などが課題としてあり、人材のさらなる拡充と育成が求められています。

①観光人材の発掘と活用

アクションプラン内容	主体・関係者	スケジュール	
本計画を広く市内に発信して観光まちづくりへの参画を呼びかけ、集まった人材を結びつける仕組みづくりを行うとともに、研修や市内の取組への参画によって観光業に対するスキルアップを図ります。	八幡市 事業者 観光協会 市民 等	2024	強化実施
		2025	継続実施
		2026	▼
		2027	▼
		2028	▼

②観光ボランティアガイドの拡充

ボランティアガイドの養成講座などを通じ、スキルアップや外国語対応などを進めます。 また、観光客のニーズに合わせた石清水八幡宮駅前での案内や、ガイドツアーの実施に取り組みます。	ボランティアガイド 観光協会 市民団体 八幡市 等	2024	実施
		2025	▼大阪･関西万博
		2026	継続実施
		2027	▼
		2028	▼

モニターツアー

ボランティアガイド養成講座

５－Ｃ　観光ＤＸの推進

旅行者の利便性向上や、観光産業における生産性向上には、ＤＸの推進が必要となります。

観光客の動向を把握することで、効果的な観光地運営につなげます。

また、日々進化するデジタル技術を活用し、旅行者の利便性向上による満足度を高め、消費の拡大につなげます。

①ビッグデータを活用した動向分析

アクションプラン内容	主体・関係者	スケジュール	
ビッグデータを用いた観光客の動向分析、ニーズ把握を行い、結果を用いて、効果的なプロモーションや環境整備、事業者の効率的な経営につなげます。	八幡市 観光協会 商工会 事業者 京都府 等	2024	研究
		2025	▼
		2026	調整
		2027	実施
		2028	▼

②デジタル技術を活用した旅行者の利便性向上

デジタル技術の活用により、観光案内の機能強化、キャッシュレス化など旅行者の利便性向上を図り、旅行者の周遊促進や満足度の向上につなげます。	八幡市 観光協会 商工会 事業者 等	2024	継続実施
		2025	▼
		2026	▼
		2027	▼
		2028	▼

第5章 計画の実現に向けて

1．各組織等の役割

1）市民の役割

市民は、観光振興を通じて「わがまちへの愛着や誇りを感じる」ことが基本です。国内外からの観光客を温かく迎えるとともに、本市の観光資源の魅力を知り、体験したことを人に伝え発信していく取組を通じて、アクションプランの推進に楽しみながら積極的に参加します。

2）観光事業者の役割

観光施設の運営者はもとより、観光客が訪れる神社仏閣、飲食店、茶業関係者、農家、タクシーなど、観光に関わりのある事業者などは、観光客と接する最前線の立場にあり、観光の振興を推進する主体者として観光客や市民に対して満足度を高めるサービスを提供します。

また、地域社会・経済の活性化に大きく寄与することを踏まえて、「観幸」による市域の賑わいづくりに努めます。

3）行政の役割

観光は、本市の地域社会・経済の活性化に寄与するものであり、主要産業として成長する可能性があることを認識しながら、アクションプランの戦略の骨格に基づく展開ができるよう広域連携や事業環境づくりなどを進めるとともに、「観幸」まちづくりのリーダーシップを図り、市民とともに施策を展開していきます。

また、市内の各観光施設や文化財、景観などの歴史・文化・自然資源の保存と適正管理を行います。

4）観光協会の役割

観光協会は、観光事業者や市内外の各種団体などとの連携・調整を行うとともに、本計画が進めるアクションプラン推進の中心的役割を果たします。

さらに、観光情報の発信拠点として最新の情報収集に努め、訪日外国人旅行者から市民まで、それぞれの知りたい情報の効果的な発信や、観光商品の企画販売など、地域に収益をもたらす取組を実施する観光情報の総合窓口の機能を担います。

5）お茶の京都DMOの役割

お茶の京都地域における観光地域づくりの総合プロデューサーとして、地域の稼ぐ力の創出に向けて、多様な関係者を巻き込みながら、地域情報の収集、マーケティングやプロモーション、観光資源の開発・磨きあげ、観光人材の育成などを行います。

2．推進体制の確立

1）進行管理体制の確立

庁内の横断的な観光施策を進める八幡市観光基本計画庁内推進委員会において、アクションプランの進行管理を行います。

また、新たな取組につなげる組織として官民の推進協議体を設置し、関係者相互の事業の連携を促します。

2）段階的な体制・組織の構築

「未来戦略」から描いてきた文化観光推進の機運醸成と併せて、事業者や住民が参画できる関係を構築し、核となる事業者などによる連携協定の締結等を進めます。そのうえで、事業実施組織を立ち上げ、国庫補助などを幅広く受けられる要件を整えます。

附属資料

資料１　計画策定の経過
資料２　八幡市観光基本計画推進協議会・ワーキングチーム名簿
資料３　八幡市観光基本計画庁内推進委員会委員名簿
資料４　資源の説明

資料１　計画策定の経過

開催日	内　容
2023（令和５）年 ７月 25 日（火）	第１回八幡市観光基本計画庁内推進委員会 ・前計画の進捗状況調査、社会動向の分析と課題 ・次期八幡市観光計画の基本理念・目標の検討
８月 24 日（木）	第１回八幡市観光基本計画推進協議会 ・前計画の進捗状況調査 ・次期八幡市観光基本計画を取り巻く現状と課題 ・次期八幡市観光計画の基本理念・目標の検討
10 月３日（火）	第１回文化観光推進ワーキング ・あるとよい機能の整理と可能性の検討 ・あるとよい機能を確保する方法の検討
10 月 10 日（火）	第１回川辺のにぎわいづくりワーキング ・川辺のまちづくりでやりたいこと ・市内事業者・市民等と連携して実現する方法の検討
11 月２日（木）	第２回文化観光推進ワーキング ・東高野街道に賑わいを広げるアイデア・実現する方法の検討 ・アクションプランへの反映
11 月 13 日（月）	第２回川辺のにぎわいづくりワーキング ・流れ橋周辺のにぎわいづくり 　川辺のにぎわいが実現する連携先 　川沿いから市中心部に誘致する方法の検討 ・アクションプランへの反映
11 月 24 日（金）	第２回八幡市観光基本計画庁内推進委員会 ・観光基本計画原案について
2024（令和６）年 １月 12 日（金）	第３回八幡市観光基本計画庁内推進委員会 ・観光基本計画基本計画素案について ・指標について ・アクションプランについて
１月 22 日（月）	第２回八幡市観光基本計画推進協議会 ・八幡市観光基本計画素案ついて
２月９日（金） ～２月29日（木）	パブリックコメント実施
２月 27 日（火）	第３回ワーキング（文化観光推進・川辺のにぎわいづくり） ・素案報告
３月末	策定

資料２　八幡市観光基本計画推進協議会・ワーキングチーム名簿

推進協議会　　（五十音順・敬称略）　◎会長

氏名	団体名
坂上　英彦　◎	嵯峨美術大学　名誉教授 関西広域連合　関西観光・文化振興計画検討会座長 京都府山城地域戦略会議委員・副座長
井口　香苗	（株）やわた走井餅老舗
岡島　繁	やわた流れ橋交流プラザ「四季彩館」　館長
越智　敏洋	石清水なつかしい未来創業事業団　事務局長兼本部理事
亀井　稔	国土交通省近畿地方整備局　淀川河川事務所　副所長
酒井　勇治	京阪ホールディングス（株）　経営企画室事業推進担当部長
澤田　信幸	八幡市商工会　事務局長
立本　信	リバーブリーズ研究会　顧問 京都男山エジソン協会　会長
田中　恆清	石清水八幡宮　宮司
友田　享	飛行神社　宮司 東高野街道八幡まちかど博物館協議会　代表
中村　正孝	やわた観光ガイド協会　会長
西田　宗治	京都やましろ農業協同組合　八幡市支店長
西村　嘉高	京都府山城広域振興局　農林商工部長
符川　裕子	（公財）やわた市民文化事業団　常務理事
松浦　康昭	善法律寺　住職
脇　博一	（一社）京都山城地域振興社（お茶の京都ＤＭＯ）　社長

A 文化観光推進ワーキングチーム

（五十音順・敬称略）

氏名	団体名・役職
石川　和良	Ｇｏｒｉｌｌｅ（ゴリール）　代表 やわた里山たけまつり　実行委員長
井上　恭伸	松花堂庭園・美術館　副館長
奥村　清裕	Ｒｅ・ＨＯＭＥ（株）　ＣＥＯ （株）清兵衛（コーヒー観光農園）　代表取締役
田中　博志	石清水八幡宮　権禰宜
友田　享	飛行神社　宮司
松尾　健一	（株）ソトアソ　ディレクター
村田　收	（一社）八幡市観光協会　事務局長
若林　浩吉	京阪ホールディングス（株） 経営企画室事業推進担当（沿線再耕）　課長補佐

B 川辺のにぎわいづくりワーキングチーム

（五十音順・敬称略）

氏名	団体名･役職
奥代　俊晴	一本松海運（株）　相談役
岸　　伸行	（一社）八幡市観光協会　常務理事
佐久間　維美	淀川河川公園管理センター　副管理センター長
中村　恵子	河川レンジャー　伏見・桂川・山崎出張所管内
西垣　久仁彦	（株）アオキカヌーワークス　アシスタントマネージャー
堀川　寛史	八幡市役所　政策企画部政策企画課長
若林　浩吉	京阪ホールディングス（株） 経営企画室事業推進担当（沿線再耕）　課長補佐

資料３　八幡市観光基本計画庁内推進委員会委員名簿

（敬称略）◎委員長　○副委員長

氏　名	所属部署
橋口　孝幸　◎	建設産業部参与兼産業振興室長
大洞　真白　○	建設産業部産業振興室商工観光課長
寺田　伸一	政策企画部参事兼秘書広報課長
堀川　寛史	政策企画部政策企画課長
辻　　博之	政策企画部生涯学習課長
藤原　満弘	建設産業部参事兼農業振興課長
田中　賢治	建設産業部参事兼都市整備課長
田岡　実	建設産業部管理・交通課長
澤田　健二	建設産業部参事兼道路河川課長
田制　亜紀子	こども未来部文化財課長

資料４　資源の説明

１）自然資源

①市の花・木・鳥・花木

資源名	資源の概要
さつき	・町村合併 13 周年を記念し、花に満ち緑にあふれる健康なまちづくりへの願いを込め広く公募し、1967（昭和 42）年愛すべき美しさの象徴であるさつきを制定。1977（昭和 52）年の市制施行に伴い、「市の花」とした。
クスノキ	・町村合併 13 周年を記念し、緑にあふれる健康なまちづくりへの願いを込め広く公募し、1967（昭和 42）年に制定、市制施行に伴い 1977（昭和 52）年に「市の木」とした。クスノキは、たくましい力の象徴であり、本市にゆかりの深いものである。
シジュウカラ	・市制施行 15 周年を記念し、市民へのアンケート調査結果などを参考に、1992（平成４）年に自然環境保全のシンボルとして制定。市内のほぼ全域で１年を通して見られ、特に男山、美濃山地域に多い。
つばき	・市内に多種多様な椿の名木が多数あることや、市内外から多くの来場がある「松花堂つばき展」の毎春の開催などで、市議会に「椿を八幡市の『花木』とする請願書」が提出され、全会一致で採択されたことから、市制施行 25 周年を記念し 2002（平成 14）年に「市の花木」として制定した。

②自然・景観資源

資源名	資源の概要
八幡八景	・連歌の盛んな八幡で 1694（元禄７）年「八幡八景連歌発句絵巻」が制作された。 ＜一＞雄徳山松　＜二＞極楽寺桜　＜三＞猪鼻坂雨　＜四＞放生川蛍 ＜五＞安居橋月　＜六＞月弓岡雪　＜七＞橋本行客　＜八＞大乗院鐘 ・1982（昭和 57）年に市制５周年を記念して八幡八景が制定された。 （早春）安居橋の朧月　（新緑）流れ橋の薫風　（盛夏）松花堂の緑陰 （処暑）男山団地の夜景（新秋）梨狩の歓声　（霜降）有都の穂波 （初冬）美濃山の竹林　（小寒）八幡宮の初春
淀川河川公園背割堤地区（三川合流部）	・八幡市北端に広がる大規模な河川敷。桂川、宇治川、木津川が、天王山と男山に挟まれた山崎地峡の手前で合流し淀川となる。日本国内でも珍しい地形。 ・都市部における貴重な自然環境であり、特有の植物、野鳥や昆虫などが観察できる生態系の宝庫。 ・「淀川河川公園背割堤地区」として国営公園となっている。
男山	・市域北西に位置し、淀川を隔てて天王山と相対する丘陵。西裾は大阪府枚方市。 ・標高 123m に石清水八幡宮本社があり、西の頂上、標高 143m 地点は鳩ヶ峰と呼ばれる。丘陵は南へ続き洞ヶ峠で河内との国境をなしていた。 ・男山は歌枕であり古今集や謡曲「女郎花」にうたわれ、「土佐日記」にも登場する。 ・天然林である照葉樹林と古い歴史をもつ竹林とが石清水八幡宮の建造物と一体となって歴史的風土を保持していることから、1983（昭和 58）年に 18.25ha が「男山京都府歴史的自然環境保全地域」に指定された。 ・散策路（せせらぎルート、ひだまりルート＜こもれびルートは 2023（令和５）年に廃止＞）
放生川	・大谷川の部分名称。平谷の買屋橋から名を放生川と変えて男山山下を北流する。 ・平安時代に始まる石清水八幡宮の放生会がこの川で行われたためその名がある。 ・現在行われている勅祭「石清水祭」においては朝に安居橋上で放生行事が行われる。
大谷川	・京田辺市松井の手水ヶ谷・口大谷を源とし、京田辺市から八幡市に流れる淀川の支川。 ・防賀川が合流する手前、八幡舞台の河川敷の桜並木は隠れた花見スポット。 ・遊歩道が整備されて散策路もあり、水辺には多種の水鳥が生息している。
防賀川	・大谷川の支流。京田辺市興戸地区から東流し、近鉄京都線興戸駅付近で北流、木津川左岸に沿って八幡市に入り、八幡春日部・舞台で大谷川と合流する。
圓福寺周辺林	・圓福寺の参道の両側に豊かな竹林が広がる。
東部の田園風景	・東部地域の田園は八幡の原風景ともいわれる。 ・広々とした田園と旧集落が広がる。

③花・植物の資源

資源名	概要
松花堂庭園の梅	・外園の茶室「梅隠」の周辺、水琴窟の周りまで、２月頃に紅梅と白梅が咲き誇る。
背割堤の桜	・松並木で有名だったが、松が枯れ 1978（昭和 53）年に桜へ植え替えられた。 ・堤の両側約 1.4ｋｍにソメイヨシノ約 220 本が咲き誇る。 ・他にハナミズキや菜の花、桃の花も見られる。
石清水八幡宮（男山）の桜	・男山一帯は約 1000 本の桜があり、山上の境内にもソメイヨシノなど約 50 本がある。例年、男山桜まつりが催される。 ・神苑の枝垂れ桜の老木は圧巻。エジソン記念碑近くに宇宙旅行をしたひょうたん桜として高知県吾川郡仁淀川町からもたらされた「宇宙桜」が植えられている。
さくら近隣公園の桜	・男山美桜にあり、公益財団法人八幡市公園施設事業団が管理する公園。 ・ソメイヨシノなどが池のまわりを中心に植えられている。
正法寺の桜	・枯山水の日本庭園に調和した桜を楽しめる。 ・桜の時期には公開日がある。
さざなみ公園の桜	・石清水八幡宮一ノ鳥居の東南、放生川沿いに整備された公園に桜の木が点在し、ソメイヨシノや枝垂れ桜が植えられている。
神應寺の桜	・イギリスで改良された桜「アーコレード」が書院の奥に植えられている。春と秋に花を咲かせ、紅葉と桜を同時に見ることができる。
松花堂庭園の枝垂れ桜	・1992（平成４）年に本市の友好都市であるエジソン生誕地のアメリカ　オハイオ州・マイラン村と、中国宝鶏市の使節団訪日記念に植樹されたもの。
神應寺のシャガ	・山門を入ってすぐの斜面から奥の院杉山谷不動尊までの間に４～５月頃、白い花が咲き誇る。 ・同時期にシャクナゲの花も見頃を迎え、シャガの花との共演が見られる。また、駐車場付近には、ヤマブキの花も見ることができる。
流れ橋の茶畑	・八幡市東部の木津川沿いに水辺の砂地で栽培される浜茶の茶畑。「流れ橋」とともに「日本茶 800 年の歴史散歩」の一つとなっている。 ・４月中旬から５月連休明け頃まで直射日光や霜から守るため黒いネットで覆われたてん茶畑の景観が見られる。
石清水八幡宮神苑のサツキ	・サツキは市の花。石清水八幡宮神苑のエジソン記念碑周辺で５月下旬に見頃となる。
神應寺のアジサイ	・境内の鐘楼付近や杉山谷不動尊までの渓谷沿いにアジサイが植え付けられている。
若宮八幡宮の彼岸花	・毎年９月中旬～10 月初旬頃に見ごろを迎え、境内に真っ赤な花が咲き誇る。 ・2021（令和３）年に出版本に掲載されたことから、話題を集め始めた。
神應寺・杉山谷不動尊の紅葉	・杉山谷不動尊までの参道は樹高の高い紅葉の色づきが美しいグラデーションとなり、紅葉の名所として有名。 ・渓谷沿いに紅葉の間から石清水八幡宮参道ケーブルが走る美しい光景を見ることができる。 ・2023（令和５）年に第 20 回目となる「紅葉まつり」が開催された。
善法律寺（「もみじ寺」）の紅葉	・石清水八幡宮の検校・善法寺宮清の孫娘で室町幕府三代将軍・足利義満の母、良子が紅葉を寺に寄進したと伝わる。 ・その由来と男山を背に境内に映える美しさから「もみじ寺」とも呼ばれる。
石清水八幡宮の紅葉	・男山全体が名所。紅葉と常緑樹のコントラストが歴史的建造物に映えて美しい。 ・男山展望台では例年色鮮やかな紅葉とともに、三川合流部と京都盆地をのぞむ眺望も楽しめる。
松花堂庭園の紅葉	・３つの数寄屋造りの茶室を備えた広大な日本庭園のなかに、イロハモミジやカエデが植えられている。 ・周囲の緑や金色の金明孟宗竹とのコントラストが一段と美しい。
男山展望台の皇帝ダリア	・男山展望台東側に約 20 本が植えられており、成長すると３～５ｍにもなることからこの名がついたといわれ、11 月から 12 月中旬頃まで楽しむことができる。
圓福寺の大根干し	・圓福寺の師走の恒例行事で、高さ約 15m のイチョウの木いっぱいに大根が吊るされ、年末の風物詩となっている。 ・１ヶ月間天日干しされた後、たくあんにされ、春と秋に行われる万人講の精進料理などで参拝客に振舞われる。

資源名	概要
松花堂庭園の椿	・市の花木である椿は、松花堂昭乗が愛玩したことでも有名。 ・園内や椿園には、200 本を超える椿が栽培される。 ・例年３月頃に「松花堂つばきウィーク」が開催されている。
松花堂庭園の金明孟宗竹	・宮崎県東臼杵郡と福岡県久留米市で発見された、孟宗竹が突然変異して生まれた珍しい竹。金と緑の市松模様が美しく、福岡県で国の天然記念物に指定されている。 ・金明孟宗竹のほか 40 種類を越える竹が植えられている。
石清水八幡宮のクスノキ	・クスノキは市の木。石清水八幡宮に京都府指定天然記念物のクスノキがある。
石清水八幡宮の竹林	・世界の発明王・エジソンが、八幡産の竹を使いフィラメントの実用化に成功した由来があり、境内随所や男山展望台周辺に竹林が見られる。 ・エジソン記念碑周辺には真竹、その他は孟宗竹の竹林が広がる。

2）歴史文化資源

①神社仏閣

資源名			資源の概要
石清水八幡宮	山上	由来	・859（貞観元）年に九州・宇佐八幡宮から八幡神が遷座して創建された。 ・伊勢神宮に次ぐ国家第二の宗廟として歴史の教科書にも度々登場する。
		本社	・2016（平成 28）年に本社 10 棟と附（つけたり）棟札３枚が国宝となった。 文化財　国宝（建造物）／重要文化財（建造物）（美術工芸品）／国指定史跡名勝天然記念物（史跡）／京都府指定有形文化財（建造物）（美術工芸品）／京都府指定史跡名勝天然記念物（天然記念物）／京都府暫定登録有形文化財（歴史資料）／八幡市指定文化財（美術工芸品）
		三ノ鳥居	・1400（応永７）年７月に建てられた鳥居は大木を用い、金彩のある朱塗りであったが、1645（正保２）年正月に石造りに改められた。 ・1934（昭和９）年の室戸台風で倒壊、現在の鳥居は翌年 12 月に再建されたもの。
	山下	頓宮斎館	・大正天皇の御大礼の建物が下賜され、1916（大正５）年移築。 ・原型をよく留め、御大典関係の建築遺構として貴重。
		頓宮参集所	・池の間は斎館の背後に、放生池に面して建つ。 ・1930（昭和５）年に昭和天皇の御大礼の春興殿掌典詰所を移築したもの。
		一ノ鳥居	・もとは木製で、1636（寛永 13）年に松花堂昭乗の案で石に改めたと伝わる。 ・鳥居の扁額の「八」の字は、鳩が向かい合った独特のデザインとなっている。
		二ノ鳥居	・谷口鳥居とも称せられた。下院の南界を画す鳥居。 ・1642（寛永 19）年に石造に改め造られたものとされる。
高良（こうら）神社			・「徒然草」に登場することでも知られる、石清水八幡宮の麓、頓宮の南にある神社。 ・現社殿は幕末の鳥羽・伏見の戦いで焼失した後、再建されたもの。 ・例年７月 15 日には「高良社祭」があり、その宵祭として行われる「太鼓まつり」は八幡の重要な伝統祭事。
狩尾（とがのお）神社			・創立年代不詳。石清水八幡宮遷座以前の社で、当地の地主神社と伝わる。 ・本殿は 1601（慶長６）年、尾張徳川家の祖・義直の生母であるお亀の方等の寄進で建立される。本殿東にあった帝釈天立像は明治時代に西遊寺に移された。 文化財　重要文化財（建造物）
飛行神社			・ライト兄弟よりも早く飛行原理を発見した愛媛県八幡浜市出身の二宮忠八が 1915（大正４）年、自邸内に創建した神社。空の安全、航空業界の発展を願う。 ・2015（平成 27）年に創建 100 年、2016 年に二宮忠八生誕 150 年を迎えた。 ・忠八ゆかりの資料や晩年に作った玉虫型飛行器模型などが見られる資料館がある。
神應寺（じんのうじ）			・石清水八幡宮を開いた大安寺の僧、行教律師が創建したとの伝承。現在は曹洞宗。 ・重要文化財の行教律師坐像や、豊臣秀吉の衣冠束帯の像を安置している。 ・拝観には予約が必要。 文化財　重要文化財（美術工芸品）／京都府指定有形文化財（美術工芸品）／京都府暫定登録有形文化財（本堂ほか建造物・美術工芸品）／八幡市指定文化財（美術工芸品）
杉山谷不動尊			・神應寺の奥の院。「厄除け不動」として信仰されており、本堂の不動明王は秘仏。 ・両脇に南北朝～室町時代前期の作である矜羯羅童子・制多迦童子を祀る。 ・堂の横を流れる谷川に霊泉瀧（ひきめの瀧ともいう）があり行場となっている。 文化財　八幡市指定文化財（美術工芸品）
相槌（あいつち）神社			・天下五剣と謳われ、現在国宝に指定されている童子切安綱を造った伯耆安綱と神が山ノ井の水を用い名刀「髭切」「膝丸」を作った場所と伝わる。 ・近年インターネットゲーム「刀剣乱舞」の聖地と話題になっている。 文化財　京都府暫定登録有形文化財（本殿）
泰勝寺（たいしょうじ）			・明治の神仏分離令後、廃仏毀釈で荒廃した松花堂昭乗の墓を保存する「松花堂会」が結成され、1918（大正７）年、熊本の細川家菩提寺の名を譲り受け建立された。 ・昭乗の墓、宝物館のほか昭乗の茶室「閑雲軒」を模して造られた茶室がある。 ・拝観日が限定されているため、要問合せ。
本妙寺			・室町時代末期、1564（永禄７）年頃に創立された日蓮宗真門派本隆寺末。 ・織田信長の安土宗論で負け処刑された僧は、本妙寺の二世日門上人であった。その日門に帰依し、織田信長に仕えた竹内伊予守経家が寺を創建した。 文化財　京都府指定有形文化財（美術工芸品）／八幡市指定文化財（美術工芸品）

資源名	資源の概要
単伝庵 （らくがき寺）	・約 200 年前、京都妙心寺の単伝和尚が救苦観音を安置したのが由来。臨済宗。 ・大黒堂の壁に願いごとを書くと叶うという、「落書き祈願」ができる寺。大黒堂再建に協力した人の願いが叶うよう約 60 年前に住職が始めたユニークな祈願法。 ・土日は拝観可能。それ以外は要予約。
法園寺（ほうおんじ）	・鎌倉時代、石清水八幡宮別当（長官）の田中宗清が祖先の菩提を弔うため一堂を建立しその後子の行清が堂舎を整えた。 文化財　重要文化財（美術工芸品）
薬園寺（やくおんじ）	・奈良時代の僧、行基の開創と伝える。浄土宗。 ・中世、石清水八幡宮神領内の森の集落で麹の特権的専売権を認められた座を持ったことで著名。本尊の薬師如来立像は平安時代前期の作で神像の雰囲気をもつ。 文化財　重要文化財（美術工芸品）
念佛寺	・「念仏聖」とも呼ばれる空也上人開基と伝える。鎌倉時代末期に再興。 ・1868（慶応４）年の戊辰戦争で幕府方の陣地とされ、官軍の砲撃を受けた。 文化財　八幡市指定文化財（美術工芸品）
善法律寺（ぜんぽうりつじ）	・鎌倉時代の石清水八幡宮の検校・善法寺宮清の自邸を寺にしたのが起源。律宗。 ・足利義満母、良子の菩提寺。良子が紅葉を寄進したと伝わり「もみじ寺」ともいう。 ・神仏分離の際に石清水八幡宮から数体の仏像が納められたと言われる。 ・境内には赤穂浪士の討入に加担した大石内蔵助の養子、大西坊の覚運墓塔がある。 ・庭は自由拝観可能。本堂内部の拝観には予約が必要。 文化財　京都府指定有形文化財（建造物）／八幡市指定文化財（美術工芸品）
世音寺（せおんじ）	・世音大徳が阿弥陀如来坐像を本尊として開基。浄土宗。 文化財　八幡市指定文化財（美術工芸品）
正法寺（しょうぼうじ）	・1191（建久２）年、清水（現.静岡県静岡市清水区）の高田蔵人忠国が、源頼朝の幣礼使として居住したことに始まる。３代目宗久は「志水」と改姓し、志水氏の菩提寺として堂舎を整え、1546（天文 15）年には後奈良天皇により勅願寺となった。 ・その後、志水家の娘・お亀の方（1576～1642 年）が徳川家康の側室となり、尾張藩の祖・徳川義直を生んだことで、尾張藩の庇護も受け発展した。 ・鎌倉時代の阿弥陀如来像が本尊として祀られる本堂は、極彩色の装飾が施され、現在でも当時の色が残っている。 ・大方丈には臥竜の松など雄大な襖絵が飾られ、書院から望む庭園は京都府指定名勝。 ・境内の法雲殿には、かつて八角堂に祀られていた全長約 4.8mの巨大な阿弥陀如来坐像が安置されている。中品中生の説法印を結び、光背には 13 体の化仏を配した檜材等木造の坐像で、国の重要文化財。鎌倉時代に活躍した仏師、快慶の作品とも言われる。 ・拝観日が限定されているため、要問合せ。 文化財　重要文化財（建造物）（美術工芸品）／京都府指定有形文化財（建造物）（美術工芸品）／京都府指定史跡名勝天然記念物（名勝）／京都府文化財環境保全地区／京都府暫定登録有形文化財（美術工芸品）
安心院	・浄土宗。寛永年間に堂舎が建立されたと伝わる。「西の堂」と呼ばれる寺の本尊であった鎌倉時代の作の仏像を所蔵する。
圓福寺 （達磨堂）	・白隠門下の名僧、斯經和尚に 1783（天明３）年、田中家から大和達磨寺旧蔵の日本最古の「達磨大師坐像」が託され、南山焼の淺井周斎より土地の寄進を受け、臨済宗最初の専門道場「江湖道場」として建立された。 文化財　重要文化財（美術工芸品）
水月寺 （水月庵）	・徳川 14 代将軍 家茂に嫁いだ皇女、和宮の付き人が黒髪を落として出家し、和宮の菩提を弔なったといわれている。臨済宗。
泥松稲荷（どろまつ）	・創建の年代は不詳。その起こりは物語〈P.71 「物語８_庵主さんとどろ松ちゃん」　参照〉として語り継がれている。 ・東高野街道沿いに木造の赤い鳥居を持つ「泥松稲荷大明神」が祀られている。
講田寺（こうでんじ）	・本尊に聖観音立像を安置する橋本にある曹洞宗の禅寺。 ・本堂内にある「笑地蔵」はその柔和な笑みの中に人柱伝説の悲劇が伝えられる。

資源名	資源の概要
西遊寺（さいゆうじ）	・戦国大名として有名な相模の北条氏康の次男・感譽上人が1573（天正元）年に開山。西国遊歴を寺号として「普現山　西遊寺」と称する浄土宗の寺。 ・市内で最も古い仏像の1つ「帝釈天立像」は狩尾神社にあったものが神仏分離令で移されたもの。 文化財　京都府暫定有形文化財（本堂ほか建造物）／八幡市指定文化財（美術工芸品）
川口天満宮	・「天神縁起」によると、995（長徳元）年、雄徳山（男山）辺に天神が出現、宇治里に住む「尊家之公卿」が、夜陰に発する光明に導かれて天神崎の池中から天神六体の尊像を見つけ、当地に祀ったのに始まるという。
春日神社	・江戸時代までの「園町」、現在の「園内」の集落の外れに鎮座する神社。中世以来の八幡内四郷で最も広範囲に及んだ「金振郷」（平谷北端～志水町南端）の総社。 文化財　京都府暫定登録有形文化財（本殿）
御園（みその）神社	・延喜式内社。上奈良集落の東、江戸時代中期に造られた本殿は檜皮葺の一間社流造。 ・ずいき（里芋の葉と茎の部分）の他 30 種以上の野菜で神輿を飾る 10 月の「ずいきみこし」は、中世の祭りにルーツをもつ天狗・獅子とともに文化財に登録された。 文化財　京都府指定有形文化財（建造物）／京都府登録無形民俗文化財
内（うち）神社	・延喜式内社。内里集落の南西、『古事記』にも登場する内臣の祖先を祀る。 ・室町時代に社殿が頽廃したため遷座され、旧社地は現在もなお「古宮」と呼ばれ、本社より南東の方角約五百メートルの所に禁足地として現存する。 文化財　京都府登録有形文化財（建造物）／京都府文化財環境保全地区
石田神社（上津屋）	・702（大宝２）年鎮座との伝承。牛頭天王社と称され、明治になり石田神社と改称。 ・1765（明和２）年銘のある算額が伝わる。 文化財　京都府暫定登録有形文化財（建造物・美術工芸品）
航海記念塔（石清水八幡宮五輪塔）	・高さ 6.08m、幅 2.44mの日本最大の中世五輪塔。様式から鎌倉時代と推定される。 ・平安時代の末期、摂津国尼崎の豪商が入宋貿易帰途の海上で大シケにあい、石清水八幡宮に祈り無事に帰国できたことを感謝し、建立したとの伝承がある。 文化財　重要文化財（建造物）

②神社仏閣以外の歴史・文化資源

資源名	資源の概要
男山四十八坊の跡（石清水八幡宮境内）	・石清水八幡宮のある男山には東斜面を中心に数多くの坊や護国寺などの仏堂、宝塔院などの仏塔があったが、神仏分離令により明治初年にすべて失われた。 ・2010（平成 22）年に瀧本坊跡などの発掘調査が行われ、2012（平成 24）年に「石清水八幡宮境内」が国の史跡に指定された。
松花堂庭園	・松花堂昭乗ゆかりの日本庭園。昭乗が晩年を過ごした男山の泉坊にあった草庵「松花堂」と書院を移築し庭園として再構築した内園は国の名勝で一部が史跡。外側に３つの茶室がある外園が広がる。 ・1977（昭和 52）年公有化。珍しい竹や四季折々の花を楽しめる。約 20,000 ㎡。 ・月曜日（祝日の場合はその翌平日）休園。 文化財　国指定史跡名勝天然記念物（史跡・名勝）／ 京都府指定有形文化財（建造物）／京都府登録有形文化財（建造物）
八角堂・ 八幡西車塚古墳	・八幡西車塚古墳は古墳時代前期の木津川左岸最大の前方後円墳。墳長約 120m。2022（令和４）年に八幡西車塚古墳を含む「綴喜古墳群」が国の史跡に指定された。 ・八角堂は、1607（慶長 12）年、豊臣秀頼が再建した八角形（隅切り角）の仏堂。もとは石清水八幡宮本社の南西にあり、明治の神仏分離の際、現在地（八幡大芝）に移築された。 ・八角堂に祀られていた巨大な阿弥陀如来坐像は正法寺の法雲殿に安置されている。 ・2013（平成 25）年度に公有化。保存修理工事を行い、移築時の彩色を復元。 ・堂内は期間限定あるいは申込制で公開、通常非公開。 文化財　国指定史跡名勝天然記念物（史跡）
流れ橋と両岸上津屋・浜台の「浜茶」	・2015（平成 27）年に日本遺産「日本茶 800 年の歴史散歩」の構成要素に認定された河川敷に広がる流れ橋と茶畑の景観。八幡市、城陽市、久御山町で構成される。 ・19 世紀後期まで抹茶の原料であるてん茶の栽培は宇治茶師のみに認められていたが、玉露は規制がなく、木津川河川敷に覆下茶園が広がった。 ・木津川の両岸を「流れ橋」がつないでおり、橋のたもとの肥沃な砂地に広がる茶園（上津屋、浜台）は特に「浜茶」と呼ばれ良質なてん茶栽培の地として有名。 文化財　日本遺産、府景観資産
流れ橋 （上津屋橋）	・全長 356.5m、幅３m の日本最長級の木造橋。1953（昭和 28）年３月架設。 ・増水時の抵抗を減らすため、床板が流れるように設計している。 ・21 回目、2014（平成 26）年の流出後、従来より流れにくい構造に変更され、2016 年３月に完成。その後 2017 年 10 月に流出、2018 年６月に復旧。最近では、2023（令和５）年８月に台風７号の影響により流出。 ・白砂の河原と清流に調和した風景は、映画のロケに度々利用される。
伊佐家住宅	・江戸時代に幕府領の庄屋を務めた伊佐家の屋敷。約 2,600 ㎡の敷地の周囲に石垣を築く。長蔵、乾蔵など５つの蔵がある。 ・1734（享保 19）年上棟の主屋は入母屋造で、分厚い茅葺屋根、入手不可能な壁土「桃山」で塗られた赤い壁が特徴。内部には祭礼用の大くども残っている。 ・見学は、事前予約が必要（基本的には 10 名以上のグループ、団体）。 文化財　重要文化財（建造物）／京都府暫定登録有形文化財（美術工芸品）
中村家住宅 （大歌堂 中村邸）	・石清水八幡宮の東麓、安居橋東詰めに敷地を構える。 ・大阪道頓堀五座のひとつ「弁天座」の座主・尼野貴之氏の別邸で、大正ロマン漂う数寄屋風書院建築。表門・蔵とも国登録有形文化財となっている。 ・大広間・上段の間、書院を備えた「大歌堂」は折上格天井など格式の高いつくり。 文化財　国登録有形文化財（建造物）
安居橋 （たいこ橋）	・男山の麓を流れる放生川に架かる橋。名の由来は鎌倉時代以降に町ぐるみで行われていた「安居神事」や、川下にあった「五位橋」から転じたなど諸説ある。 ・江戸時代初めにこの場所に架けられていたのは平橋だったが、鳥羽伏見の戦いで焼失後、古くからあった「高橋」という反り橋を偲ばせる形で復興された。 ・現在は石清水祭の朝に行われる放生神事の舞台となっている。
エジソン記念碑	・発明家トーマス・エジソンが八幡産の真竹を使って白熱電球の 1000 時間の点灯に成功し、実用化に至った縁で、1934（昭和９）年八幡宮の境内に建立された。 ・八幡の真竹は目釘竹として有名で宮中に献上されており、それ故に戦時中も守られた。建立 50 周年の 1984 年、エジソン彰徳会が現在の記念碑に建て直した。

資源名	資源の概要
石清水八幡宮参道ケーブル	・京阪電車石清水八幡宮駅と石清水八幡宮を結ぶケーブル線。 ・途中にかかる男山橋梁の高さは 43mで、全国の鋼索鉄道で日本一の高さを誇る。
東高野街道	・男山東麓～和歌山の高野山へ至る古道。平安時代以降流行する高野詣に使われた。 ・市内の江戸期の道標には「八まん宮道」「やはた道」などとあり、明治に「高野街道」と呼ばれ、戦後に大阪から高野山へ至る西高野街道、中高野街道、下高野街道などと区別するため、「東高野街道」と呼ばれるようになった。
頼風(よりかぜ)塚	・謡曲「女郎花（おみなめし）」の主人公で、泪川（なみだがわ）に身を投げて亡くなった小野頼風という伝承上の人物の墓標。志゛ばん宗の裏手にある。 ・江戸時代から知られており『拾遺都名所図会』に「頼風塔」と掲載されている。
女郎花(おみなえし)塚	・松花堂庭園内にある塚で、女塚ともいわれる。謡曲「女郎花（おみなめし）」で泪川（なみだがわ）に身を投げて亡くなった女性の墓標。
石清水八幡宮御文庫のクスノキ及び神楽殿のクスノキ	・石清水八幡宮にかつてあった御文庫の近くと、神楽殿裏にあるクスノキの大木２本は京都府指定の天然記念物。 ・他にも何本かクスノキがあり南朝方の武将・楠木正成が植えたという伝承がある。 文化財　京都府指定史跡名勝天然記念物（天然記念物）
後村上天皇行宮(あんぐう)跡碑	・南北朝の戦いに際し、1352（正平７）年、南朝の後村上天皇が味方であった八幡宮の社務・田中家を頼って八幡を行宮とした。その場所は不明ながら田中家があった八幡吉野に碑が建てられている。 ・攻めてきた北朝側の足利義詮（妻は善法寺家の良子で二人の子が３代将軍となる義満）を大将とする幕府軍と八幡で合戦となったことが『太平記』に書かれている。
正平塚（四条隆資(たかすけ)卿塔）	・中ノ山墓地にある四条隆資の供養塔。 ・後村上天皇を吉野へ逃がすため、南朝側のリーダーであった四条隆資はじめ 300 人がこのあたりで討ち死にしたという。
道標・石碑	・市内に 120 余基存在し、郷土史会により内容と地点が冊子にまとめられている。 ・江戸時代に建てられた石清水八幡宮への道しるべも 20 数基がある。 ・昭和２～３年には三宅安兵衛の名で史跡に石碑が建てられている。
下馬碑	・相槌神社の南、石清水八幡宮への石段の左、登り口に建つ。 ・瀧本坊の住職だった松花堂昭乗の筆跡と伝えられている。
洞ヶ峠	・国道１号線の交差点「洞ヶ峠」辺りにあった峠で、道路建設に伴いその大部分は削平された。「洞ヶ峠を決め込む」の慣用句はここから生まれた（物語参照）。 ・そばに茅葺の茶店がある。
京街道	・大坂と伏見に城を築いた豊臣秀吉は 1596（文禄５）年、２つの城を最短距離で結ぶため淀川沿い文禄堤を整備し、堤の道が京街道となった。その後徳川家康によって守口宿、枚方宿、淀宿、伏見宿の４か所に宿駅を設けた。 ・本市では橋本から石清水八幡宮駅近くまでその痕跡が残る。
橋本の渡し（橋本）	・奈良時代にかけられた山崎橋がなくなったのち、渡し船が長く使用され、西国街道からの石清水八幡宮への参詣で賑わったが、1962（昭和 37）年に廃止された。 ・渡し場の道標「橋本渡舟三丁」の石碑が残っている。 ・谷崎潤一郎の「蘆刈」では、淀川を渡る渡し船が物語の舞台となっている。
橋本旧遊郭の街並み	・1877（明治 10）年から 1958（昭和 33）年まであった橋本遊郭の跡。 ・旧京街道沿いに旧遊郭の建物が今でも残されている。
二宮忠八飛行器工作所跡	・飛行神社を創建した二宮忠八が、「玉虫型飛行器」の製作に本格的にとりかかったとされる工作所の跡地。
楠葉平野山窯跡	・飛鳥時代の７世紀前半から中期にかけて創業された日本最古級で最大の瓦窯の跡。 ・ここで焼成した瓦は法隆寺の瓦と同笵。摂津・四天王寺の創建瓦に使用された。
狐谷横穴群	・美濃山一帯に分布している古墳時代後期の横穴式の古墳の一部。八幡高校南キャンパス内で発見され、地下保存されている。 文化財　京都府指定史跡名勝天然記念物（史跡）
足立寺史跡公園	・西山廃寺（足立寺）の発掘調査で出土した礎石を移築し、瓦窯跡を再現した公園。 ・奈良時代、宇佐八幡の託宣を受けたことで有名な和気清麻呂が、八幡大神のご加護で切られた足が元通りになった伝説が寺名の由来となっている。

３）交流資源

資源名	資源の概要
観光案内所	・1997（平成９）年に石清水八幡宮駅前に開設。一般社団法人八幡市観光協会が運営。 ・2016（平成 28）年 10 月から石清水八幡宮駅前にレンタサイクル館を開館。
観光情報ハウス	・石清水八幡宮駅前にある観光案内施設。2015（平成 27）年から運用開始。 ・やわた観光ガイド協会のボランティアガイドが常駐する。
松花堂美術館	・2002（平成 14）年４月開館。展示室、情報ホール、講習室があり、庭園内に美術館別館がある。ミュージアムショップや京都吉兆松花堂店を併設。 ・主な収蔵品は松花堂昭乗に関連するもの、本市にゆかりのある美術品など。 ・春と秋に企画展・特別展を開催するほか、年３回ほど館蔵品中心の展示を開催。
四季彩館（やわた流れ橋交流プラザ）	・2002（平成 14）年４月開館。研修棟に調理台のある研修体験室、展示ロビーなどがあり、食彩棟にはビュッフェ形式の食堂「八幡家」がある。 ・敷地内には地元でとれる旬の新鮮野菜が買えるＪＡ農産物直売所がある。
さくらであい館	・国営公園である淀川河川公園背割堤地区に 2017（平成 29）年３月誕生した施設。地上約 25mの展望塔を備え三川合流の地形が一望できる。 ・周辺の観光情報などを入手できる「情報発信コーナー」、週末に物産品が販売される「さくらｓｈｏｐ」や学習室・会議室があり、定期的にイベントも開催されている。
木津川サイクリングロード（府道京都八幡木津自転車道線）	・京都府嵐山からはじまる、道路延長約 45ｋｍ、幅員３ｍの府道京都八幡木津自転車道線。奈良県の飛鳥まで約 90ｋｍがつながる。本市では御幸橋から木津川右岸堤防上を通る。 ・ルート上にさくらであい館、上津屋橋（流れ橋）がある。
（仮称）淀川サイクルライン	・2025 年大阪・関西万博の開催を契機に、国内外からの多くの来阪者が安全、快適に府内各地を周遊できる環境の整備に向けて、広域的な自転車通行環境の充実を図ることを目的として整備に 2025 年度までに設置される。
レンタサイクル	・2002（平成 14）年度から石清水八幡宮駅前にて貸出開始。 ・観光案内所・松花堂庭園・四季彩館で貸出し、返却が可能。現在 43 台。
清峯殿（石清水八幡宮研修センター）	・清峯殿（研修棟）には 120 名収容の和室大広間、洋室大会場や会議室がある。 ・藍峯館（宿泊棟）は受付休止中（2024（令和６）年３月時点）。 ・ほかに 857 ㎡の多目的体育館である楠峯館（体育棟）、鳩峯庵（茶室）がある。
男山レクリエーションセンター	・1987（昭和 62）年完成。スポーツ施設としてミーティングルーム、ソフトボール場、フットサルコート、テニスコートがあり、キャンプ宿泊施設としてロッジ、キャビンのほかバーベキューに利用できる食事場（テーブル）、キャンプファイヤーができる営火場、テント設営場がある。2022（令和４）年にはスケートボードパークがオープンした。
さくら近隣公園	・ソメイヨシノ、ヤマザクラ、シダレザクラなどの桜が植えられている。 ・桜は枝が低いものが多く、目線近くで桜を楽しめるのも特徴。2021（令和３）年に全長 88mの雲梯（うんてい）、「モンキーチャレンジ」が設置された。
こども動物園	・さくら近隣公園にある市民は無料で利用できる動物園。1980（昭和 55）年開園。 ・ドーム鳥舎、クジャク舎、ヤギ舎があり、ミニチュアホースなども飼育されている。
八幡市民体育館	・1987（昭和 62）年完成。アリーナ、フリースペース、卓球台、オートテニス、会議室や筋力トレーニングのマシンが充実したトレーニングルームなどがある。
八幡市民スポーツ公園	・グラウンド、テニスコート、クラブハウス会議室、壁打ちコートなどがある。 ・グラウンドとテニスコートは夜間照明設備がある。
八幡市文化センター	・1983（昭和 58）年開館。1220 席の大ホール（1 階）は残響 1.1～2 秒の可変式で、音質は最高と評価されている。他に可動 300 席の小ホール（４階）、展示室、リハーサル室、練習室、会議室などがある。
生涯学習センター	・男山文化ホール、男山市民図書館をリニューアルして 1998（平成 10）年開館。 ・情報交流プラザ・図書館・会議室・音楽室・調理室・創作室・和室・ホール（最大 250 席）、相談コーナー、市民活動ルームがある。
市民農園	・野尻に所在。 ・面積約 6000 ㎡、提供農地区画数 116 区画。
ふるさと学習館	・旧八幡東小学校にある文化財展示施設。収蔵展示室、埋蔵文化財展示室、民俗展示室、体験学習室がある。

4）特産品・土産物・体験などの資源

資源名	資源の概要
ヤワタカラ	・八幡市で生まれた特産品の中からデザイン・素材・歴史などを審査し、“やわたらしさ”が溢れる商品として認定している地域ブランド。 ・2020（令和２）年４月にやわたブランド創造事業開始。 ・2021（令和３）年５月にやわたブランド名称の公募を行い、「ヤワタカラ」に決定 ・2021 年 11 月に八幡市ゆかりのデザイナーなどからロゴマークを提案していただき選定。 ・2022（令和４）年３月に第１回ヤワタカラ認定商品を 17 商品決定。 以降 2024（令和６）年３月時点　全 33 商品。
松花堂弁当	・「吉兆」創業者・湯木貞一が八幡の地で松花堂昭乗が愛用していたという漆の四つ切り箱に出会い、料理を盛り付けて料亭で出されたのが始まり。 ・美術館に併設する京都吉兆松花堂店で、美しい庭園とともに味わえる。
抹茶「浜乃風」	・八幡市産てん茶を加工して作られた抹茶。「浜茶」と呼ばれる河川敷で栽培されるてん茶に因んで前八幡市長が命名。緑色が濃く、苦みや渋みがない優しい甘さが特徴。 ・抹茶・銘「松花堂」とともに、松花堂庭園・美術館のミュージアムショップ「おみなえし」で販売されている。
走井餅	・「やわた走井餅老舗」は江戸時代中期の 1764（明和元）年に大津で創業。安藤広重「東海道五十三次」の大津宿にも描かれた名店。1910（明治 43）年名水で名高い石清水のふもとへ引き継がれ、石清水八幡宮参詣の名物といわれる。
ういろ	・創業 300 年の「御生菓子司　志゛ばん宗」の名物。東高野街道に面している。 ・「八幡名物、手につく足につく」と謡われた、モチモチ食感が特徴。
源氏巻	・石清水八幡宮が源氏の氏神であることに因み、源氏の旗を表す白い餡を、平氏の旗を表す赤い羊羹で巻いたもの。「御菓子司　亀屋芳邦」の銘菓。
八幡巻き	・その昔、石清水八幡宮山麓に流れる放生川の泥から良質な太いゴボウがとれていた。石清水八幡宮の放生会の行事があり、本来殺生を慎む時期に食べられるよう、ウナギやドジョウをゴボウで巻いて隠して食べたのが始まりといわれる。 ・現在はゴボウをウナギで巻いたもの。石清水八幡宮駅前「朝日屋」で食べられる（要予約）。
筍	・男山から美濃山の丘陵部で栽培が盛ん。美濃山では近年に栽培面積減少。 ・ほとんどが孟宗竹の筍で、肉厚でえぐみがなく、柔らかく甘みがある。
九条ネギ	・「京のブランド産品」に認定されており、近年市域での生産量が増加している。 ・葉が柔らかく甘みがあるのが特徴。
米（ヒノヒカリ）	・近年、環境と人にやさしい特別栽培米の栽培面積が増加、2021・2022 年産米の食味ランキング『特Ａ』を獲得した「やましろの恵」がある。 ・八幡市産ヒノヒカリを使用した「朝日屋」の棒寿司（鯖寿司）は、テレビや雑誌で紹介されている。
その他の特産品	・ホワイトコーン、茶、いちご、小松菜、ホウレンソウ、米加工品など
カレー中華	・「小谷食堂」の先代が考案した名物メニューで、かつお、昆布のだしがきいたカレーと、自家製中華麺が好相性。他店舗でも提供されている。
ちまき	・平安時代にすでに京都で食されていたもち米を植物の葉で巻いて煮込んだ保存食。 ・八幡では川沿いの湿地に群生する葦（ヨシ）の葉を使って作られた。
紙鯉	・厄除け開運に古来名高い石清水八幡宮の門前で売られ有名だった土産物。 ・和紙で作られた鯉幟を紙鯉といい、宝暦年間（今から約 270 年前）に遡る「鯉ものがたり」〈P.70　物語３_鯉ものがたり　参照〉に起源がある。一説にはこの八幡の紙鯉が５月５日の鯉幟の元祖ともいわれ、裏千家 14 代淡々斎宗匠お好みの鯉幟香合のモチーフにもなっている。
岩田帯	・岩田綿による安産帯。八幡の岩田で栽培された綿が安産につながったことから、「岩田帯」が評判となり安産帯の代名詞にもなっている。
松花堂庭園の茶席（茶文化体験）	・日曜茶席（３～５月、10～11 月の日曜日に開催）（詳細は公式 HP 等で確認） ・月釜会（年９回、毎月第２日曜日（１月、８月、10 月を除く）に開催）
そば打ち体験・パンづくり体験	・やわた流れ橋交流プラザ「四季彩館」で提供されている体験講座。 ・事前申し込みにより、そば打ち、パンづくりが体験できる。

資源名	資源の概要
流橋焼陶芸体験	・「流橋（りゅうきょう）焼・松田ティーファーム」で実施できる陶芸体験。 ・流橋焼は花びらのようなデザインが特徴。お茶の木や竹の釉薬の作品がある。
巫女体験	・八幡市観光協会主催「秋の文化財特別公開」において、2017・2018 年に石清水八幡宮で提供された本格的な巫女体験。
いちご狩り	・高設ハウス栽培で、期間は１～５月頃。 ・内里、上津屋などで実施されている。
ぶどう狩り	・期間は９月上旬～20 日頃。 ・市内１か所（美濃山）で実施されている。
かつてあった特産品	・稲穂のかんざし（戦前に石清水八幡宮の土産物として有名） ・竹筆 ・目釘竹（江戸時代堅く良質な男山の竹は刀の目釘として将軍家に献上されていた）

5）まつり・イベントなどの資源

資源名	資源の概要
鬼やらい神事 （1月末または2月初め）	・宮中に伝わる古式に則り行われる、鬼を祓う神事。 ・節分前の日曜日に、石清水八幡宮本社前にて行われる。
湯立神事 （2月1・3日）	・厄除・無病息災・五穀豊穣を祈る伝統行事。 ・石清水八幡宮本社前にて行われる。
男山桜まつり （春分の日～4月）	・男山一帯に桜が咲き誇る。「神苑の枝垂れ桜」が有名。 ・期間中、奉納行事や茶席などが行われる。石清水八幡宮一帯で開催。
背割堤さくらまつり （3月末～4月初旬）	・2018（平成 30）年から淀川河川事務所・京都府・淀川河川公園管理センター・京阪ホールディングス㈱・お茶の京都 DMO・八幡市による実行委員会で実施。 ・淀川河川公園背割堤地区で開催。マルシェ、花見舟、Eボートなど実施。
松花堂つばきウィーク （3月頃）	・松花堂庭園で例年開催。 ・園内には茶花を代表する「侘助椿」をはじめ、200 本を超える古花や銘花などがある。
万人講 （4月 20 日、10 月 20 日）	・圓福寺で4月 20 日、10 月 20 日の年2回のみ実施される。 ・圓福寺から修行中の雲水が托鉢を行う家々の方をお寺に招待して精進料理を出す仏事がもとになり、地域に広く呼びかけ公開したのが始まり。 ・重要文化財の達磨大師坐像が公開され、精進料理が振舞われる（有料）。 ・参道や山門の前には懐かしい露店や手作り市が並ぶ。
石清水灯燎華 （5月）	・石清水八幡宮にて行われる夜の特別拝観。 ・国宝である本社のライトアップをはじめ、境内一帯の灯籠や参道にあかりが灯され、幽玄な世界に包み込まれる。
水無月の大祓 （6月）	・夏の厳しい暑さを元気に乗り越えるため行われる京都の伝統行事。 ・石清水八幡宮南総門前に茅の輪が設置される。大祓式は6月 30 日。
やわた太鼓まつり （7月）	・高良神社の例祭「高良社祭」の宵祭りで、八幡の夏の風物詩。 ・江戸時代中期、町民が高良神社前に提灯を並べ茶店を出したのが始まりで、その後太鼓を載せた「屋形太鼓」が町内ごとに造られ、「ヨッサー、ヨッサー」の掛け声とともに町内へと繰り出す豪壮な祭りに発展した。 ・戦後一時途絶えたが復興し、現在は一区、二区、三区、六区が参加。 ・海の日の前日に行われる宮入は、屋形太鼓4基と子ども太鼓3基で実施。
勅祭・石清水祭 （9月 15 日）	・上賀茂神社・下鴨神社の葵祭、春日大社の春日祭とともに日本三大勅祭の一つで、平安時代に始まる「放生会」が起源。 ・夜中2時過ぎに本社を3基の御鳳輦が出発、頓宮で里神楽や奉幣の儀、放生行事などが行われる様は平安絵巻のようで“動く古典”とも称される。
松花堂忌茶会 （10 月）	・石清水八幡宮の社僧で、江戸時代初期を代表する文化人・松花堂昭乗の遺徳を偲ぶ茶会。松花堂庭園で開催。
ずいき御輿 （10 月中旬）	・上奈良御園神社の例祭。 ・みこしの屋根は、ずいき（里芋の茎で葺かれ、その年に採れた 30 種類もの野菜で飾りつけられる。 文化財　京都府登録無形民俗文化財（御園神社のずいき御輿・天狗・獅子）
エジソン生誕祭 （2月 11 日）	・エジソン記念碑前でエジソンの誕生日に行われる。命日 10 月 18 日にはエジソン碑前祭が斎行され、エジソンの「努力とひらめき」が讃えられる。
神應寺紅葉まつり （11 月末）	・2018（平成 30）年で第 15 回を数える毎年恒例の紅葉まつり。 ・文化財特別公開やお茶席、模擬店、手作り市などが開催されている。
八幡市民マラソン大会 （12 月）	・市民スポーツ公園を発着点とするマラソン大会。 ・ハーフマラソンのほか、10ｋｍ、3ｋｍ、2ｋｍなどの種目がある。
御神楽 （初卯祭： 旧暦2月初卯の日） （12 月 14 日）	・石清水八幡宮の「御神楽」では雅楽の音色とともに『早韓神』などの神楽歌が奏されるが、宮中をはじめ全国各地で行われる「御神楽」の原型といわれており、初卯祭・御神楽は秘祭とされている。 ・石清水八幡宮では、八幡大神が初めて豊前国（現・大分県）宇佐の地に顕現された縁日にあたる旧暦2月初卯の日に平初卯祭、御祭神・応神天皇がお生まれになった日とされる 12 月 14 日に「御神楽」が奏される。
松花堂ふれあい市 （毎週土曜・1～12 月）	・農家が自作の野菜や農作物の加工品を販売。 ・午前8時半～なくなり次第終了、昭乗広場（松花堂美術館隣接）で開催。

6）物語などの資源

平安時代から門前町として発展した本市には、絵図や古文書など歴史資料が豊富に残され、様々な物語が語り継がれており、八幡オリジナルの掘り起こしのヒントとなります。

①八幡ストーリー＆ガイド

2017（平成 29）年度に作成し、2021（令和３）年度に改訂しました。本市の豊かな歴史や文化、自然などを、ポップなイラストとともに５つの物語にまとめ、観光モデルルートと観光地案内を掲載しています。日本語のほか、英語、中国語（簡体字・繁体字）でご覧いただけます。

01_はちまんさん：平和を発信する、神と仏のはちまんさんワールド

九州の宇佐八幡宮から八幡大神が遷座して成立した石清水八幡宮の歴史をまとめています。

「はちまんさん」こと八幡大神は、江戸時代以前は「八幡大菩薩」と呼ばれており、石清水八幡宮は神仏習合の「宮寺」として成立しました。寺でもない神社でもない独特の存在が伊勢神宮に次ぐ天下第二の宗廟として隆盛したことは、神も仏も大事にする価値観を広めることにもなりました。

しかし、江戸時代の終わりに起きた鳥羽・伏見の戦いと、その直後の明治政府による神仏分離令で、数多く建っていた仏堂、仏塔、坊の建物は失われ、現在の姿となりました。

勅祭である石清水祭は平安時代に始まる放生会を受け継ぎ、神と仏を平和に祀る心を伝えています。

02_門前町：兼好さんが案内する、門前町たから探しツアー

鎌倉時代の随筆『徒然草』に因んで、吉田兼好が門前町を案内します。

本市の社寺を中心とする見どころは、神仏習合と神仏分離の話をなくしては語れません。善法律寺の八幡大菩薩像、神應寺の行教律師坐像、正法寺の巨大な阿弥陀如来坐像と八角堂がどうして今の場所にあるのか語ります。さらに、正法寺のお亀さんのエピソードも紹介しながら、男山四十八坊と称された「坊」の建物として、唯一市内に残された草庵松花堂と泉坊書院を紹介します。

最後に、トーマスエジソンと八幡産の竹の出会いにより、白熱電球が実用化に至ったことを紹介します。エジソンを通じ、門前町は世界と友好を結ぶまちでもあります。

03_茶文化：江戸時代の先端スポット。“綺麗さび”な空中茶室とは？

松花堂昭乗の作った「空中茶室」閑雲軒と、八幡の茶文化について紹介しています。

男山にあった瀧本坊の住職・松花堂昭乗は、友人の武家茶人・小堀遠州とともに、瀧本坊に茶室「閑雲軒」を作りました。懸け造りで空中に浮かぶような画期的な茶室で、千利休の“わびさび”から発展し、華やかさを加えた「綺麗さび」の時代を象徴するもので、最先端の文化サロンとなっていました。

現在、市内でもその心が受け継がれているとして、松花堂庭園の茶室「松隠」、泰勝寺の閑雲軒などとともに、八幡産てん茶からつくるブランド抹茶「浜乃風」を紹介しています。

04_松花堂弁当：茶の湯のこころが宿る、松花堂弁当ができるまで

近代以降、本市の人々が松花堂昭乗を慕い行った様々な取組が、松花堂弁当の誕生につながったことを語っています。

草庵「松花堂」と泉坊書院を現在の地に移したことを契機に、八幡のあちこちで風雅の人を偲ぶ茶会が開かれ、茶席で出されたのが昭乗愛用と伝わる四つ切り箱でした。日本料理「吉兆」創業者の湯木貞一氏がこれと出合い、会席料理の器へと改良を重ね、松花堂弁当と名付けられました。

05_３つの川：模型飛行器でいざ検索、３つの川が出会うネイチャースポット

飛行神社を建てた二宮忠八。ライト兄弟より 13 年も早く飛行原理を発案した忠八の物語を語りながら、忠八が玉虫型飛行器に乗り、３つの川の歴史や魅力を紹介します。

三川合流部の江戸時代以前の歴史や、河川敷の茶畑での浜茶の栽培の説明、流れ橋のしくみも説明します。サイクリングロードの魅力も発信しています。

②その他の物語

物語１_大あらし　（八幡小学校と善法律寺）

今から 100 年近く前の 1934（昭和９）年、テレビもラジオも電話もなかった時代のこと。子どもたちは大風のなか、いつものように学校に行った。すさまじい大風が吹き荒れ、子どもたちが怖い、怖いと泣き叫ぶなか、校長先生が２階の教室にいた子どもたちを講堂に避難させようと集めていたところ、木造 2 階建ての新校舎があとかたもなく倒れてしまった。多くの子どもたちが柱や壁土で生き埋めになった。この世の生き地獄のような騒ぎの中、校長先生も柱の下敷きになり亡くなっていた。男の先生は自分の子どもの叫び声を聞きながらも多くの子どもたちを助け、あとで亡くなった自分の子と対面し泣き崩れた。

善法律寺には子どもたちと校長先生の慰霊碑があり、毎年慰霊のお参りを続けている。

物語２_女郎花　（頼風塚・女郎花塚）

男山に小野頼風という男が住んでいた。京に深い契りを結んでいた女がいたが、いつしか二人の間には秋風が吹いていた。京の女が思いあまって男を訪ねてくると、他の女と暮らしていることを知り、悲しみのあまり泪川に身を投げて死んでしまった。やがて、女が脱ぎ捨てた山吹重ねの衣が朽ち、そこから女郎花の花が咲いた。頼風が花に近寄ると、花は恨んだ風情をたたえながら頼風を嫌うようになびくので、「こんなにも私を恨んで死んだのか」と自責の念にかられ、放生川に身を投げた。人々はこれを哀れみ、二人の塚を築いたという。頼風塚の周りに生い茂っている葦は「片葉の葦」と呼ばれ、女郎花塚の方にしか葉がついておらず、その葉が女郎花塚に向かい今も「恋しい、恋しい」となびいているのだという。

平安時代初期の男山を舞台にした悲恋の物語は、女郎花と結びついて能の有名な演目となっている。

やわた人形劇連絡会による「おみなえし」

物語３_鯉ものがたり　（放生川と紙鯉）

昔、働き者で評判の情け深い母と息子がいた。ある日、母が突然重い病に倒れ、寝込んでしまった。優しい息子は看病するが一向によくならず、困り果てていると、「鯉の生き血を飲ませると重い病が良くなる」という噂を聞いた。ところが八幡では神様をおまつりしており昔から「殺生禁断」、生き物を捕ってはならない。しかし、母を見殺しには出来ず、息子は放生川に入り緋鯉をつかみ、その生き血を母親に飲ませた。母親は見る見る元気になったが、息子は殺生禁断の法を破った。喜んで罰を受けようと、お役人の前に出たが、そのけなげさに心を打たれたお役人は罰することをしなかったとのことだ。

長患いの時に、生きた鯉の代わりに紙で作った真鯉と緋鯉を枕の下に敷くと、病が治るという言い伝えが残った。この風習はいつの間にか床ずれが治るという言い伝えに変わり、今も石清水八幡宮のおみやげのひとつとなっている。

物語４_地獄をみたこえもんさん　（下奈良の石碑）

昔、恐いもの知らずの“こえもん”という若い百姓がいた。天真爛漫なわんぱくものだったが、月一度のお寺参りにはおとなしく父に付いていき、曼荼羅や地獄絵を見て怖がっていたが人には優しい若者だった。ある時、流行病にかかって亡くなり、通夜が行われた。

その頃、こえもんさんは死への旅路に向っており、辿り着いたところは何と地獄の底だった。閻魔さまや鬼が目を見開き、炎の中や針の山から叫び声がし、目を覆うような凄まじい地獄図そのままだった。いくつもの地獄に連れていかれ、最後に熱湯地獄に至り、熱湯に放り込まれ、心から助けを求めて一心不乱に「南無阿弥陀仏」を唱えた。するとお地蔵さんに大きな手ですくわれた。

通夜の最中、こえもんさんは、突然「熱い、熱い」と言って息を吹き返し、背中には不思議な梵字が書かれていた。これはお地蔵さんが娑婆へ帰る印をつけてくれたものだった。

こえもんさんはこの話を語り伝え、信心深く生涯を過ごした。下奈良の墓地には、西面に地獄の体験談や戒めがびっしりと書かれた道しるべが今も残されている。

物語５_牛まわし　（岩田の田植え）

昔は田起こしから苗の植え付けまで、みな牛を使っていた。ほとんどのお百姓が「組み牛」といって３，４軒で一頭を回し飼いしていた。与作どん、太一どん、茂兵衛どんの組で飼われていた“マツ”は、大事にされ、体もピカピカだった。マツは牛まわしを楽しみにしていた。牛まわしは、旧の端午の節句に神社に牛の無病息災を祈りお参りするお祭りで、それぞれの組ごとに牛を着飾って競い合う。

牛まわしが終わると、田植えで急に忙しくなる。マツはいろんな道具を体につけられたが、草をたくさんもらい、元気いっぱい仕事をした。大事な働き手なのに、粗末に扱われる牛もいたが、マツは大事にされた。田植えや麦刈りが終わると、仕事も終わったというのに毎日うまいものを食べさせてもらったが、与作どんたちは口数も少なくなり淋しそうだった。秋には身を切られるようなマツとの別れが待っていたからだ。悲しいけれど、お百姓にとっては牛の売り買いは唯一の潤いだったのだ。

物語６_岩田帯　（岩田の綿栽培）

昔、岩田は綿の産地だった。まっ白い綿の花が一面に咲くと、なんともいえない高貴さが漂う美しい風景が広がった。ある時、たくさんのお供を従えた綿みたいに白い美しい女の方が岩田を通られた。その際急に産気づき、一行は慌てふためいた。そこに岩田の村人が近くの小屋を用意し、上等の綿を敷き詰めて寝かせたところ、しばらくして大層元気な赤子の声がした。珍しいほど安産だったそうだ。これ以来、岩田では縁起を担ぎ、取れた綿を紡いで布を織り、年と名前を書いて厄除けにお宮さんの鈴に結わえたり、この布をもらい受けて身ごもった人のお腹に巻いたとのことである。

物語７_行基さん　（橋本にあった山崎橋）

今はもう跡形もないが、橋本に「山崎橋」という橋が架かっていた。この橋を架けた人は、諸国を行脚する行基さんであった。行基さんは、あらゆる人が安心してこの川を渡れるよう、我を忘れて、日夜、一生懸命に橋づくりに精を出したそうだ。人々はこの行基さんの姿に心を打たれ、行基さんを助けて皆の力で立派な橋を造りあげたとのことである。

物語８_庵主さんとどろ松ちゃん　（志水のどろ松大明神）

昔むかし、もみじ寺に尼崎から、小さくて豆狸のような庵主さんがやって来た。傍にあった万称寺山（中ノ山墓地）の祠にイタズラ好きの狸が住み着いており、砂や泥を通りかかりの村人にかけるので、「どろ松」と呼ばれていた。

ある日、庵主さんが朝のおつとめをしているとうめき声がする。見ると体中傷だらけのどろ松が倒れていた。イタズラが過ぎてこっぴどくお仕置きされたのだろうと、看病してあげると日に日によくなり、それ以来お寺に住み着いた。庵主さんに可愛がられ、人の情けがわかってきたのか、だんだんイタズラをしなくなり、庵主さんがお祈りするときは横にちょこんと座っていたそうな。

どろ松が亡くなると、庵主さんはそのみたまを祀り、朝夕拝んでおった。そのうちどろ松の霊力が乗り移り、庵主さんがしていた一文銭占いがピタッと当たると評判になった。噂は京都や大阪に広がり「どろ松様のお狸様」と呼ばれ、「どろ松大明神」の社と鳥居が奉納された。八幡の駅から志水まで、人力車を待つのに順番の札を出さないといけないほど多くの人が訪ねてきたそうな。今でも「どろ松大明神」と一心不乱にお祈りすると、願いが叶うという。

物語９_湯たくさん茶くれん寺　（橋本・湯澤山茶久蓮寺跡）

戦国時代、織田信長が家来の明智光秀に討たれ、その知らせを聞いた豊臣秀吉は、西国から兵を率いて京を目指し、山崎の天王山の下で戦となった。戦のはじまった朝のこと、秀吉方の家来が橋本のある寺にやってきて「戦が済んだら弁当を食べるので、茶をわかしておいてくれ」といった。ところが今度は光秀の家来が来て同じことを頼んだので、どちらの頼みを聞けばよいのか迷い、仕方なくお湯だけを沸かしておいた。戦が終わり、勝った秀吉の軍勢が大勢やって来たが、お寺は茶を用意していない。「お湯を飲んで下され」と申し訳なさそうに差し出すと、勘のいい秀吉いきさつを察して、「この寺はお湯をたくさんくれてお茶をくれんので、これからは湯沢山茶久蓮寺とするがよい」と言ったという。

現在寺はないが、跡地に石碑が建っている。「湯澤山茶久蓮寺」伝説が残る寺は、京都市内や姫路にもあるが、山崎の合戦の舞台に近い橋本であればこそ、この伝説が生まれたのだろう。

物語１０_やわたの屋号

昔、三区の垣内山、吉野垣内付近を「ヤギハマ」といったそうな。昔の八幡は沼地が多くて、荷物の運送に船を使っていた。志水地区の人達が農作物を「ヤギハマ」まで出すのに、それぞれが荷物に思い思いの名前を付けて出したそうな。

「マサジロウさんがまさかり刈って、サクラの木をズボンと切って、チャガマで茶炊いて、カクジで隠してオカマでまま炊いて、大きにゴッチョハン。」

これは志水地区に語り継がれた屋号（カタカナ部分）。他にも面白い屋号が伝わっており、なかには「屋号ナシ」と付けた人もあったとか。当時の人々は屋号で呼び合って親しみを深めていた。

物語１１_巡検道と寝物語　（寝物語国分橋）

東高野街道を八幡市民図書館から南へ 300mほど行くと、左に入る道の角に「巡検道」と刻まれた道標が建っている。巡検道はここを起点とし、幅３mに満たない道が曲がりくねり、東へと延びている。古くはこの道を境として北を久世郡、南を綴喜郡とした。

神原町に建つ碑に書かれた「寝物語古跡国分橋」とは、その昔、郡や村の境を決める際、両方の村から同時に出発し、出会った場所をその境界としたという。しかし、「出発までにはまだ時間があるから、もう少し休もう」とそのまま寝込んでしまい、出発の時刻を過ぎてしまった。そのために領域が減ってしまったというものだ。その碑の前にかかる「かへらずの橋」（国分橋のこと）とともに、江戸時代以前からの伝承にちなんでつけられたものである。

物語１２_洞ヶ峠

峠の名を天下に知らしめたのは、1582（天正 10）年６月 13 日の明智光秀と羽柴秀吉の山崎合戦である。巷説によれば、大和郡山の城主・筒井順慶は、光秀に組するような顔をして洞ヶ峠に出陣し、一方では秀吉のもとに使者を送ってあらかじめ工作を施し、山崎の合戦が秀吉方に有利に展開すると見るや秀吉軍に加わったとのことである。ここから、日和見することを「洞ヶ峠を決め込む」と言うようになった。

実際のところ順慶は、光秀のために軍を動かし、河内へも出陣することになっていたが、６月９日にわかに出陣を延期した。翌日、秀吉が近く上京すると聞くと山城へ出した軍を引き揚げ、11 日には光秀の使者に同心しないことを伝えている。

また、山崎合戦の当日､順慶が参戦したかどうかも疑わしい。信用のおける史料によれば、６月 13 日、織田信孝が順慶に書状で光秀を討つことを命じ、順慶は６月 15 日朝、千人を引き連れて出陣し、醍醐に陣取っていることが分かる。

物語１３_淀屋辰五郎　（ドンドの辻と砧の手水鉢）

江戸時代を代表する天下の豪商、二代目淀屋言当は、松花堂昭乗とともに文化サロンの一員であった。 五代目淀屋辰五郎はその贅沢を咎められ、闕所となり家は取りつぶされ財産は没収された。その墓は神應寺にある。闕所の顛末は近松門左衛門の『淀鯉出世滝徳』として発表され、続いて辰五郎の娘にかかる事件を題材に浄瑠璃『難波丸金鶏』が作られた。

八幡柴座（現在の八幡山柴）にあった辰五郎の邸宅には、愛用していた手水鉢があった。「砧の手水鉢」と呼ばれ、神應寺からの谷水を引いていたと伝わるが、今その手水鉢は松花堂庭園内に移されている。また、筧の中を流れる水の音が「ドンド　ドンド」と聞こえたらしく、筧が埋設された小径は「ドンドの辻」と呼ばれた。

その他の物語は、1984（昭和 59）年から八幡市文化振興会民話部会がまとめた『八幡の昔ばなし』に収載されたものに加え、前計画に掲載された物語のなかから、八幡ストーリーや物語以外の資源に登場しないものを掲載しました。

７）八幡に関係が深い文学作品や芸能の演目

資源名	資源の概要
『蜻蛉日記』	平安時代前期に藤原道綱の母によって書かれた女流日記文学で、954（天暦８）年から 974（天延２）年の出来事が綴られている。下巻にその年の３月の場面で、「八幡の祭り」（＝石清水八幡宮臨時祭）を控えて朝廷が大騒ぎであることや、牛車で祭りの行列を見物に行く様子が書かれている。
『枕草子』	平安時代中期に一条天皇の中宮・定子に仕えた女房・清少納言により執筆された随筆集。124 段に、帝が石清水八幡宮への行幸から帰られる時の振る舞いについて書かれているほか、272 段に「神は松の尾　八幡、この国の帝にておはしましけむこそめでたけれ」とある。
『源氏物語』	平安時代中期に紫式部が創作した長編物語。第 22 帖「玉鬘」には、夕顔の遺児・玉鬘が九州から都へ戻る道中で、最初に石清水八幡宮を訪れ、夕顔に仕えた女房の右近と劇的に再開を果たすという場面がある。また「若菜下」には、明石の女御が生んだ皇子が東宮になった際に住吉大社を参詣するにあたり、すぐれた楽人を石清水や賀茂の臨時祭などで召されるような優れた人の中から選んだ、と書かれている。
『大鏡』	平安時代後期に書かれた歴史物語で、藤原道長の栄華を中心に、文徳天皇から御一条天皇（850（嘉祥３）年から 1025（万寿２）年）までの宮廷の歴史を紀伝体で記している。朱雀院や宇多天皇、醍醐天皇に関する段や、円融院に関して、石清水臨時祭のことが述べられている。
『陸奥話記』	平安時代後期に、陸奥の国で起こった豪族による反乱を政府軍が鎮圧した「前九年の役」（1051～62）の顛末が描かれた軍記物語。前九年合戦の厨川の戦いにおいて、上空に羽ばたいた鳩を見た、鎮守府将軍・陸奥守の源頼義やその子・義家らは石清水を遥拝、すると八幡神の神威により大風が吹き、神火が城柵を焼き滅ぼし、勝利した戦勝譚がある。また、石清水で元服した八幡太郎義家は、弓矢で鎧三領を射抜いたこととから八幡神の化身といわれた。
『小侍従集』	石清水八幡宮第 25 代別当（長官）・紀 光清の娘として生まれ、恋多き前半生を送った歌人・小侍従が、寿永年間（1182～85）に自選した歌集。 　石清水清き流れの末々に　われのみにごる名をすすがばや の句が有名。「待宵小侍従」の異名でも知られ（『平家物語』巻５「月見」の段）、出家後は男山の椿坊、一説に水無瀬山麓の真如院に隠棲したと伝わり、ＪＲ島本駅の東に小侍従の墓と伝える五輪塔がある。
『八幡愚童訓』	鎌倉時代後期に成立した石清水八幡宮の霊験記。蒙古襲来における八幡神の神徳を主題としており、石清水八幡宮の関係者が執筆したと考えられている。異敵の調伏を「三韓征伐」から書き起こし、蒙古襲来時の御家人の戦闘ぶり、八幡宮での叡尊の祈祷による蒙古の退却など、八幡神の威光を強調して書かれている。当時広く流布し、八幡信仰が全国に広まったといわれる。
『とはずがたり』	鎌倉時代中期の後深草院の寵愛を受けた宮廷女性の二条が書いた自伝。中世の女流日記を代表する作品のひとつで、1306（徳治１）年頃成立といわれる。後深草院はじめ宮廷での愛欲の日々の果てに出家した二条は巡礼の旅で思いがけず後深草院と石清水八幡宮で再会する。二条が猪鼻坂を登って社前に参り、馬場殿の御所に宿泊していた後深草院が招き入れる場面が描かれる。
『徒然草』	鎌倉時代末期に兼好法師によって書かれた随筆。第 52 段の、仁和寺の法師が石清水八幡宮に参詣する話が有名。仁和寺の年老いた僧が、念願であった石清水八幡宮へ参詣し、男山の山上に本殿があるのを知らず、麓にある極楽寺や高良神社を参拝して帰り、友人に、「聞きしに及ぶ尊さでした。それにしても、人々が山へ登るのは何かあったのだろうかと思いましたが、私の目的は神に参拝することなので山までは見ませんでした」と語った、というもの。ちょっとしたことにも先達が必要、と兼好法師は結んでいる。八幡市ではこの逸話を活かして 2017（平成 29）年度から「徒然草エッセイ大賞」を創設。 このほか第 213 段にも「八幡の御幸」が登場する。

資源名	資源の概要
『太平記』	室町時代の軍記物語。後醍醐天皇が足利尊氏や楠木正成らを随兵とした石清水行幸が書かれ、この内容は南北朝時代の歴史物語『増鏡』の中でも記載されている。また、後醍醐天皇が隠岐配流の途中、上洛・帰還を祈念して、男山を遥拝したことが見える（慶長本）。父・後宇多院と等しく八幡信仰は篤く、石清水行幸では、護国寺供養願文を奉納、八幡大菩薩と合体した、百王の祖・応神天皇の加護を祈願したことが書かれている。また、1352（正平７）年には、「八幡合戦」について書かれており、南朝方の後村上天皇らが石清水八幡宮周辺に立てこもり、洞ヶ峠に布陣した足利義詮を大将とする室町幕府との戦闘が市内で繰り広げられた。
『日本永代蔵』	江戸時代中期に井原西鶴によって描かれた浮世草子。石清水安居の頭役をつとめた淀川廻船の代官・河村氏が、目出度いことが山のようにおこったと書かれている。おそらく『八幡愚童訓』の淀問丸の有徳譚を下敷きにしていたものと考えられる。
『蘆刈』	明治末年から戦前、戦後にかけ活躍した日本を代表する小説家・谷崎潤一郎の短編小説。「橋本の渡し」が小説の主な舞台となっており、淀川の中州で月夜に語り合う場面は風光明媚な景観を美しく描写していることで知られる。 男山展望台には『蘆刈』の一節を刻んだ文学碑がある。
『弓八幡 （ゆみやわた）』（能）	世阿弥によって作られた能の演目。後宇多院の使いが石清水八幡宮に参詣すると、袋に包んだ弓をかかげた老人と、若い男と出会う。老人は桑の弓、蓬の矢で世を治めた物語を語り、自分こそが八幡神の末社・高良の神であると名乗ると姿を消す。その後、音楽が聞こえて高良の神が現れ、颯爽と舞を舞いながら、神代から続く八幡神の神徳を讃え、平和を言祝ぐ。「弓八幡」は、戦わずして世を治めていることを説いている。
『女郎花 （おみなめし）』（能）	『古今和歌集序聞集』に記された女郎花の説話〈P.70　②その他の物語「物語２_女郎花」　参照〉を典拠とする能の演目で、作者は不明。田楽の「女郎花」が存在していたことが世阿弥によって書き残されている。
『放生川』（能）	世阿弥が作った能の名作。石清水八幡宮の放生会を主題としたもので、鹿島の神職・筑波某が訪れた八幡の里で、魚を入れた籠を持つ老人に会い、殺生を咎めると、今日は生けるを放つ放生会であることを語りその利益を説き消え失せる。やがて現れた武内宿禰の神が現れ、太平の御代を寿ぎ舞を舞う。
『双蝶々曲輪日記』 引窓の段 （浄瑠璃・歌舞伎）	1749（寛延２）年よりたびたび上演された。引窓とは、紐を引いて開閉する天窓のこと。母が後妻に入った南氏の邸宅で、追われる実の息子と、捕縛の役目を負いながら葛藤の末に見逃す義理の息子の人情を描いたストーリーは、放生会（現在の勅祭・石清水祭）が行われた八幡市八幡高坊周辺にあった家をモデルに着想されたと伝わる。
『御神楽』	P.68　５）まつり・イベントなどの資源　「御神楽」　参照

8）八幡が発祥・起源・由来のもの、八幡産として全国的に有名だったもの

資源名	資源の概要
松花堂弁当	P.69　６）物語などの資源　①八幡ストーリー＆ガイド　「04_松花堂弁当」　参照
八幡巻き	P.66　４）特産品・土産物・体験などの資源　「八幡巻き」　参照
岩田帯	P.66　４）特産品・土産物・体験などの資源　「岩田帯」　参照
紙鯉	P.66　４）特産品・土産物・体験などの資源　「紙鯉」　参照
目釘竹	刀身を柄に固定するための留め具を「目釘」といい、江戸時代には硬くてしなやかな竹が留め具として珍重され、徳川将軍家に献上されていた。男山の呉竹（中国伝来の硬い竹）は、八幡の特産として有名で、石清水八幡宮本殿の目釘の猿や、エジソンへフィラメントの材料として紹介されたことにもつながると考えられる。
菖蒲革	鹿革などを濃い緑色に染めたものに白地で模様を抜いた染革。音が尚武・勝負に通じることから、甲冑や武具に戦勝や厄除けの護符として用いられた。戦国時代には八幡の境内神人が制作して、祠官や所司(坊人)の檀那の武将に、巻数・香水・弓懸・五明(扇)・牛玉宝印などとともに贈与していた。戦国武将が好んで用いたのは、八幡大菩薩が武神と認知されていたことによるとみられ、江戸時代には徳川将軍家にも献上され、八幡の特産として知られていた。

9）八幡が一番のもの

資源名	資源の概要
天皇の行幸・院の御幸の数	天皇の行幸・院の御幸の数が石清水八幡宮は 240 余回で全国 1 位（円融天皇から明治天皇まで）。
放生会（勅祭・石清水祭）の格	石清水放生会（石清水祭）は清和天皇の 863（貞観５)年、旧暦 8 月 15 日に、生きとし生けるものの平安と幸福を願う祭儀として始められた。勅会（祭）として斎行されたのは 948（天暦２）年の勅使御差遣からとされている。1070（延久２）年には太政官勤務の最上位たる「上卿」が勅使を兼ね、参議以下朝廷の諸官を率いて参向し、神輿の渡御を行わせるなど、益々荘厳の度を加えており、朝廷主催（勅会）の最高権威の勅祭であったとされる。
航海記念塔（石清水八幡宮五輪塔）の大きさ	高さ 6.08m、幅 2.44mで、中世の五輪塔としては日本最大。 〈P.62　「航海記念塔（石清水八幡宮五輪塔）」　参照〉
石清水八幡宮参道ケーブルの橋梁高	途中にかかる男山橋梁の高さは 43m で、全国の鋼索鉄道で日本一の高さを誇る。 〈P.64　「石清水八幡宮参道ケーブル」　参照〉
流れ橋の長さ	全長 356.5m、幅３mの日本最長級の木造橋。 〈P.63　「流れ橋（上津屋橋）」　参照〉
日本で最初の神仏同体	「八幡信仰」は融合の宗教で、日本で最初の神仏同体といわれる。八幡神が出家して大菩薩になり、応神天皇と合体し、平安時代末期には阿弥陀如来と習合した。神と仏と人が融合する八幡神（八幡大菩薩）は、石清水に遷座し、石清水の地で伊勢に次ぐ天下の宗廟の座を獲得した。
全国最大の荘園領主	石清水八幡宮は、全国最大の荘園領主・別宮の本主であり、神社としては全国最大。東北は福島県いわき市飯野八幡宮、南西は鹿児島県大隅正八幡宮まで、多い時で全国に 400 ヵ所程度の荘園があった。石清水の別宮 70 余ヵ所、主に祭祀料や祈祷料のための所領であった。
「梁塵秘抄」最初の神社歌	平安時代後期に後白河天皇によって編纂された歌謡「今様（いまよう)」をまとめた歌謡集で、二句神歌の神社歌の最初に「石清水五首」（実数六首）がある。

資源名	資源の概要
蒙古襲来時の祈祷の数	鎌倉時代のモンゴル帝国による蒙古襲来時に、参籠祈祷を行ったのは石清水八幡宮が最多。律宗の僧である叡尊の自伝『感身学正記』では、1281（弘安４）年の蒙古襲来時には、法弟約 300 人を引き連れ石清水八幡宮に参詣し、総勢約 560 人の僧が国家鎮護の祈祷を行ったと記されている。
石清水八幡宮の本社は最古で最大の八幡造	現在の本社は、徳川３代将軍である徳川家光公の「公儀普請（幕府の総力で行う普請）」により修造され、1634（寛永 11）年に完成したものである。本社は国内で現存する最古で最大の八幡造（はちまんづくり）の神社建築であり、構成する 10 棟の建造物と棟札３枚が国宝に指定されている。また、鎌倉時代の高僧で時宗の開祖である一遍上人の諸国遊行と布教の生涯を描いた伝記絵巻『一遍聖絵』にも石清水八幡宮の古絵図が描かれている。
徳川家康の文書の数	徳川家康は、八幡境内の寺社をはじめ神人・農民にまで、知行を認める文書を発給した。関ケ原の戦いの４カ月前、神職らに宛て慶長５年５月 25 日付けの朱印状 361 通が発給されたことを記録した文書が見つかっており、同日に同一地域に出した朱印状の数としては最多。その他にも発給された朱印状がすでに知られており、八幡は家康朱印状が最も多く出された街といえる。
エジソンの白熱電球に使われた真竹「八幡竹」のフィラメント	エジソンはフィラメントに使用する繊維が太く丈夫な「究極の竹」を求め、世界中に研究員を派遣し実験を繰り返した。その最も長持ちのする「究極の竹」として使用されたのが京都・男山周辺の真竹。この竹を使用した電球は平均 1,000 時間以上も輝き続けたとされる。現在の「エジソン記念碑」は、1984（昭和 59）年の記念碑建立 50 年にデザインを一新し建て替えられたものである。

作成にあたっては、鍛代敏雄氏（東北福祉大学教授、石清水八幡宮研究所主任研究員）にご協力いただきました。

八幡市観光基本計画

令和６年３月

発行：八幡市建設産業部産業振興室商工観光課

〒614-8501　京都府八幡市八幡園内 75

TEL：075-983-1111(代表)

URL：https://www.city.yawata.kyoto.jp